

朝来市こども計画策定に係る 朝来市こども・若者意識調査

調査結果報告書

令和8年4月
朝来市

目 次

1 調査概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 回答者数等	1
(5) アンケート項目一覧表	2
2 アンケートの結果	4
(1) 回答者属性	4
(2) こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画	12
(3) 結婚・出会いについて	26
(4) 配慮を必要とするこどもの支援について	31
(5) 居場所について	42
(6) こども・子育て支援について	54
(7) 働き方・ジェンダー平等について	57
(8) 全般について	61
3 〔参考〕 アンケート依頼文、アンケート設問項目	85

1 調査概要

(1) 目的

「朝来市こども計画」（計画期間：令和9年度～令和11年度）を策定するにあたり、こどもの状況やニーズを的確に踏まえた実効性のある計画につなげるために、対象となる子ども・若者の現状や意見等を把握し、計画に反映させることを目的としてアンケートを実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

	調査対象		調査方法
学校 アンケート	市内小学校9校	小学生 4～6年生 全児童	学校配布 Web 回答
	市内中学校4校	中学生 1～3年生 全生徒	学校配布 Web 回答
	市内高等学校2校	高校生 1～3年生 全生徒	学校配布 Web 回答
市民 アンケート	無作為抽出した16歳から39歳までの市民2,000人 (年齢は令和8年3月31日現在の年齢)		郵送配布 Web 回答

(3) 調査期間

令和7年12月～令和8年1月

(4) 回答者数等

種類		配布数	回答数(N) (※2)	回答率
学校アンケート	小学生	656	649	98.9%
	中学生	728	655	90.0%
	高校生	333	249	74.8%
市民アンケート (※1)	16～39歳	2,000	344	17.2%

※1 市民アンケートについては、「2 アンケート結果」の(2)からは年代を「16～18歳」「19～29歳」「30～39歳」「答えたくない」に分けて分析を行いました。

※2 本報告書では全体の回答数を「N」（大文字）、年代別や各属性など内訳の回答数を「n」（小文字）と表記しています。

(5) アンケート項目一覧表

学校アンケート（小学生、中学生、高校生）および市民アンケートは、対象者に合わせて設問内容変更して実施しました。対象者別の設問項目一覧は以下のとおりです。

項目	設問	学校アンケート			市民 アンケート
		小学生	中学生	高校生	
(1) 回答者属性	①性別	○	○	○	○
	②年齢と学年	○	○	○	○
	③通っている学校	○	○	○	
	④住んでいる地域			○	○
	⑤朝来市の居住歴				○
	⑥職業について				○
	⑦同居している人について	○	○	○	○
(2) こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画	①すべてのこどもには「意見を表明する権利」があるということを知っているか	○	○	○	○
	②大人に自分の意見を言えているか	○	○	○	○
	③自分の意見が大事にされているか	○	○	○	○
	④どんな工夫やルールがあれば、朝来市（市役所）に対して、自分の意見を伝えやすいと思うか		○	○	○
	⑤自由時間や休息を十分に取れているか		○	○	
	⑥自由時間や休息の使い方		○	○	
	⑦学校外の活動で参加したり関わったりしてみたいもの、またはしてみたいもの		○	○	
(3) 結婚・出会いについて	①人生において結婚は重要か			○	○
	②結婚の有無と結婚していない理由について				○
	③結婚に向けた望ましい出会いの場			○	○
(4) 配慮を必要とするこどもの支援について	①「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか	○	○	○	○
	②あなたの状況について	○	○	○	○
	③お世話をしていることで、経験したことがあること	○	○	○	○
	④お世話をしていることで、大変さを感じているか	○	○	○	○
	⑤お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはあるか	○	○	○	○
	⑥現在、悩んだり困っていることはありますか		○	○	

項目	設問	学校アンケート			市民 アンケート
		小学生	中学生	小学生	
(5) 居場所について	①こどもや若者にとっての「居場所」とは、どんなところだ と思うか	○	○	○	○
	②「居場所」と感じるのはどこか	○	○	○	○
	③朝来市にあったらいいと思う「居場所」	○	○	○	○
	④③の「居場所」までどのくらいの距離なら自分自身で移動 して行きたいか	○	○	○	
	⑤どんな体験活動・交流の場に参加したいか	○	○	○	
(6) 子育てについて	①理想とする（可能なら持ちたいと思う）お子さんの数は、 今いるお子さんも含め、全部で何人か				○
	②今後、理想とする数のお子さんを持てると思うか				○
	③理想とする数のお子さんを持てそうにない、または持つつ もりがないと思う理由				○
(7) 働き方・ジェンダー平等について	①職場では、育児休業制度や子育てをしながら働くことがで きる制度が整っていると思うか				○
	②職場では、育児休業を取得したり、子育てをしながら働く ことができる環境か				○
	③育児休業の取得をしたり、子育てをしながら働くことがき る環境だとは思わない理由				○
	④地域等の活動で、次のことで負担を感じたことがあるか				○
(8) 全般について	①現在、どの程度幸せだと感じているか	○	○	○	○
	②6つの項目について、どのように感じているか	○	○	○	○
	③朝来市はこどもに優しいまちだと感じるか	○	○	○	○
	④こどもに優しいまちだと感じる条件はなにか		○	○	○
	⑤まわりの大人の人に対して言いたいことがあれば、自由に 書いてください	○	○	○	○

2 アンケートの結果

(1) 回答者属性

① 性別（単一回答）

<学校アンケート>

小学生は男性が 49.5%、女性が 48.8%、その他が 1.7%。中学生は男性が 51.5%、女性は 46.1%、その他が 2.4%。高校生は男性が 45.0%、女性は 52.2%、その他が 2.8%。男女比はほぼ同じ（差異最大でも 7.2 ポイント）である。

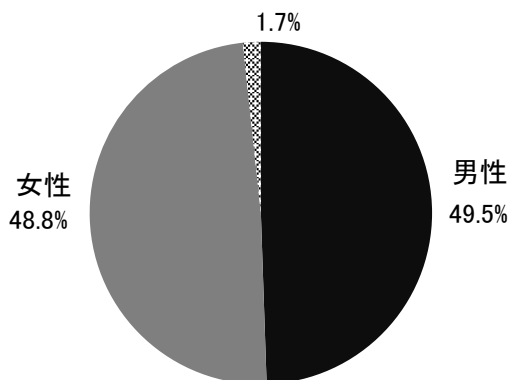
<市民アンケート>

市民アンケートは男性が 41.6%、女性は 56.7%、その他は 1.7%。女性が 15.1 ポイント多い。

【学校アンケート：小学生】

N=649

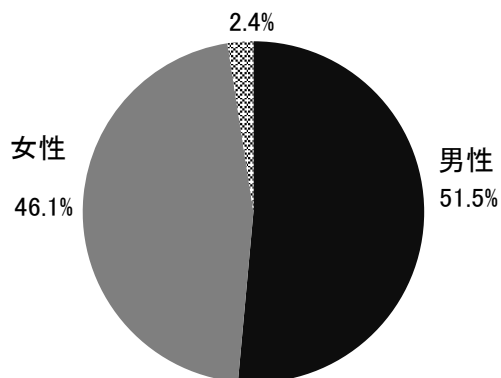
その他(どちらともいえない・わからない・
答えたくない)



【学校アンケート：中学生】

N=655

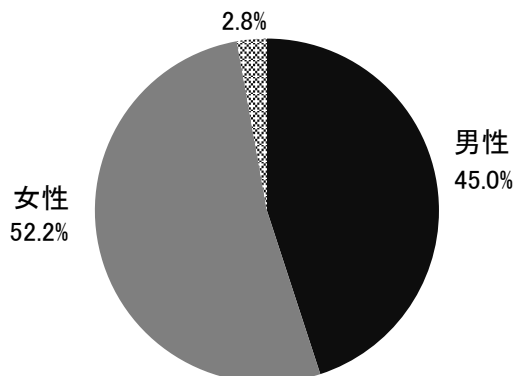
その他(どちらともいえない・わからない・
答えたくない)



【学校アンケート：高校生】

N=249

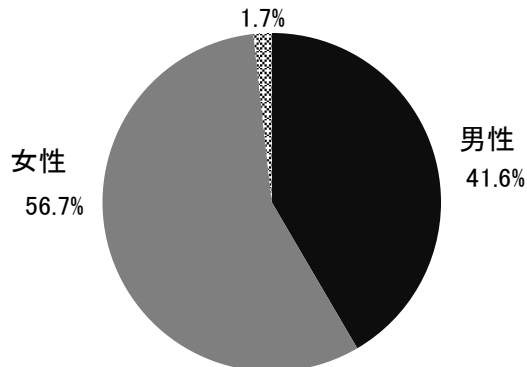
その他(どちらともいえない・わからない・
答えたくない)



【市民アンケート】

N=344

その他(どちらともいえない・わからない・
答えたくない)



② 年齢と学年（単一回答）

＜学校アンケート＞

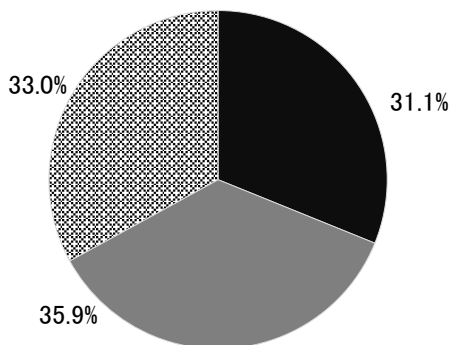
令和7年12月1日現在の学年を回答した。小学生は4年生が31.1%、5年生が35.9%、6年生が33.0%となった。中学生は1年生が31.8%、2年生が34.2%、3年生が34.0%となった。高校生は1年生が32.1%、2年生が35.3%、3年生が32.5%となり、学年ごとの偏りは少なく、概ね均等な割合となっている。

＜市民アンケート＞

令和8年3月31日現在の年齢を回答した。16～18歳が9.3%、19～22歳が15.4%、23～24歳が5.8%、25～29歳が16.0%、30～34歳が22.7%、35～39歳が29.7%、「答えたくない」が1.2%となった。30代（30～34歳、35～39歳）が合わせて52.4%となり、全体の半数以上を占めて最も多くなっている。

【学校アンケート：小学生】

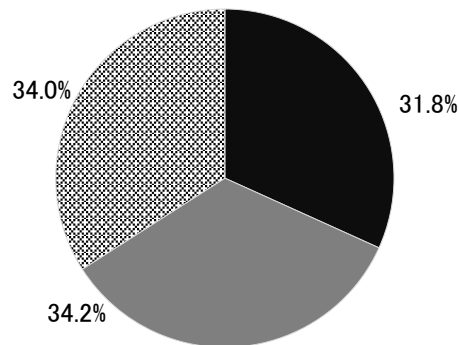
N=649



■ 4年生 ■ 5年生 ※ 6年生

【学校アンケート：中学生】

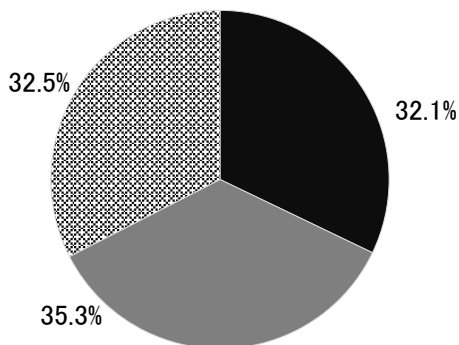
N=655



■ 1年生 ■ 2年生 ※ 3年生

【学校アンケート：高校生】

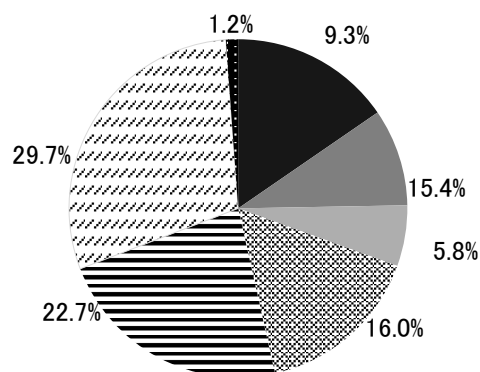
N=249



■ 1年生 ■ 2年生 ※ 3年生

【市民アンケート】

N=344



■ 16～18歳 ■ 19～22歳 ■ 23～24歳
※ 25～29歳 = 30～34歳 ※ 35～39歳
■ 答えたくない

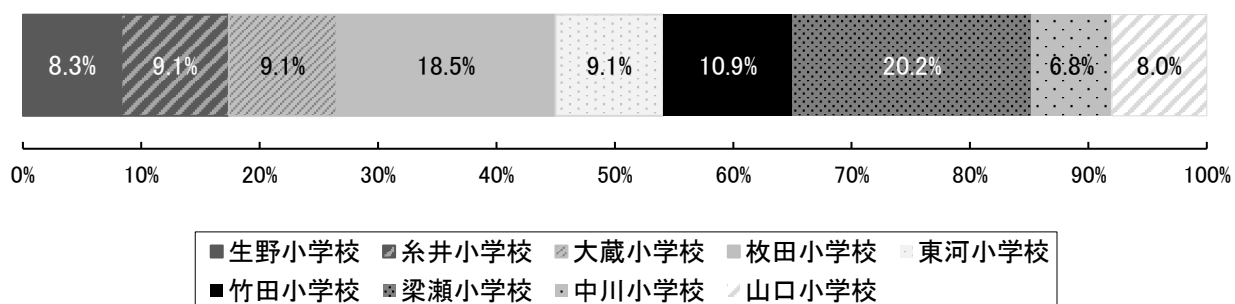
③ 通っている学校（単一回答）

<学校アンケート>

回答割合は、小学校、中学校及び高等学校の児童生徒数の規模を反映した結果となった。小学生については、梁瀬小学校が最も多く 20.2%、次いで枚田小学校が 18.5%、竹田小学校が 10.9%であった。中学生については、和田山中学校が過半数を占め 54.8%、梁瀬中学校が 18.9%、朝来中学校が 18.5%となった。高校生については、生野高校が 41.8%、和田山高校が 58.2%であった。

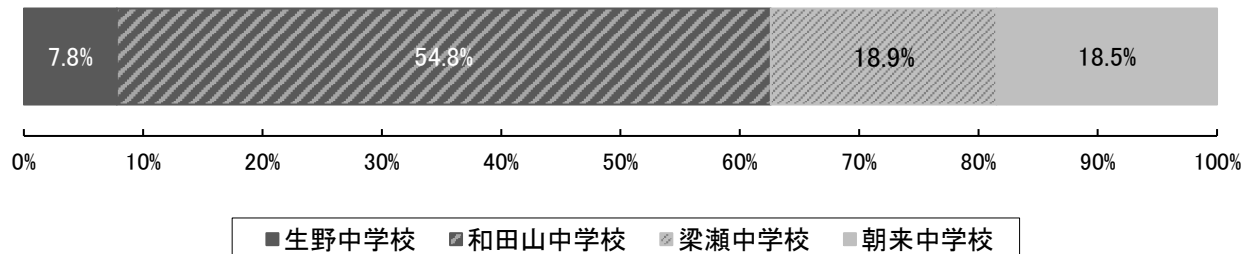
【小学生】

N=649



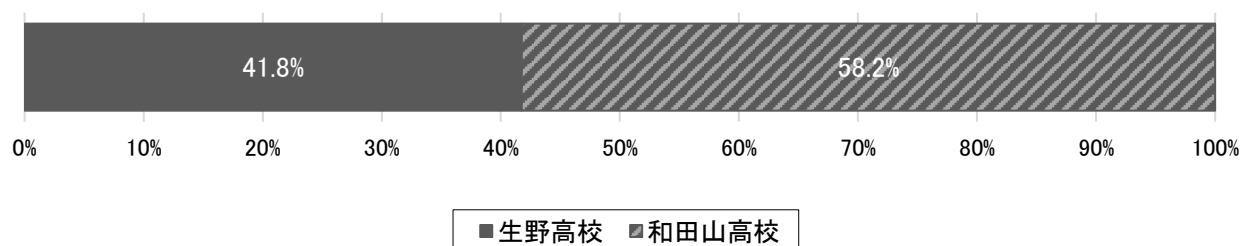
【中学生】

N=655



【高校生】

N=249



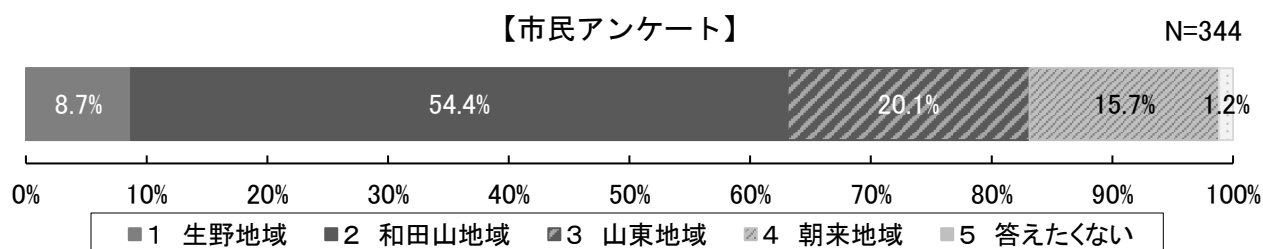
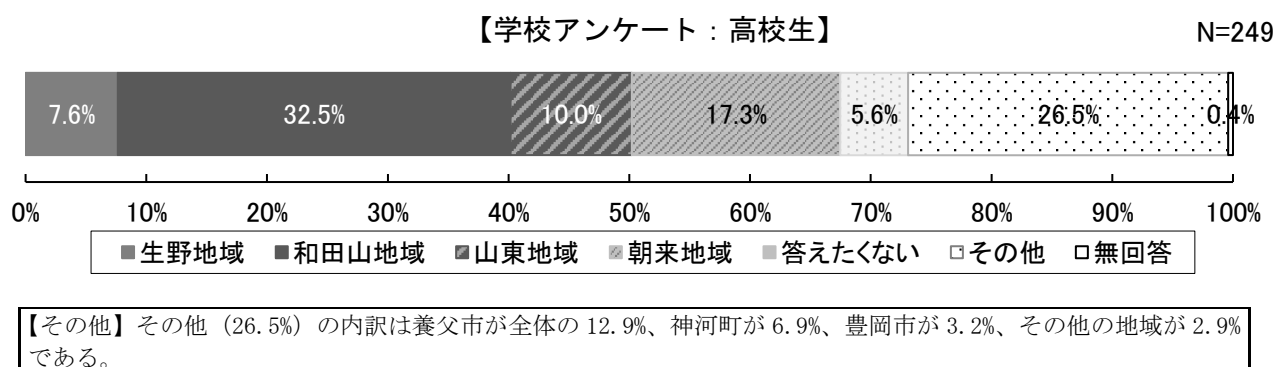
④ 住んでいる地域（単一回答）

<学校アンケート>

高校生は和田山地域が最も多く 32.5%、次いで朝来地域が 17.3%、山東地域が 10.0%であった。なお、「その他」が 26.5%と高い割合となっているのは、高校単位でアンケートを実施したことにより、朝来市外から通学している高校生が含まれているためである。

<市民アンケート>

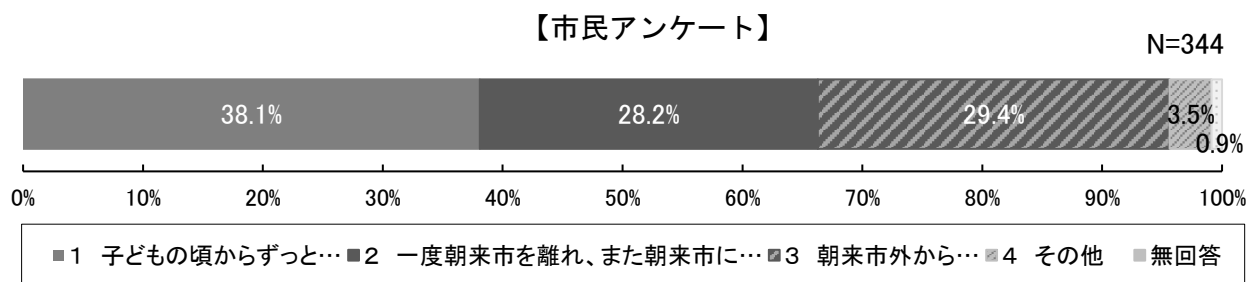
和田山地域が過半数を占めて最も多く 54.4%、次いで山東地域が 20.1%、朝来地域が 15.7%であった。



⑤ 朝来市の居住歴（単一回答）

＜市民アンケート＞

「子どもの頃からずっと朝来市に住んでいる」が最も多く 38.1%、次いで「朝来市外から移住してきた（I ターン）」が 29.4%、「一度朝来市を離れ、また朝来市に戻ってきて住んでいる（U ターン）」が 28.2%であった。



【その他（一部抜粋）】 J ターン

⑥ 職業について（単一回答）

＜市民アンケート＞

「正規の社員・職員・従業員」が最も多く 45.3%、次いで「高校生」が 15.4%、「パート・アルバイト（学生のアルバイトを除く）」が 11.3%であった。

正規の社員・職員・従業員	45.3%
高校生	15.4%
パート・アルバイト（学生のアルバイトを除く）	11.3%
学生（予備校生など、進学のために勉強している人を含む）	9.0%
派遣社員・契約社員・嘱託	5.5%
自営業・自由業	3.5%
専業主婦・主夫	3.5%
無職（仕事を探している）	2.0%
会社などの役員	1.5%
その他	1.2%
家族従業者・内職	0.9%
無職（仕事を探していない）	0.6%
家事手伝い	0.3%

【その他（一部抜粋）】 育休中、就労支援B型、業務委託

⑦ 同居している人について（複数回答）

＜学校アンケート＞

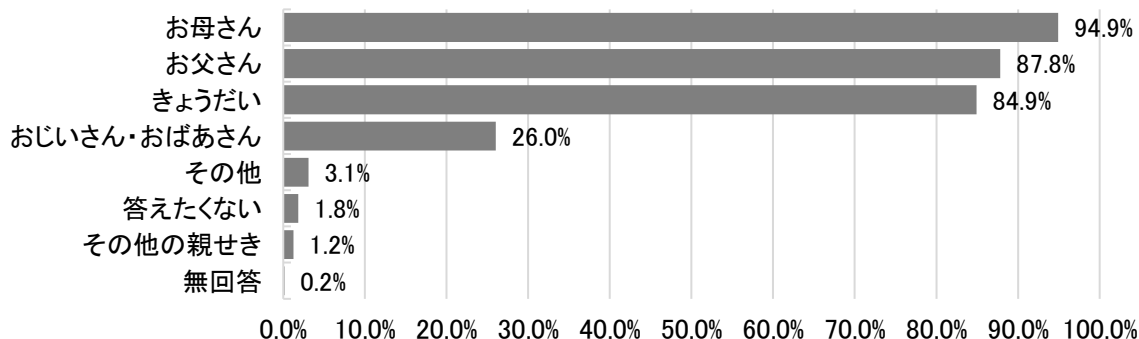
小学生は「お母さん」が最も多く 94.9%、次いで「お父さん」が 87.8%、「きょうだい」が 84.9%であった。中学生は「母」が最も多く 94.4%、次いで「父」が 83.7%、「兄弟姉妹」が 77.1%であった。高校生は「母」が最も多く 90.8%、次いで「父」が 76.3%、「兄弟姉妹」が 68.7%であった。

＜市民アンケート＞

「母」が最も多く 45.6%、次いで「父」が 39.0%、「兄弟姉妹」が 38.7%であった。

【学校アンケート：小学生】

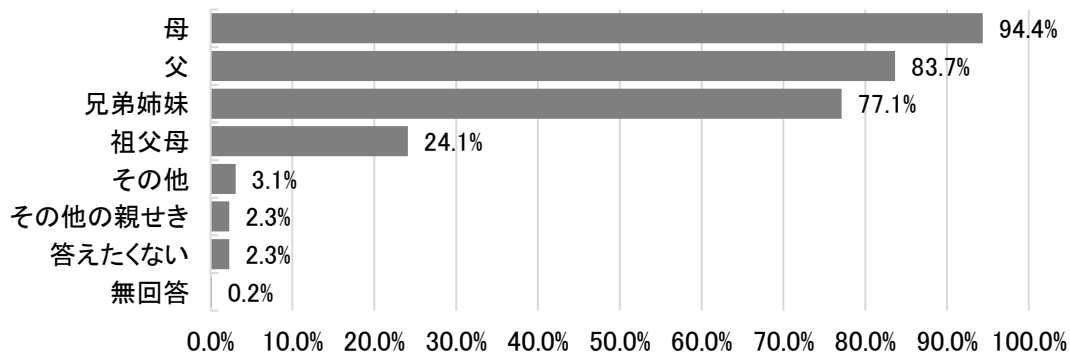
N=649



【その他（一部抜粋）】 ペット、猫、イヌ、ハムスター、文鳥、

【学校アンケート：中学生】

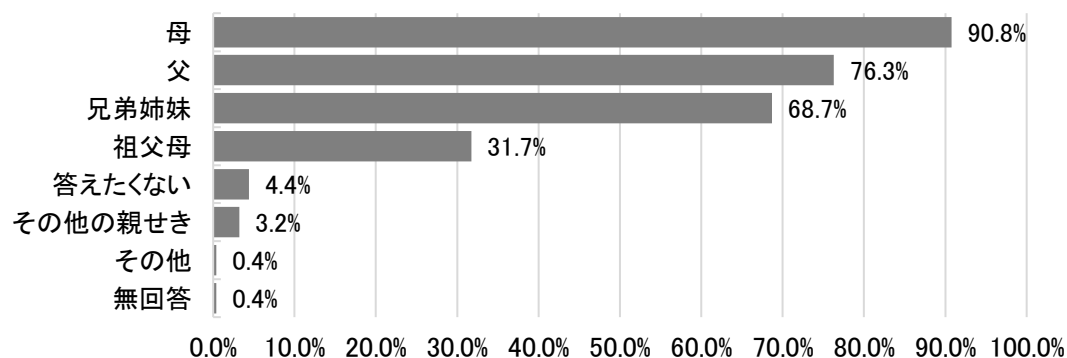
N=655



【その他（一部抜粋）】 カメ、さかな、犬、猫

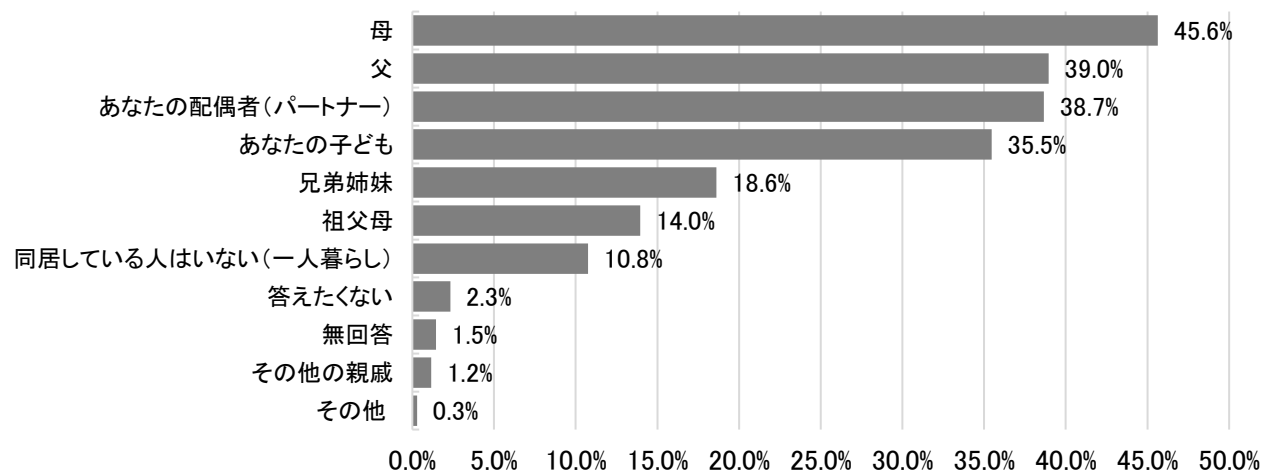
【学校アンケート：高校生】

N=249



【市民アンケート】

N=344



(2) こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画

① すべてのこどもには「意見を表明する権利」があるということを知っているか（単一回答）

「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」と「知らない」を合わせると、どの世代も5割を超える結果となった。また、「意見を表明する権利」について「知っている」と回答したのは3～4割程度にとどまった。

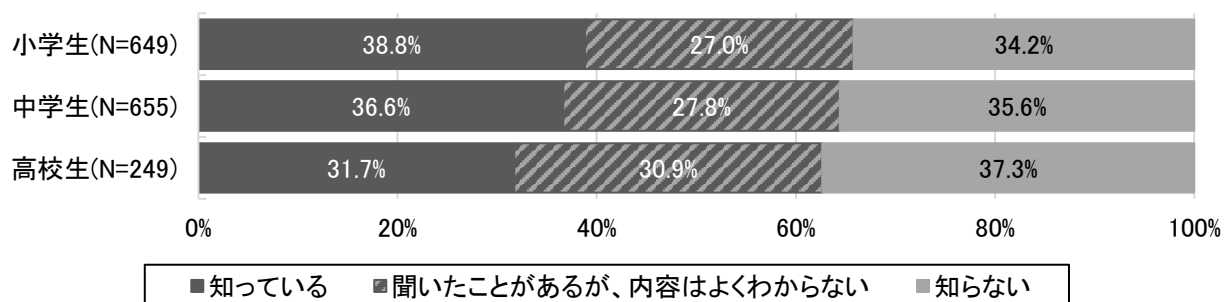
<学校アンケート>

小学生は「知っている」が最も多く38.8%、次いで「知らない」が34.2%、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が27.0%であった。中学生は「知っている」が最も多く36.6%、次いで「知らない」が35.6%、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が27.8%であった。高校生は「知らない」が最も多く37.3%、次いで「知っている」が31.7%、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が30.9%であった。

<市民アンケート>

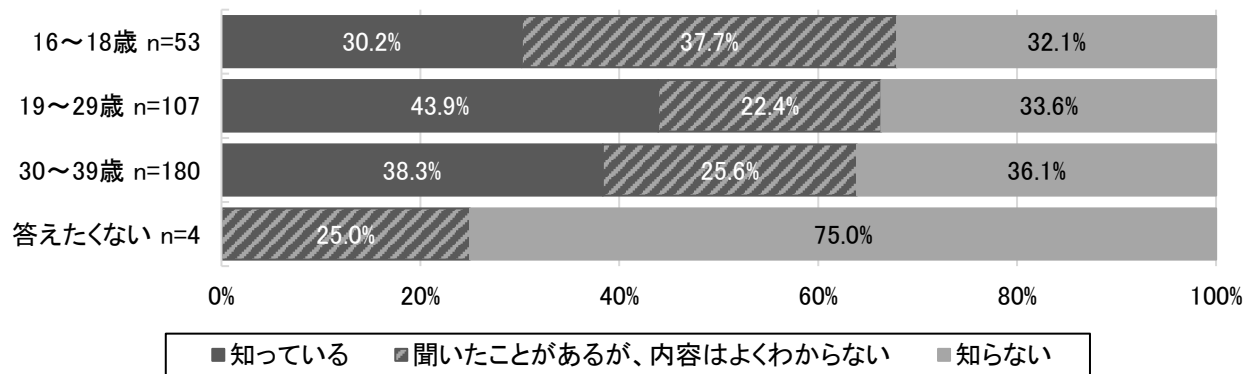
16～18歳は「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が最も多く37.7%、次いで「知らない」が32.1%、「知っている」が30.2%であった。19～29歳は「知っている」が最も多く43.9%、次いで「知らない」が33.6%、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が22.4%であった。30～39歳は「知っている」が最も多く38.3%、次いで「知らない」が36.1%、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が25.6%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】

N=344



② 大人に自分の意見を言えているか（単一回答）

学校アンケートでは小学生、中学生、高校生はともに「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 60%以上であった。一方、市民アンケートでは年代があがるにつれて大人に自分の意見を言えていると思う割合が少なくなる傾向がみられ、30～39 歳では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 5 割を下回る（43.8%）結果となった。

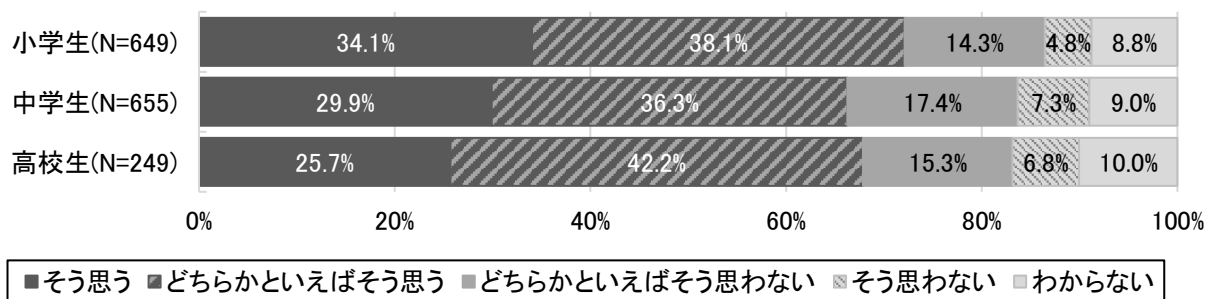
<学校アンケート>

小学生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 38.1%、次いで「そう思う」が 34.1%。「どちらかといえばそう思わない」が 14.3%であった。中学生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 36.3%、次いで「そう思う」が 29.9%、「どちらかといえばそう思わない」が 17.4%であった。高校生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 42.2%、次いで「そう思う」が 25.7%、「どちらかといえばそう思わない」が 15.3%であった。

<市民アンケート>

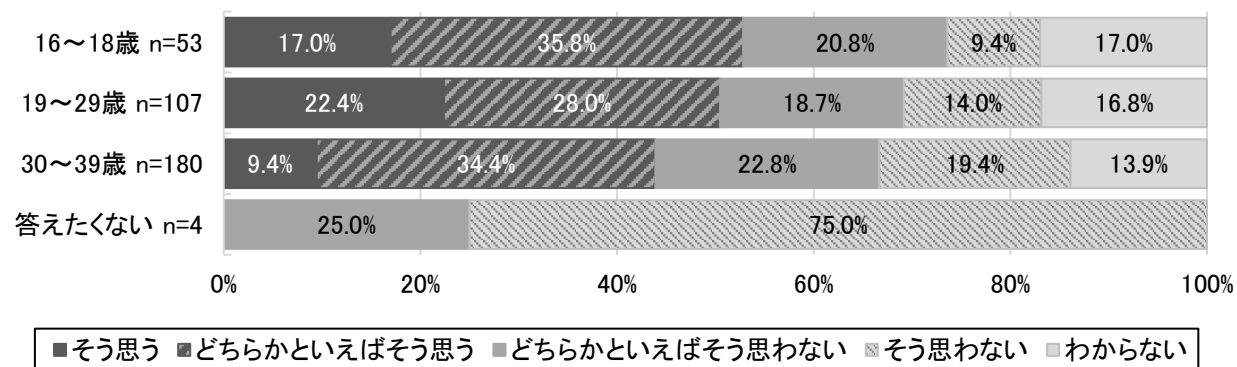
16～18 歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 35.8%、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 20.8%、「そう思う」が 17.0%であった。19～29 歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 28.0%、次いで「そう思う」が 22.4%、「どちらかといえばそう思わない」が 18.7%であった。30～39 歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 34.4%、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 22.8%、「そう思わない」が 19.4%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】

N=344



③ 自分の意見が大事にされているか（単一回答）

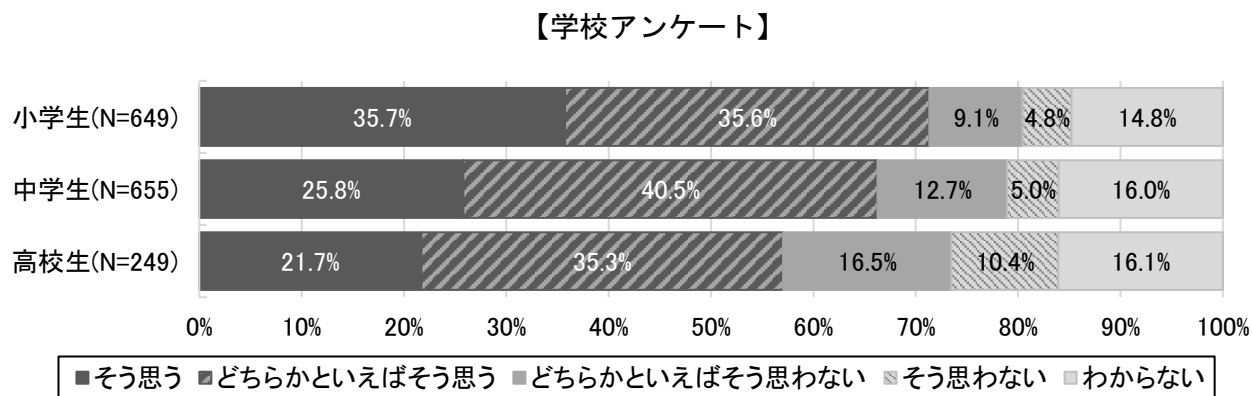
年代があがるにつれて、自分の意見が大事にされていると感じている人が少なくなる傾向がみられた。特に市民アンケートでは「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合が概ね3割以下にとどまった。

<学校アンケート>

小学生は「そう思う」が最も多く35.7%、次いで「どちらかといえばそう思う」が35.6%、「わからない」が14.8%であった。中学生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く40.5%、次いで「そう思う」が25.8%、「わからない」が16.0%であった。高校生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く35.3%、次いで「そう思う」が21.7%、「どちらかといえばそう思わない」が16.5%であった。

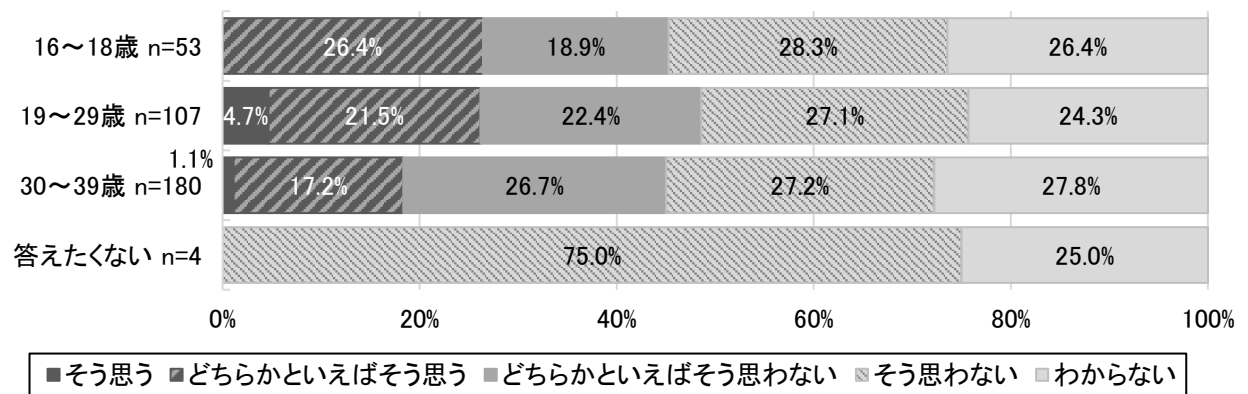
<市民アンケート>

16～18歳は「そう思わない」が最も多く28.3%、次いで「どちらかといえばそう思う」「わからない」がそれぞれ26.4%であった。19～29歳は「そう思わない」が最も多く27.1%、次いで「わからない」が24.3%、「どちらかといえばそう思わない」が22.4%であった。30～39歳は「わからない」が最も多く27.8%、次いで「そう思わない」が27.2%、「どちらかといえばそう思わない」が26.7%であった。



【市民アンケート】

N=344



④ どんな工夫やルールがあれば、朝来市（市役所）に対して、自分の意見を伝えやすいと思うか（複数回答）

全ての対象者において、「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多い結果となった。

＜学校アンケート＞

中学生は「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多く 57.6%、次いで「意見を伝える場に友だちや知り合いと一緒に参加できる」が 38.2%、「伝えた内容が公開されない（秘密にしてくれる）」が 37.3%であった。高校生は「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多く 59.0%、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 22.9%、「伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる」「意見を伝える場に友だちや知り合いと一緒に参加できる」がそれぞれ 18.1%であった。

＜市民アンケート＞

16～18 歳は「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多く 64.2%、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 43.4%、「伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる」が 34.0%であった。19～29 歳は「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多く 57.9%、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 40.2%、「伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる」が 29.0%であった。30～39 歳は「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が最も多く 56.1%、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 45.0%、「ほかの人の意見も知ることができる」が 32.8%であった。

【学校アンケート】	中学生 (N=655)	高校生 (N=249)
匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる	57.6%	59.0%
意見の伝え方や伝える意見のテーマについて前もって学ぶ機会がある	15.1%	8.4%
伝えた意見がどのように扱われるかがわかる	36.5%	22.9%
意見を伝える場に友だちや知り合いと一緒に参加できる	38.2%	18.1%
自分の意見を聴く人がどんな人か前もってわかる	20.6%	14.5%
伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる	31.0%	18.1%
意見を伝えるときに身近な信頼できる人がそばにいる	31.8%	12.0%
ほかの人の意見も知ることができる	32.1%	15.7%
伝えた意見が制度や政策に反映されるところまで関わるができる	13.4%	6.0%
伝えた内容が公開されない（秘密にしてくれる）	37.3%	16.9%
自分の意見をほかの人が代弁してくれる	19.7%	10.4%
意見を伝える場に友だちや知り合いがいない	0.0%	5.2%
謝礼（お礼のお金）がもらえる	26.7%	17.7%
伝えたい意見はない	10.1%	17.7%
その他	0.5%	0.4%
無回答	0.0%	1.6%

【その他（一部抜粋）】 <学校アンケート：中学生> ・意見を言える会があれば言える、意見を言える場をつくる
--

【市民アンケート】	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる	64.2%	57.9%	56.1%	75.0%
意見の伝え方や伝える意見のテーマについて、前もって学ぶ機会がある	18.9%	16.8%	15.0%	25.0%
伝えた意見がどのように扱われるかがわかる	43.4%	40.2%	45.0%	50.0%
意見を伝える場に、友だちや知り合いと一緒に参加できる	18.9%	12.1%	11.1%	0.0%
自分の意見を聴く人がどんな人か、前もってわかる	18.9%	15.0%	21.1%	0.0%
伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる	34.0%	29.0%	31.1%	0.0%
意見を伝えるときに、身近な信頼できる人がそばにいる	20.8%	9.3%	13.9%	0.0%
ほかの人の意見も知ることができる	30.2%	25.2%	32.8%	25.0%
伝えた意見が制度や政策に反映されるところまで関わるができる	18.9%	15.0%	18.9%	0.0%
伝えた内容が公開されない（秘密にしてくれる）	18.9%	12.1%	17.8%	25.0%
自分の意見をほかの人が代弁してくれる	13.2%	9.3%	10.0%	0.0%
意見を伝える場に、友だちや知り合いがいない	7.5%	5.6%	10.6%	0.0%
謝礼（お礼のお金）がもらえる	17.0%	25.2%	13.9%	25.0%
伝えたい意見はない	5.7%	6.5%	6.7%	0.0%
その他	0.0%	2.8%	1.1%	0.0%
無回答	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%

【その他（一部抜粋）】 <市民アンケート> ・ スマホから意見を送りやすい。インスタの広告とかそういうのからホームページに誘導するとか。Google フォームなどで意見を募集してくれた方が言いやすい。 ・ 高齢者や子ども、子育て世帯、移住者だけでなく、現役世代の若者にも寄り添ってほしい。 ・ 伝えた意見が反映されたり、前向きに検討されているという事が目に見えてわかること。 ・ 伝えた意見などが、単なる実績づくりやほったらかしにならず必ず一度は検討される、反映されるという確実性を感じる。言っても無駄だと感じると、それなりの回答になる。
--

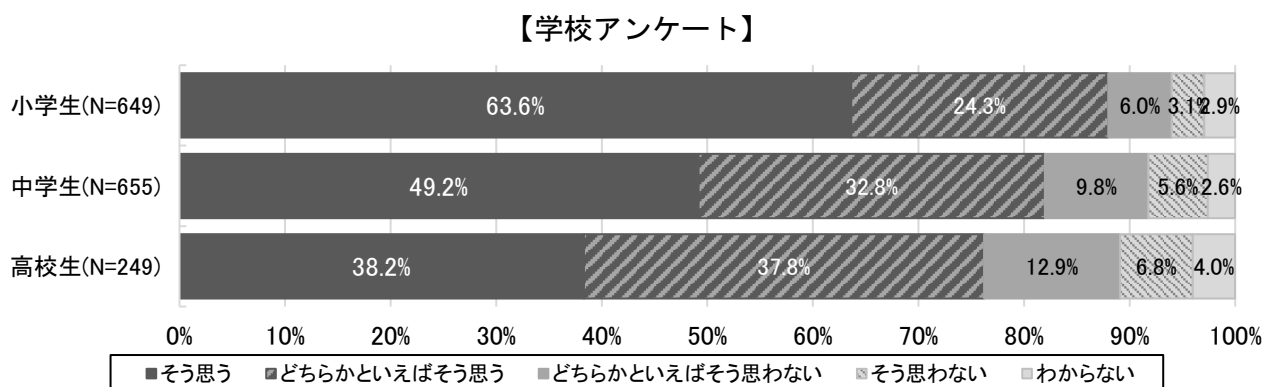
⑤ 自由時間や休息を十分に取れているか（単一回答）

＜学校アンケート＞

年代が上がるにつれて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合が少なくなり、反対に「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が増える傾向がみられた。特に高校生では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の割合を合計すると 19.7%（約 2 割）となる結果であった。

小学生は「そう思う」が最も多く 63.6%、次いで「どちらかといえばそう思う」が 24.3%、「どちらかといえばそう思わない」が 6.0%であった。中学生は「そう思う」が最も多く 49.2%、次いで「どちらかといえばそう思う」が 32.8%、「どちらかといえばそう思わない」が 9.8%であった。高校生は「そう思う」が最も多く 38.2%、次いで「どちらかといえばそう思う」が 37.8%、「どちらかといえばそう思わない」が 12.9%であった。

年代があがるにつれて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」が少なくなり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が増える。高校生では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合は合計すると 19.7%になる。



■自由時間や休息と幸福度の関係（クロス集計）

「自由時間や休息時間が十分に取れているか」と幸福度（0～10）（（8）全般について①現在、どの程度幸せだと感じているか）についてクロス集計を行った。

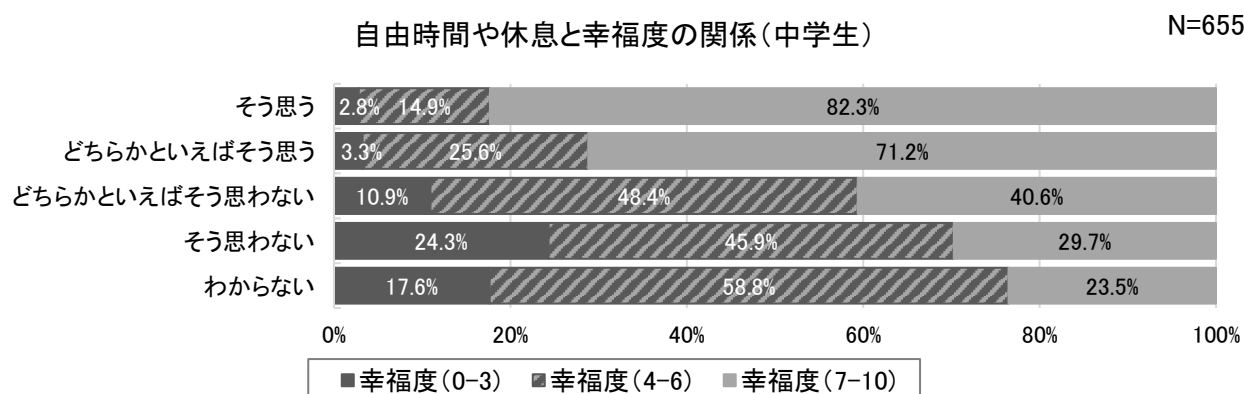
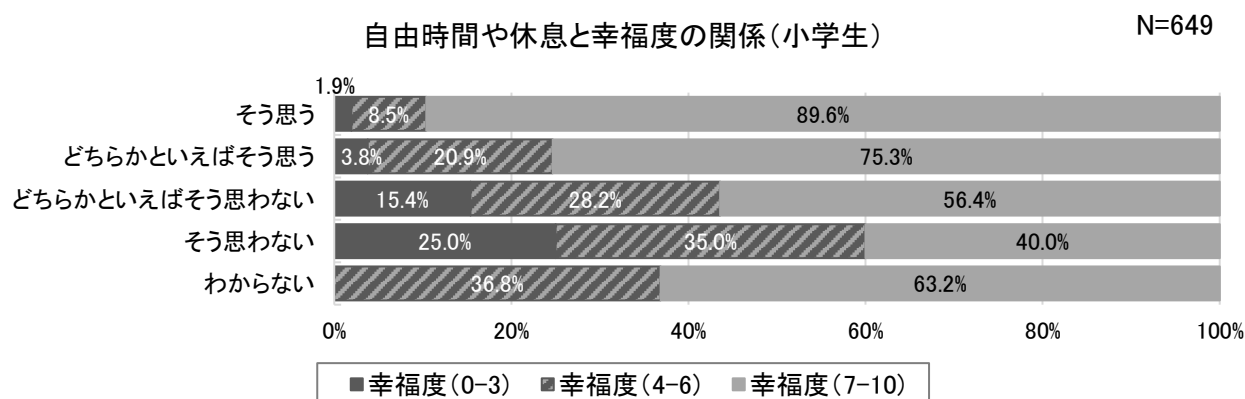
<学校アンケート>

全体的な傾向として、「自由時間や休息が十分に取れている」と感じている方ほど幸福度が高く、逆に「取れていない」と感じるほど幸福度が低下する傾向がみられた。

小学生において、自由時間や休息が十分に取れていると「そう思う」と回答した層は、幸福度が高い（7～10）割合が 89.6%となった。一方で「そう思わない」と回答した層では、幸福度（7～10）が 40.0%となり、幸福度が低い（0～3）割合は 25.0%まで増加した。

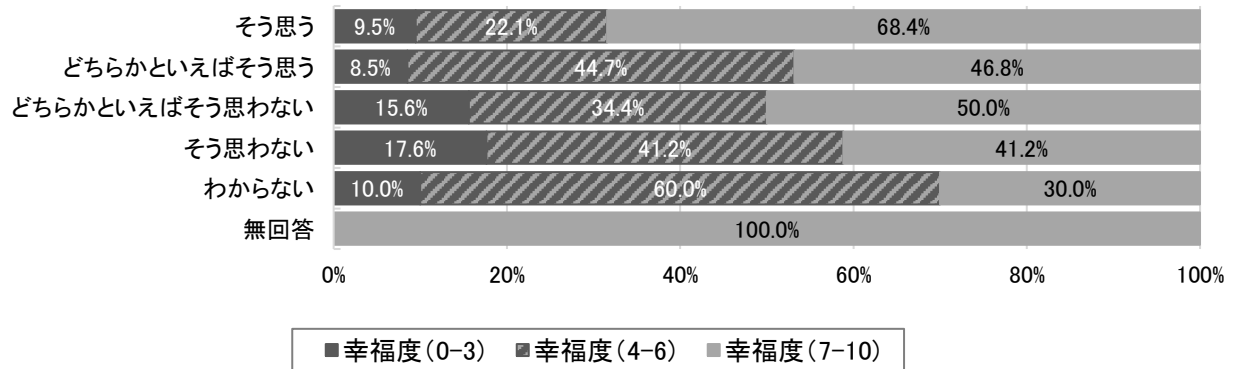
中学生においても同様の傾向がみられ、「そう思う」層の幸福度（7～10）が 82.3%であったのに対し、「そう思わない」層では 29.7%となった。

高校生においても、自由時間や休息が「そう思わない」と回答した層は、幸福度が低い（0～3）割合が 17.6%、中程度（4～6）の割合が 41.2%となった。



自由時間や休息と幸福度の関係(高校生)

N=249



⑥ 自由時間や休息の使い方（複数回答）

＜学校アンケート＞

全体的な傾向として、「ゲーム・インターネット・SNS の閲覧をする」と「趣味（スポーツ・音楽・アート・創作活動など）を楽しむ」の割合が高かった。また、小学生では「家族と過ごす」が上位に入ったのに対し、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて「ゆっくり寝る」の割合が高くなる傾向がみられた。

小学生は「ゲーム・インターネット・SNS の閲覧をする」が最も多く 70.3%、次いで「趣味（スポーツ・音楽・アート・創作活動など）を楽しむ」が 56.5%、「家族と過ごす」が 55.3%であった。中学生は「ゲーム・インターネット・SNS の閲覧をする」が最も多く 82.3%、次いで「趣味（スポーツ・音楽・アート・創作活動など）を楽しむ」が 67.6%、「ゆっくり寝る」が 62.7%であった。高校生は「ゆっくり寝る」が最も多く 76.7%、次いで「ゲーム・インターネット・SNS の閲覧をする」が 71.9%、「趣味（スポーツ・音楽・アート・創作活動など）を楽しむ」が 53.8%であった。

【学校アンケート】	小学生 (N=649)	中学生 (N=655)	高校生 (N=249)
ゆっくり寝る	40.7%	62.7%	76.7%
何もしない・ぼーっとする	25.6%	27.9%	28.9%
趣味（スポーツ・音楽・アート・創作活動など）を楽しむ	56.5%	67.6%	53.8%
読書や映画・ドラマ・アニメなどを鑑賞する	46.1%	50.2%	36.5%
ゲーム・インターネット・SNS の閲覧をする	70.3%	82.3%	71.9%
勉強・スキルアップなど自分の学びを広げる	15.1%	19.8%	7.6%
家族と過ごす	55.3%	47.2%	26.5%
友人と過ごす	38.1%	47.8%	39.0%
一人で過ごす	27.9%	39.1%	33.7%
ボランティア活動や地域活動をする	1.8%	2.9%	1.2%
その他	2.0%	0.5%	0.0%
無回答	0.2%	0.0%	0.8%

【その他（一部抜粋）】

（小学生）委員会の仕事、ご飯を食べる、ペットと遊ぶ、ペットのお散歩、犬と遊ぶ、妹のお世話
（中学生）虫探し、部活動の練習など、料理

⑦ 学校外の活動で参加したり関わったりしてみたいもの、またはしてみたいもの（複数回答）

＜学校アンケート＞

全体的な傾向として、「地域の祭りやイベントの手伝いをしたい」が半数（50%）を超えて最も多い結果となった。小学生においては「特に参加したいと思わない」が2割（22.8%）を超えたものの、全体としては地域の祭りやイベント、ボランティア活動への参加や協力に対して意欲的な姿勢が伺えた。

小学生は「地域の祭りやイベントの手伝いをしたい」が最も多く52.5%、次いで「ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい」が29.6%、「特に参加したいと思わない」が22.8%であった。中学生は「地域の祭りやイベントの手伝いをしたい」が最も多く61.5%、次いで「ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい」が27.3%、「地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい」が21.2%であった。高校生は「地域の祭りやイベントの手伝いをしたい」が最も多く58.6%、次いで「ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい」が21.7%、「地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい」が16.9%であった。

【学校アンケート】	小学生 (N=649)	中学生 (N=655)	高校生 (N=249)
地域の祭りやイベントの手伝いをしたい	52.5%	61.5%	58.6%
ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい	29.6%	27.3%	21.7%
地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい	22.0%	21.2%	16.9%
高齢者や小さな子どものお世話や交流活動をしたい	19.9%	18.6%	14.9%
地域の活動や習い事でリーダーなど責任ある役割を果たしたい	12.9%	8.1%	4.4%
朝来市や地域の会議（地域について話し合う場）などに参加したい	6.5%	6.1%	5.6%
特に参加したいと思わない	22.8%	1.7%	0.8%
その他	0.5%	1.2%	0.4%
無回答	2.3%	7.6%	7.6%

【その他（一部抜粋）】

（小学生）イベントなどのチラシやイラストの手伝い、海外の困ってる人を助けたい、他の学校のひとと、交流して見たい
（中学生）e スポーツ体験、自分の意見を交流したり今思っていることがぶつけられる議論するところ
（高校生）外国人向けのイベントやボランティア

(3) 結婚・出会いについて

① 人生において結婚は重要か（単一回答）

学校アンケート（高校生）、市民アンケートともに「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が50%を超えており、人生において結婚は重要だと考えている人が多い結果となった。また、市民アンケートにおいては、年代が上がるにつれて重要だと思っている人の割合が増える一方で、「そう思わない」と回答する人の割合も同時に増える傾向がみられた。

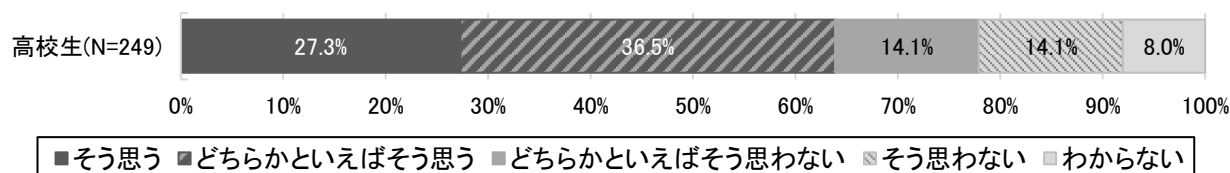
<学校アンケート>

高校生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く36.5%、次いで「そう思う」が27.3%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」がそれぞれ14.1%であった。

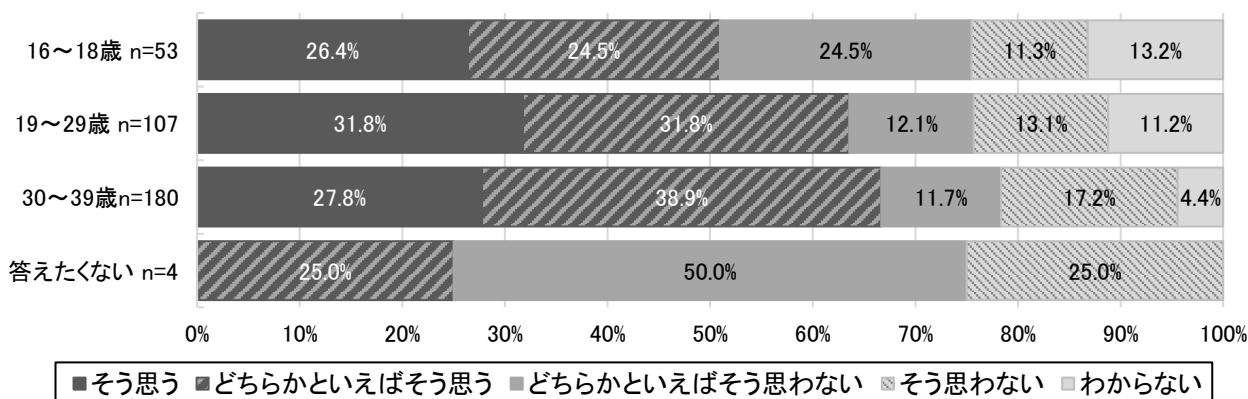
<市民アンケート>

16～18歳は「そう思う」が最も多く26.4%、次いで「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が24.5%であった。19～29歳は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」が最も多く31.8%、次いで「そう思わない」が13.1%であった。30～39歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く38.9%、次いで「そう思う」が27.8%、「そう思わない」が17.2%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



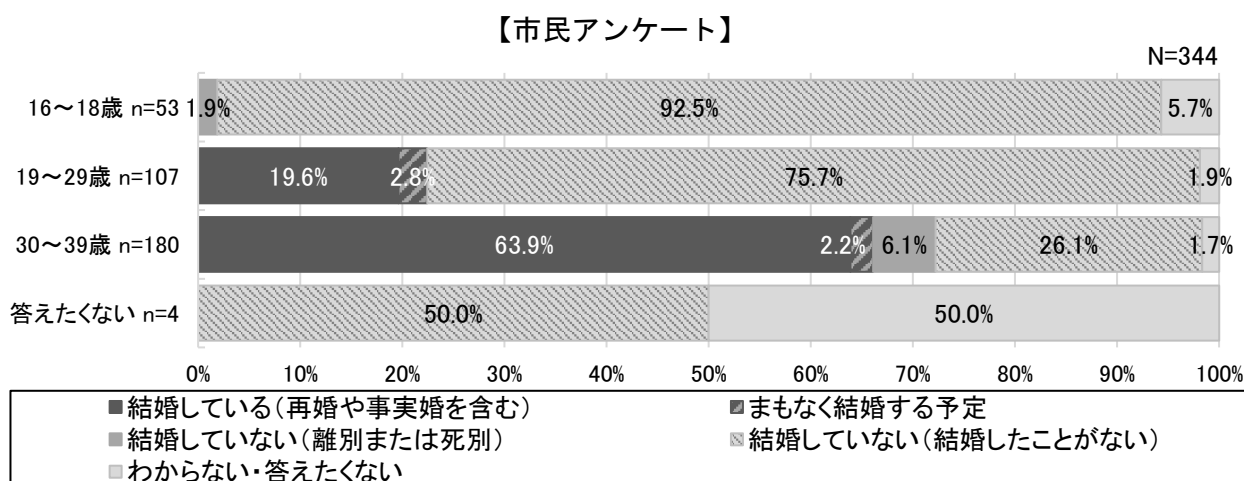
② 結婚の有無と結婚していない理由について

■結婚の有無（単一回答）

＜市民アンケート＞

全体的な傾向として、年代が上がるにつれて「結婚している」割合が大きく増加し、ライフステージの変化が表れる結果となった。

結婚の有無については16～18歳は「結婚していない（結婚したことがない）」が最も多く92.5%、次いで「わからない・答えたくない」が5.7%、「結婚していない（離別または死別）」が1.9%であった。19～29歳は「結婚していない（結婚したことがない）」が最も多く75.7%、次いで「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が19.6%、「まもなく結婚する予定」が2.8%であった。30～39歳は「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が最も多く63.9%、次いで「結婚していない（結婚したことがない）」が26.1%、「結婚していない（離別または死別）」が6.1%であった。



■結婚していない理由(複数回答)

＜市民アンケート＞

「結婚していない(離別または死別)」または「結婚していない(結婚したことがない)」を選んだ人の結婚していない理由について、年代が上がるにつれて「学業や仕事への専念」から、「適当な相手にめぐり会えない」「自由で気楽である」といった理由へ変化していく傾向がみられた。

16～18 歳は「まだ結婚するには早いと思う」が最も多く 78.0%、次いで「仕事や学業に専念したい」が 42.0%、「趣味や娯楽を楽しみたい」が 22.0%であった。19～29 歳は「適当な相手にめぐり会えない」が最も多く 40.7%、次いで「仕事や学業に専念したい」が 39.5%、「まだ結婚するには早いと思う」が 33.3%であった。30～39 歳は「適当な相手にめぐり会えない」が最も多く 51.7%、次いで「結婚していない方が自由で気楽である」が 46.6%、「結婚する必要性を感じない」が 32.8%であった。

【市民アンケート】 n=191	16～18 歳 n=50	19～29 歳 n=81	30～39 歳 n=58	答えたくない n=2
まだ結婚するには早いと思う	78.0%	33.3%	0.0%	0.0%
仕事や学業に専念したい	42.0%	39.5%	8.6%	0.0%
趣味や娯楽を楽しみたい	22.0%	32.1%	17.2%	0.0%
結婚していない方が自由で気楽である	18.0%	25.9%	46.6%	100.0%
結婚する必要性を感じない	16.0%	14.8%	32.8%	50.0%
適当な相手にめぐり会えない	18.0%	40.7%	51.7%	50.0%
異性とうまく付き合えない	10.0%	11.1%	13.8%	0.0%
結婚資金や結婚後の生活に経済的な不安がある	14.0%	17.3%	24.1%	0.0%
親の介護など家庭の事情がある	0.0%	0.0%	8.6%	0.0%
親や周囲の人が結婚に同意しない	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
こどもを欲しいと思わない	14.0%	12.3%	15.5%	0.0%
その他	8.0%	4.9%	5.2%	0.0%

【その他 (一部抜粋)】

LGBTQ である、同性パートナーのため日本では同性婚が出来ない、結婚を考える相手はいるがプロポーズされていない

③ 結婚に向けた望ましい出会いの場（複数回答）

全体的に「友人・知人の紹介」「趣味やサークル活動」「職場や学校」を選択する割合が高かった。また、年齢があがるにつれて、「マッチングサービス（アプリ/サイト）」「婚活イベント」「地域活動・ボランティア活動」「SNS やオンラインコミュニティ（趣味や共通テーマの場）」の割合も増加する傾向がみられた。

<学校アンケート>

高校生は「友人・知人の紹介」が最も多く 49.0%、次いで「趣味やサークル活動」が 42.2%、「職場や学校」が 37.3%であった。

<市民アンケート>

16～18 歳は「職場や学校」が最も多く 45.3%、次いで「趣味やサークル活動」が 39.6%、「友人・知人の紹介」「わからない、イメージができない」がそれぞれ 34.0%であった。19～29 歳は「友人・知人の紹介」「職場や学校」がそれぞれ最も多く 50.5%、次いで「趣味やサークル活動」が 43.9%であった。30～39 歳は「友人・知人の紹介」「趣味やサークル活動」が最も多く 56.1%、次いで「職場や学校」が 43.3%であった。

	【学校アンケート】	【市民アンケート】（N=344）			
	高校生 (N=249)	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
友人・知人の紹介	49.0%	34.0%	50.5%	56.1%	25.0%
趣味やサークル活動	42.2%	39.6%	43.9%	56.1%	0.0%
職場や学校	37.3%	45.3%	50.5%	43.3%	0.0%
わからない、イメージできない	24.1%	34.0%	17.8%	16.1%	50.0%
マッチングサービス (アプリ/サイト)	10.0%	1.9%	19.6%	21.1%	0.0%
婚活イベント	6.0%	3.8%	15.9%	17.2%	0.0%
地域活動・ボランティア活動	5.6%	1.9%	12.1%	17.2%	0.0%
SNS やオンラインコミュニティ (趣味や共通テーマの場)	4.0%	1.9%	12.1%	14.4%	0.0%
その他	0.8%	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%
無回答	3.2%	0.0%	1.9%	1.1%	25.0%

【その他（一部抜粋）】

偶然の遭遇、生活の中で自然と出会い、会話が生まれる場所

■「結婚していない」人たちの望ましい出会いの場（クロス集計）

②で「結婚していない（離別または死別）」または「結婚していない（結婚したことがない）」と回答した人（市民アンケート回答者全体の 55.5%）に絞って、望ましい出会いの場についてクロス集計を行った。

＜市民アンケート＞

全体的な傾向として、未婚者においても「友人・知人の紹介」「職場や学校」「趣味やサークル活動」が上位を占める結果となった。一方で、30～39 歳においては「わからない、イメージできない」が上位（同率 3 位）に入っており、出会いの場に対する具体的なイメージを持ちづらくなっている実態も伺えた。

16～18 歳は「職場や学校」が最も多く 48.0%、次いで「趣味やサークル活動」が 40.0%、「友人・知人の紹介」が 36.0% である。19 歳～29 歳は「友人・知人の紹介」が最も多く 49.4%、次いで「職場や学校」が 48.1%、「趣味やサークル活動」が 43.2% である。30～39 歳は「友人・知人の紹介」が最も多く 44.8%、次いで「趣味やサークル活動」が 43.1%、「職場や学校」「わからない、イメージできない」がそれぞれ 29.3%であった。

【市民アンケート】	16～18 歳 n=50	19～29 歳 n=81	30～39 歳 n=58	答えたくない n=2
友人・知人の紹介	36.0%	49.4%	44.8%	0.0%
趣味やサークル活動	40.0%	43.2%	43.1%	0.0%
職場や学校	48.0%	48.1%	29.3%	0.0%
わからない、イメージできない	32.0%	18.5%	29.3%	100.0%
マッチングサービス (アプリ/サイト)	2.0%	18.5%	17.2%	0.0%
婚活イベント	4.0%	16.0%	22.4%	0.0%
地域活動・ボランティア活動	2.0%	13.6%	12.1%	0.0%
SNS やオンラインコミュニティ (趣味や共通テーマの場)	2.0%	11.1%	13.8%	0.0%
その他	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%

(4) 配慮を必要とするこどもの支援について

① 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか（単一回答）

全体的な傾向として、年代が上がるにつれて「聞いたことがあり内容も知っている」の割合が増加し、「聞いたことはない」の割合が減少する傾向がみられた。一方で、学校アンケートの小学生および中学生においては、70%以上がヤングケアラーについてよく理解していない（「聞いたことはない」「聞いたことはあるがよく知らない」の合計）実態も明らかとなった。

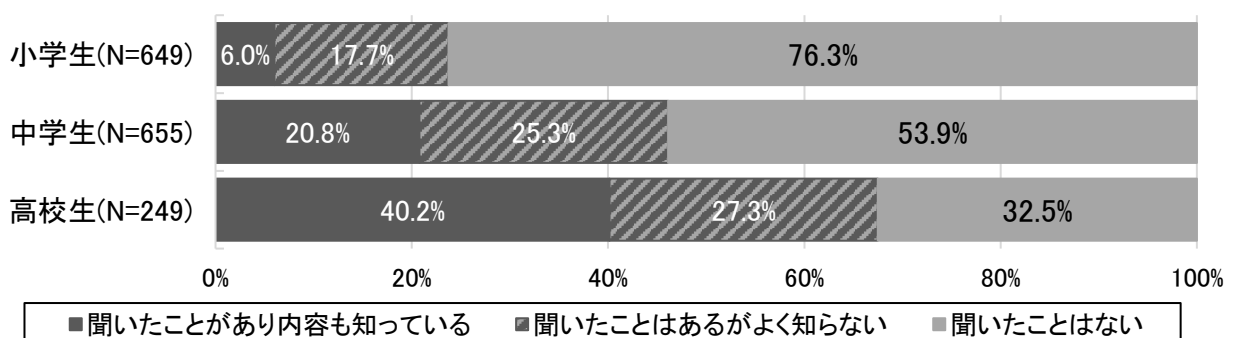
<学校アンケート>

小学生は「聞いたことはない」が最も多く 76.3%、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が 17.7%、「聞いたことがあり内容も知っている」が 6.0%であった。中学生は「聞いたことはない」が最も多く 53.9%、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が 25.3%、「聞いたことがあり内容も知っている」が 20.8%であった。高校生は「聞いたことがあり内容をも知っている」が最も多く 40.2%、次いで「聞いたことはない」が 32.5%、「聞いたことはあるがよく知らない」が 27.3%であった。

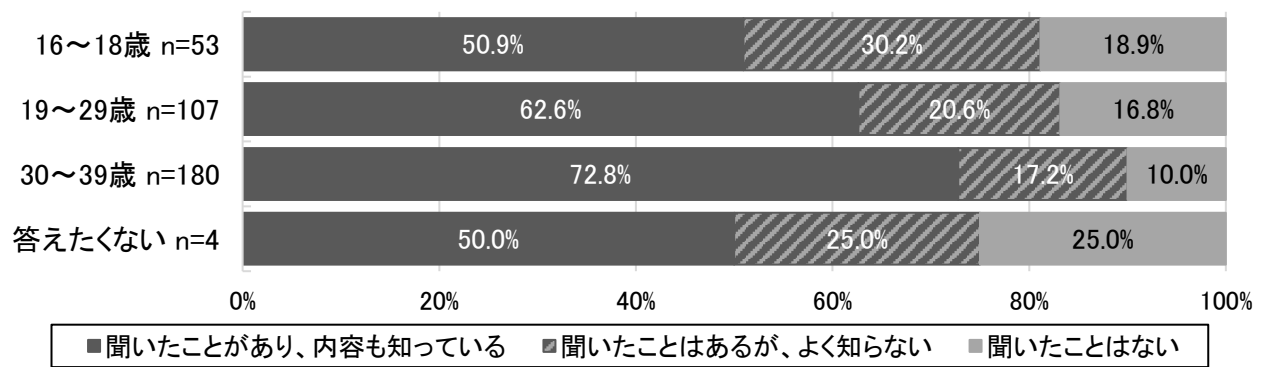
<市民アンケート>

16～18 歳は「聞いたことがあり内容も知っている」が最も多く 50.9%、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が 30.2%、「聞いたことはない」が 18.9%であった。19～29 歳は「聞いたことがあり内容も知っている」が最も多く 62.6%、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が 20.6%、「聞いたことはない」が 16.8%であった。30～39 歳は「聞いたことがあり、内容も知っている」が最も多く 72.8%、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」17.2%、「聞いたことはない」が 10.0%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



② あなたの状況について（複数回答）

ヤングケアラーの実態を把握するため、「あなたの状況について、あてはまるものを選びください（複数回答）」という質問を行った。ここではまず、何かしらのケアを担っている状況に「あてはまるものがある」と答えた層と、「あてはまるものはない」と答えた層に分けて整理した。

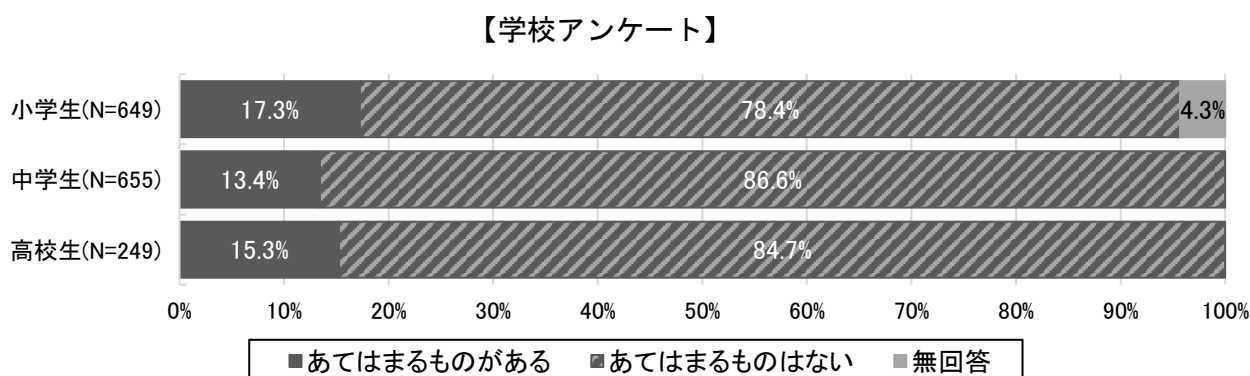
全体的な傾向として、学校アンケートでは1割強（13.4%～17.3%）の方が何かしらの状態に「あてはまるものがある」と回答する結果となった。また、市民アンケートでは年代が上がるにつれて「あてはまるものがある」割合が増加する傾向がみられた。

<学校アンケート>

小学生は「あてはまるものはない」が78.4%、「あてはまるものがある」が17.3%、「無回答」が4.3%であった。中学生は「あてはまるものはない」が86.6%、「あてはまるものがある」が13.4%であった。高校生は「あてはまるものはない」が84.7%、「あてはまるものがある」が15.3%であった。

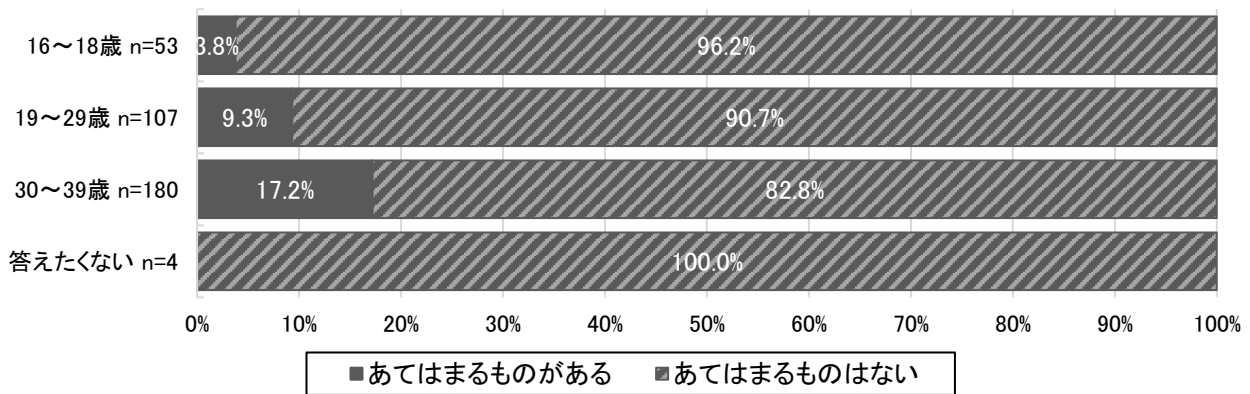
<市民アンケート>

16～18歳は「あてはまるものはない」が96.2%、「あてはまるものがある」が3.8%であった。19～29歳は「あてはまるものはない」が90.7%、「あてはまるものがある」が9.3%であった。30～39歳は「あてはまるものはない」が82.8%、「あてはまるものがある」が17.2%であった。



※小学生アンケートのみ任意回答（その他は必須回答）で実施したため、「無回答」の割合が含まれている。

【市民アンケート】



無回答と「自分にあてはまるものはない」と答えた人以外の回答対象に、選択した状況を整理した。学校アンケート（特に小中学生）では「幼いきょうだいの世話」が上位を占めた一方で、市民アンケートでは「目を離せない家族の見守りや声かけ」「家事をしている」の割合が高くなった。

＜学校アンケート＞

小学生は「家族に代わり 幼いきょうだいの世話をしている」が最も多く 50.9%、次いで「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」が 33.9%、「障害や病気のある家族に代わり買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」が 25.0%であった。中学生は「家族に代わり幼いきょうだいの世話をしている」が最も多く 39.8%、次いで「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」が 25.0%、「障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている」が 19.3%であった。高校生は「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」「家族に代わり幼いきょうだいの世話をしている」がそれぞれ最も多く 23.7%、次いで「障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている」が 21.1%であった。

※学校アンケートでは、前問①のとおり「ヤングケアラー」という言葉の認知度が低く、内容を理解したうえでの回答になっていない可能性があるとともに、ヤングケアラーの実態を把握するには、アンケートに加え面談等を行う必要があるため、数値の取り扱いに留意が必要である。

＜市民アンケート＞

16～18歳は「障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」「障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている」「家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている」がそれぞれ最も多く 1.9%であった。19～29歳は「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」が最も多く 4.7%、次いで「障害

や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」が2.8%、「がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている」「その他」がそれぞれ1.9%であった。30～39歳は「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」が最も多く8.9%、次いで「障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」が4.4%、「家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている」が3.3%であった。

※「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」という項目については、回答者が「自身のこどもの育児」を想定して選択している可能性も排除できない点に留意が必要である。

【学校アンケート】	小学生 n=112	中学生 n=88	高校生 n=38
障害や病気のある家族に代わり 買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	25.0%	14.8%	18.4%
家族に代わり幼いきょうだいの世話をしている	50.9%	39.8%	23.7%
障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている	12.5%	19.3%	21.1%
目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	33.9%	25.0%	23.7%
日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている	8.9%	4.5%	0.0%
家計を支えるために労働をして 障害や病気のある家族を助けている	1.8%	2.3%	5.3%
アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している	7.1%	4.5%	7.9%
がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている	4.5%	2.3%	0.0%
障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている	9.8%	8.0%	7.9%
障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	4.5%	5.7%	7.9%
その他	8.9%	12.5%	0.0%

【市民アンケート】	16～18 歳 n=2	19～29 歳 n=10	30～39 歳 n=31
障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	1.9%	2.8%	4.4%
家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている	0.0%	0.0%	0.6%
障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている	1.9%	0.0%	0.0%
目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	0.0%	4.7%	8.9%
日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている	0.0%	0.0%	0.6%
家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている	1.9%	0.9%	3.3%
アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している	0.0%	0.9%	1.1%
がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている	0.0%	1.9%	2.2%
障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている	0.0%	0.9%	1.7%
障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	0.0%	0.0%	1.1%
その他	0.0%	1.9%	2.2%

③ お世話をしていることで、経験したことがあること（複数回答）

前問（②あなたの状況について）と同様に無回答と「自分にあてはまるものはない」と回答した方以外の回答を対象に、経験した状況を整理した。

学校アンケートではいずれにおいても「特にない」が約4割を占め最多となった一方で、市民アンケートにおいては「自分の時間が取れない」「学校や仕事を休んでしまう」など、具体的な影響が生じている割合が高い傾向がみられた。

<学校アンケート>

小学生は「特にない」が最も多く38.4%、次いで「体力的に疲れている」が33.0%、「自分の時間が取れない」が27.7%であった。中学生は「特にない」が最も多く40.9%、次いで「体力的に疲れている」が26.1%、「自分の時間が取れない」が19.3%であった。高校生は「特にない」が最も多く39.5%、次いで「学校や仕事を休んでしまう」が18.4%、「友だちと遊ぶことができない」が15.8%であった。

<市民アンケート>

「自分の時間が取れない」が最も多く51.2%、次いで「学校や仕事を休んでしまう」が41.9%、「眠る時間が足りない」と「心に余裕がない」が34.9%であった。

	【学校アンケート】			【市民アンケート】 n=43
	小学生 n=112	中学生 n=88	高校生 n=38	
自分の時間が取れない	27.7%	19.3%	10.5%	51.2%
学校や仕事を休んでしまう	9.8%	9.1%	18.4%	41.9%
眠る時間が足りない	13.4%	18.2%	10.5%	34.9%
心に余裕がない	18.8%	14.8%	2.6%	34.9%
体力的に疲れている	33.0%	26.1%	10.5%	32.6%
友だちと遊ぶことができない	11.6%	15.9%	15.8%	18.6%
特にない	38.4%	40.9%	39.5%	18.6%
遅刻や早退をしてしまう	12.5%	4.5%	5.3%	16.3%
宿題など勉強する時間がない	15.2%	14.8%	10.5%	7.0%
習い事ができない	0.9%	1.1%	2.6%	4.7%
その他	0.0%	2.3%	0.0%	4.7%
無回答	4.5%	5.7%	5.3%	0.0%

④ お世話をしていることで、大変さを感じているか（単一回答）

前問（②あなたの状況について）と同様に無回答と「自分にあてはまるものはない」と回答した方以外の回答を対象に、下記の表にまとめた。

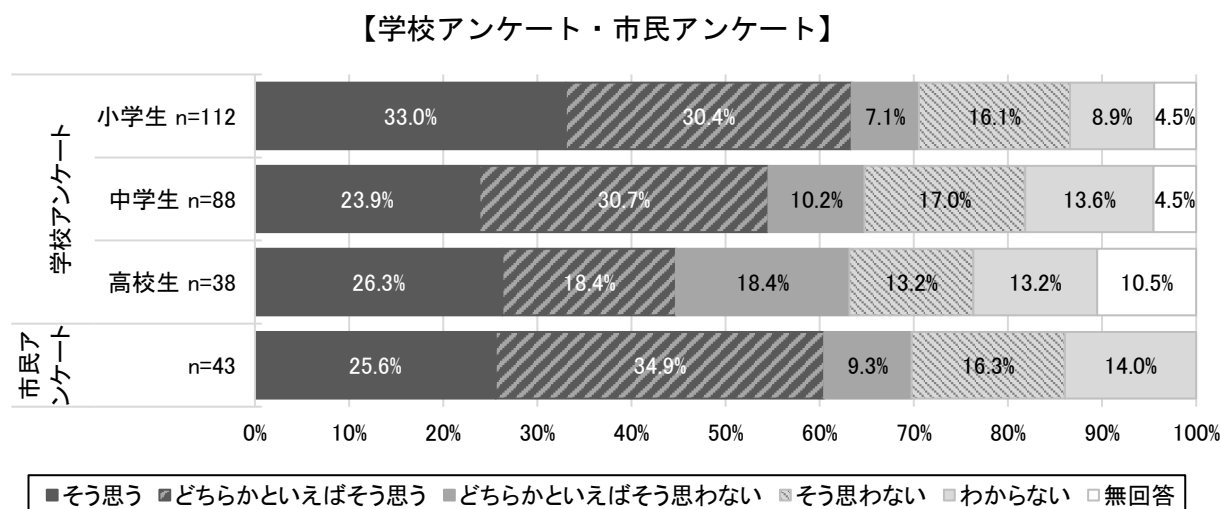
いずれの対象者においても「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約半数から6割以上を占めており、多くの当事者が日常的に負担や大変さを感じていることがわかる結果となった。

<学校アンケート>

小学生は「そう思う」が最も多く 33.0%、次いで「どちらかといえばそう思う」が 30.4%、「そう思わない」が 16.1%であった。中学生は「どちらかといえばそう思う」が最も多く 30.7%、次いで「そう思う」が 23.9%、「そう思わない」が 17.0%であった。高校生は「そう思う」が最も多く 26.3%、次いで「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」がそれぞれ 18.4%であった。

<市民アンケート>

「どちらかといえばそう思う」が最も多く 34.9%、次いで「そう思う」が 25.6%、「そう思わない」が 16.3%であった。



⑤ お世話をしている家族のことや、お世達の悩みにについて誰かに相談したことはあるか

(単一回答)

前問(②あなたの状況について)と同様に無回答と「自分にあてはまるものはない」と回答した方以外の回答を対象に、下記の表にまとめた。

いずれの対象者においても相談したことが「ない」が過半数(学校アンケートでは6割以上)を占めている結果となった。

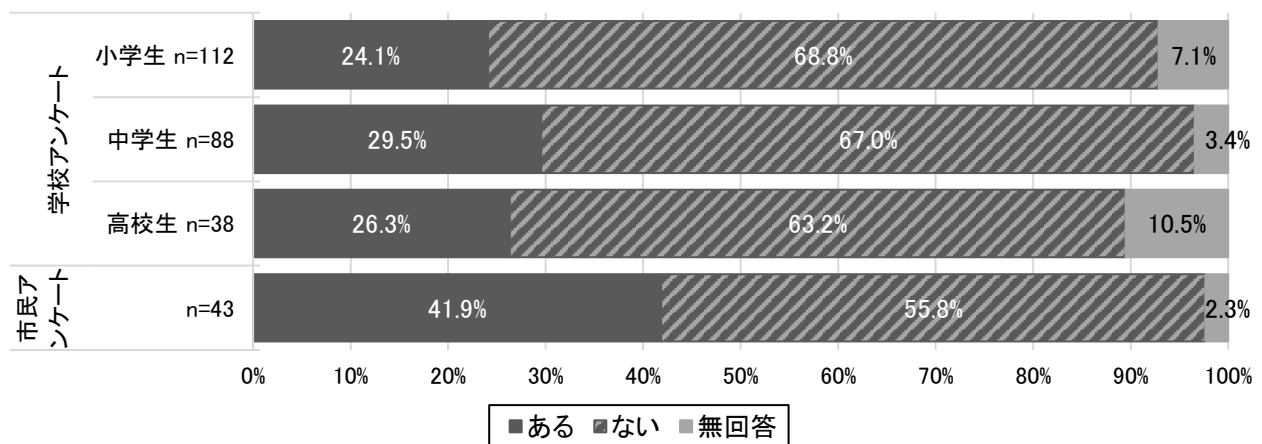
<学校アンケート>

小学生は相談したことが「ない」が最も多く68.8%、次いで「ある」が24.1%、「無回答」が7.1%であった。中学生は相談したことが「ない」が最も多く67.0%、次いで「ある」が29.5%、「無回答」が3.4%であった。高校生は相談したことが「ない」が最も多く63.2%、次いで「ある」が26.3%、「無回答」が10.5%であった。

<市民アンケート>

相談したことが「ない」が最も多く55.8%、次いで「ある」が41.3%、「無回答」が2.3%であった。

【学校アンケート・市民アンケート】



■（「ある」と答えた人にのみ回答）誰に相談しましたか（複数回答）

いずれの対象者においても「家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）」や「友人」といった身近な関係者が上位を占める結果となった。一方で、スクールカウンセラーや病院・医療・福祉サービスといった専門機関へ相談している割合は相対的に低い結果となった。

<学校アンケート>

小学生は「家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）」が最も多く 77.8%、次いで「友人」が 33.3%、「学校の先生」が 29.6%であった。中学生は「家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）」が最も多く 84.6%、次いで「友人」が 34.6%、「学校の先生」が 15.4%であった。高校生は「家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）」が最も多く 50.0%、次いで「友人」が 40.0%、「保健室の先生」「学校の先生」が 20.0%であった。

<市民アンケート>

「家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）」が最も多く 66.7%、次いで「友人」「交際相手・配偶者」がそれぞれ 38.9%であった。

	【学校アンケート】			【市民アンケート】 n=18
	小学生 n=27	中学生 n=26	高校生 n=10	
家族（父・母・祖父・祖母・きょうだい）	77.8%	84.6%	50.0%	66.7%
友人	33.3%	34.6%	40.0%	38.9%
交際相手・配偶者	—	—	—	38.9%
親戚	18.5%	11.5%	10.0%	22.2%
職場の人	—	—	—	16.7%
病院・医療・福祉サービスの人	3.7%	3.8%	0.0%	16.7%
保健室の先生	3.7%	11.5%	20.0%	—
SNS 上での知り合い	0.0%	3.8%	0.0%	11.1%
学校の先生	29.6%	15.4%	20.0%	—
スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	3.7%	11.5%	0.0%	0.0%
近所の人	7.4%	7.7%	10.0%	0.0%
その他	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%

※一部の項目が空欄となっているのは、学校アンケートと市民アンケートにおいて設定された選択肢が異なるためである。

⑥ 現在、悩んだり困っていることはありますか（複数回答）

中学生・高校生ともに「進路のこと」「学業成績のこと」といった学業や将来に関する事柄が上位を占める結果となった。一方で、高校生においては「悩んだり困っていることはない」が最多となった。

＜学校アンケート＞

中学生は「進路のこと」が最も多く 38.9%、次いで「学業成績のこと」が 37.7%、「悩んだり困っていることはない」が 33.3%であった。高校生は「悩んだり困っていることはない」が最も多く 39.0%、次いで「進路のこと」が 37.8%、「学業成績のこと」が 20.5%であった。

【学校アンケート】	中学生 (N=655)	高校生 (N=249)
進路のこと	38.9%	37.8%
学業成績のこと	37.7%	20.5%
悩んだり困っていることはない	33.3%	39.0%
友人との関係のこと	20.0%	12.0%
部活動のこと	16.3%	6.0%
学費など学校生活に必要なお金のこと	9.6%	9.2%
自分と家族の関係のこと	7.6%	3.6%
自分のために使える時間が少ない	7.2%	3.6%
家庭の経済的状況のこと	6.4%	6.0%
家族内の人間関係のこと（両親の仲がよくないなど）	5.6%	4.4%
塾や習いごとができない	2.1%	0.8%
病気や障がいのある家族のこと	1.4%	0.8%
その他	1.4%	1.2%
無回答	2.6%	3.6%

(5) 居場所について

① こどもや若者にとっての「居場所」とは、どんなところだと思うか(複数回答)

すべての対象者において「落ち着いてくつろげる場所」が最多となった。一方で、第2位以下の項目に着目すると、小・中学生では「友だちや親しい人とのつながり」が上位に入るのに対し、高校生以上の世代では「自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所」や「周りに気をつかわず自分のペースでいられる場所」といった、他者の目を気にせず個人で過ごせる空間を求める傾向へと変化していくことが伺える結果となった。

<学校アンケート>

小学生は「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 71.2%、次いで「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 66.9%、「友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所」が 58.6%であった。中学生は、「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 76.0%、次いで「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 70.2%、「友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所」が 56.2%であった。高校生は「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 71.9%、次いで「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 53.8%、「自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所」が 52.6%であった。

<市民アンケート>

16～18 歳は「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 90.6%、次いで「周りに気をつかわず自分のペースでいられる場所」が 66.0%、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 62.3%であった。19～29 歳も同様に「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 72.0%、次いで「周りに気をつかわず自分のペースでいられる場所」が 58.9%、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 49.5%であった。30～39 歳も同様に「落ち着いてくつろげる場所」が最も多く 72.8%、次いで「周りに気をつかわず自分のペースでいられる場所」が 63.3%、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が 56.7%であった。

【学校アンケート】	小学生 n=649	中学生 n=655	高校生 n=249
落ち着いてくつろげる場所	71.2%	76.0%	71.9%
周りに気をつかわず自分のペースでいられる場所	47.9%	59.5%	52.2%
好きなものがあったり、好きなことができる場所	66.9%	70.2%	53.8%
自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所	38.5%	47.8%	52.6%
自分のことを否定されたり、嫌なことが起きない場所	42.8%	42.7%	28.5%
友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所	58.6%	56.2%	37.8%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所	35.1%	32.5%	19.7%
大人に指図されたり強制されたりしない場所	39.4%	44.4%	26.1%
信頼できるスタッフがいる場所	29.6%	18.6%	11.2%
色々なイベントがあり自分の好きなものに参加できる場所	34.7%	30.5%	16.9%
色々な人と出会える場所	32.4%	27.6%	15.3%
その他	1.4%	0.3%	0.0%
無回答	1.4%	0.3%	0.0%

【その他】小学生：トイレ／みんなと、仲良くいられて平和である場所／何をしてもいい所／気軽に誰でも関係なく入れるところ。気が合ったり、趣味が一緒な子がいるところ。／自分の家／自由なこともあるけど完全に自由ではない／責任を持たなくていい場所／優しい時はすごく優しくて怒る時はきちんと怒る／自分が心の底から「楽しい」って思える場所、中学生：子供一人でも行っていって／給料が高くなるだけお金がとられる意味が分からん

【市民アンケート】	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
落ち着いてくつろげる場所	90.6%	72.0%	72.8%	100.0%
周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所	66.0%	58.9%	63.3%	75.0%
好きなものがあったり、好きなことができる場所	62.3%	49.5%	56.7%	50.0%
自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所	56.6%	41.1%	45.0%	50.0%
自分のことを否定されたり、嫌なことが起きない場所	41.5%	38.3%	48.3%	25.0%
友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所	35.8%	36.4%	46.7%	25.0%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所	32.1%	30.8%	32.8%	25.0%
大人に指図されたり、強制されたりしない場所	32.1%	29.0%	27.8%	25.0%
信頼できるスタッフがいる場所	11.3%	26.2%	33.3%	25.0%
色々なイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所	17.0%	26.2%	28.3%	25.0%
色々な人と出会える場所	13.2%	26.2%	23.3%	25.0%
その他	1.9%	0.0%	0.6%	0.0%
無回答	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%

【その他】市民アンケート（16～39 歳）：「居場所」というのが、自分のスペースなのか、単に作業をする場所なのか、第三者と過ごさないといけない場所なのかで変わると思います。第三者と何かをする場所の場合は、役割があり、自分を肯定してくれる人がいる場所だと思います。／帰りたい時に帰ってこられる場所

② 「居場所」と感じるのはどこか（複数回答）

すべての対象者において「自分の部屋」と「自宅（親せきの家を含む）」が上位を占めている一方で、第3位以下の項目に着目すると、小・中学生の「学校」から、高校生では「インターネット空間」、30代では「職場・アルバイト先」が上位に入るなど、ライフステージの進行に伴って居場所が多様化・変化していく結果となった。

＜学校アンケート＞

小学生は、「自宅（親せきの家を含む）」が最も多く74.1%、次いで「自分の部屋」が多く63.6%、「学校（教室・図書室・運動場など）」が35.7%であった。中学生は、「自宅（親せきの家を含む）」「自分の部屋」がそれぞれ最も多く75.0%、次いで「学校（教室・図書室・運動場など）」が31.8%であった。高校生は「自分の部屋」が最も多く79.9%、次いで「自宅（親せきの家を含む）」が53.4%、「インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど）」が16.5%であった。

＜市民アンケート＞

16～18歳は「自分の部屋」が最も多く81.1%、次いで「自宅（親せきの家を含む）」が69.8%、「友だち・交際相手の家」が24.5%であった。19～29歳は「自分の部屋」が最も多く73.8%、次いで「自宅（親せきの家を含む）」が71.0%、「友だち・交際相手の家」が24.3%であった。30～39歳は「自宅（親せきの家を含む）」が最も多く75.0%、次いで「自分の部屋」が55.6%、「職場・アルバイト先」が23.9%であった。

【学校アンケート】	小学生 N=649	中学生 N =655	高校生 N =249
自分の部屋	63.6%	75.0%	79.9%
自宅（親せきの家を含む）	74.1%	75.0%	53.4%
友だちの家	20.5%	20.2%	14.5%
学校（教室・図書室・運動場など）	35.7%	31.8%	11.6%
放課後児童クラブ（学童クラブ）	6.6%	－	－
塾や習いごと・スポーツクラブ	20.0%	10.5%	1.2%
クラブ活動・部活動・趣味の活動・サークル活動	－	29.6%	11.6%
地域の施設（図書館・生涯学習センター・公園など）	12.3%	7.2%	0.8%
お店（スーパー、コンビニ、だがし屋など）	10.6%	－	－
お店（ゲームセンター・カラオケボックス・ショッピングセンター・ファストフード店・ファミレス・コンビニなど）	－	15.3%	12.4%
インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど）	17.6%	22.1%	16.5%
居場所はない	0.9%	1.2%	0.0%
その他	1.1%	0.2%	1.2%
無回答	0.5%	0.3%	0.4%

【その他】小学生:いとこの家／おじいちゃんの家／楽しいところ／車の中／静かな場所／布団の中／静かな自然・頭が空っぽになるほど神聖な場所、中学生:春、高校生:トイレ／バイト先／海

【市民アンケート】(N=344)	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
自分の部屋	81.1%	73.8%	55.6%	50.0%
自宅（親せきの家を含む）	69.8%	71.0%	75.0%	25.0%
友だち・交際相手の家	24.5%	24.3%	11.7%	0.0%
職場・アルバイト先	3.8%	15.9%	23.9%	0.0%
クラブ活動・部活動・趣味の活動・サークル活動	1.9%	3.7%	3.9%	0.0%
地域の施設（図書館・生涯学習センター・公園など）	15.1%	20.6%	13.3%	0.0%
お店（ゲームセンター・カラオケボックス・ショッピングセンター・ファストフード店・ファミレス・コンビニなど）	3.8%	3.7%	7.8%	0.0%
インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど）	5.7%	3.7%	6.1%	0.0%
カフェ	5.7%	9.3%	10.6%	0.0%
馴染みの店	3.8%	7.5%	7.2%	0.0%
地域のコミュニティ	18.9%	14.0%	7.8%	25.0%
居場所はない	1.9%	3.7%	1.1%	25.0%
その他	3.8%	0.9%	0.6%	0.0%
無回答	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%

【その他】市民アンケート（16～39 歳）：学校／公園／車の中／日本国内（領土問題が発生している地域を除く）

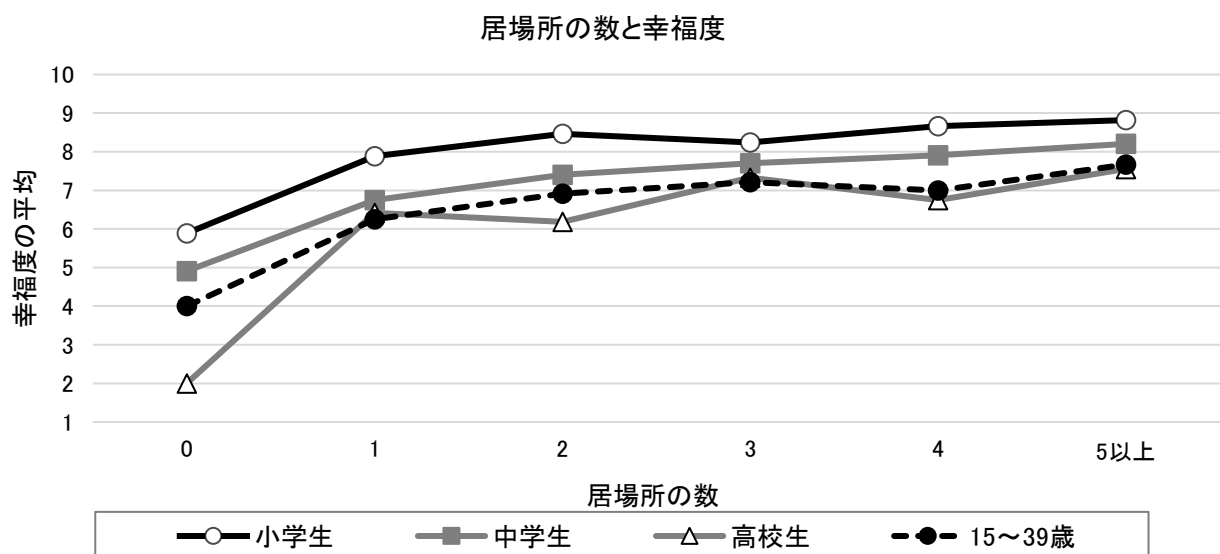
■居場所の個数×幸福度（クロス集計）

「居場所とを感じる場所」として選択した項目の数と、幸福度の関係についてクロス集計を行った。

全体的な傾向として、居場所の数が増えるほど幸福度も高くなる傾向が顕著にみられた。特に、居場所が「0（個）」の層は、いずれの年代においても幸福度が低くなっている。

選択した居場所の数については、すべての対象者において「1～3 個」が全体の約 7～8 割を占めるボリュームゾーンとなった。小学生は「1（個）」が最も多く 27.1%、次いで「2（個）」が 25.9%、「3（個）」が 21.3%であった。中学生は「2（個）」が最も多く 30.5%、次いで「1（個）」が 19.1%、「3（個）」が 17.7%であった。高校生は「1（個）」が最も多く 39.0%、次いで「2（個）」が 32.1%、「3（個）」が 18.5%であった。市民アンケートは「2（個）」が最も多く 31.4%、次いで「1（個）」が 30.2%、「3（個）」が 19.2%であった。

選択した 居場所の数	【学校アンケート】			【市民アンケート】 (N=344)
	小学生 (N=649)	中学生 (N=655)	高校生 (N=249)	
0	1.4%	1.7%	0.4%	3.2%
1	27.1%	19.1%	39.0%	30.2%
2	25.9%	30.5%	32.1%	31.4%
3	21.3%	17.7%	18.5%	19.2%
4	13.3%	16.0%	6.4%	8.1%
5	5.2%	7.2%	2.8%	3.5%
6	2.8%	3.5%	0.8%	1.2%
7	1.7%	2.6%	0.0%	1.7%
8	0.6%	0.9%	0.0%	0.9%
9	0.8%	0.8%	0.0%	0.6%



③ 朝来市にあったらいいと思う「居場所」（複数回答）

全体的な傾向として、年代ごとに居場所に求める条件が大きく変化する結果となった。

小・中学生では「友だちとおしゃべり」や「ドリンクや軽食」といった交流や飲食の要素が上位を占める一方で、高校生や「16～18歳」では「Wi-Fi・電源」がトップとなり、インターネット環境の重要性が高まる傾向がみられた。さらに19歳以上の大人世代になると、「開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる」が最多となり、利便性や気軽さが求められるようになる実態が伺えた。

<学校アンケート>

小学生は、「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」が最も多く71.8%、次いで「ドリンクや軽食がある（無料または低価格）」が54.1%、「安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある）」が53.0%であった。中学生は「ドリンクや軽食がある（無料または低価格）」が最も多く62.3%、次いで「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」が62.1%、「Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可）」が60.5%であった。高校生は、「Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可）」が最も多く59.4%、次いで「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」が55.4%、「ドリンクや軽食がある（無料または低価格）」が50.2%であった。

<市民アンケート>

16～18歳は「Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可）」が最も多く73.6%、次いで「ドリンクや軽食がある（無料または低価格）」が58.5%、「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」が49.1%であった。19～29歳は「開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる」が最も多く49.5%、次いで「Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可）」が39.3%、「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」が37.4%であった。30～39歳は「開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる」が最も多く42.8%、次いで「スポーツ用具がある・運動ができる」42.2%、「友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる」「Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可）」がそれぞれ41.1%であった。

【学校アンケート】	小学生 N =649	中学生 N =655	高校生 N =249
静かに勉強や読書ができる	31.1%	32.2%	27.7%
友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる	71.8%	62.1%	55.4%
話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など）	31.1%	21.4%	16.9%
ドリンクや軽食がある（無料または低価格）	54.1%	62.3%	50.2%
Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC 使用可）	47.6%	60.5%	59.4%
本・マンガ・雑誌が充実している	38.2%	40.9%	32.9%
クリエイティブな道具（画材、楽器、工作機材）がある	29.0%	18.9%	14.9%
スポーツ用具がある・運動ができる	49.6%	50.2%	27.7%
音楽や演劇など表現活動ができる	9.6%	15.0%	14.1%
ボランティアや地域活動に気軽に参加できる	13.4%	8.4%	4.0%
新しい友だちに出会える	41.1%	25.6%	15.7%
安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある）	53.0%	47.5%	34.9%
プライバシーが守られる（相談室等）	23.4%	26.4%	14.5%
開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる	34.1%	40.6%	25.7%
安全対策（身分確認、緊急連絡体制など）がされている	41.3%	24.7%	8.8%
オンライン参加が可能である（ハイブリッド方式）	20.0%	9.6%	4.4%
居場所は必要ない	0.0%	1.2%	1.2%
その他	1.1%	0.9%	0.4%
無回答	1.1%	0.6%	0.4%

【その他】小学生：みんなが気軽に、楽に、行けて遊べんだり勉強できる所／楽しくみんなで、遊べたり、みんなが楽しい所／公園／公園とかをたくさん／自分の趣味と同じ子が集まって会話できる施設。／他の市の子とも関われる所／釣り場、中学生：音楽スタジオ／自由に遊べたり、パルクールやアスレチックができる／釣りばりあったら自分に行くと思う／何もない、誰もいない静かな場所／雑木林／私はアイドルが好きなのでアイドルの公式グッズが置いてある居場所が欲しい、高校生：野宿できるようにあったかいとこ

【市民アンケート】	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
静かに勉強や読書ができる	41.5%	27.1%	33.9%	0.0%
友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる	49.1%	37.4%	41.1%	0.0%
話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など）	17.0%	20.6%	21.7%	0.0%
ドリンクや軽食がある（無料または低価格）	58.5%	34.6%	34.4%	25.0%
Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC 使用可）	73.6%	39.3%	41.1%	0.0%
本・マンガ・雑誌が充実している	30.2%	22.4%	25.6%	25.0%
クリエイティブな道具（画材、楽器、工作機材）がある	15.1%	10.3%	16.1%	0.0%
スポーツ用具がある・運動ができる	35.8%	29.9%	42.2%	25.0%
音楽や演劇など表現活動ができる	13.2%	9.3%	13.9%	0.0%
ボランティアや地域活動に 気軽に参加できる	9.4%	18.7%	8.9%	0.0%
新しい友だちに会える	11.3%	23.4%	12.8%	0.0%
安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある）	34.0%	29.9%	26.7%	50.0%
プライバシーが守られる（相談室等）	22.6%	23.4%	27.8%	0.0%
開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる	35.8%	49.5%	42.8%	0.0%
安全対策（身分確認、緊急連絡体制など）がされている	18.9%	21.5%	20.0%	0.0%
オンライン参加が可能である（ハイブリッド方式）	11.3%	4.7%	5.6%	0.0%
居場所はない	0.0%	2.8%	1.1%	0.0%
その他	0.0%	0.9%	3.3%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】 子供が安全に遊べて、大人はゆっくり過ごせる／天候や気温に左右されず体を動かせる／室内遊び場／親子で楽しめる施設／商業施設／映画館／打合せや簡単な作業をするスペースがない

④ ③の「居場所」までどのくらいの距離なら自分自身で移動して行きたいか（単一回答）

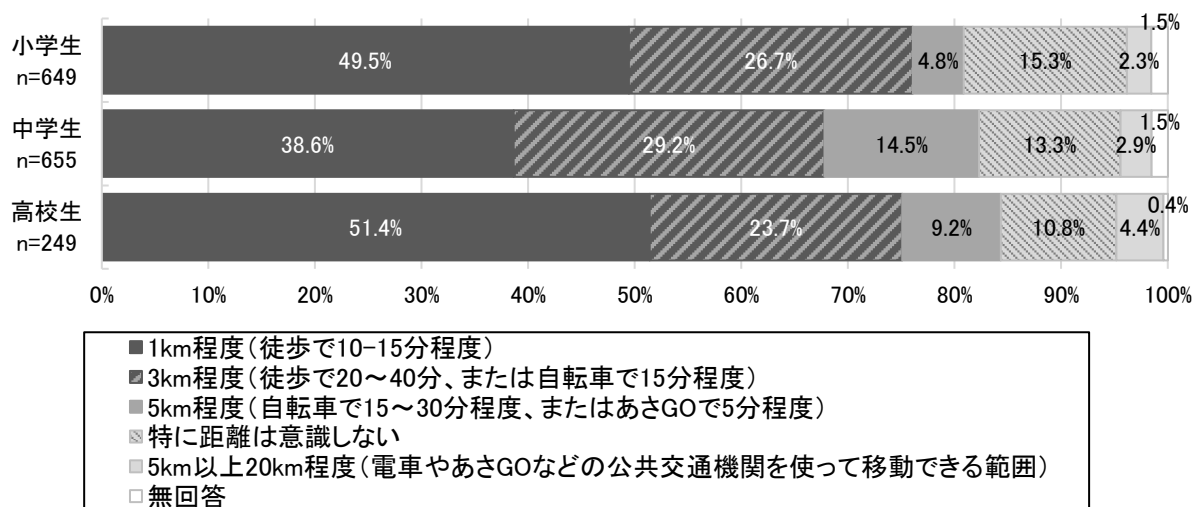
すべての対象において「1km 程度（徒歩 10～15 分）」が最多となり、次いで「3 km 程度」が続く結果となった。

＜学校アンケート＞

小学生は「1 km ぐらい（徒歩で 10-15 分ぐらい）」が最も多く 49.5%、次いで「3 km ぐらい（徒歩で 20～40 分、または自転車で 15 分ぐらい）」が 26.7%、「特に距離は意識しない」が 15.3%であった。中学生は「1km 程度（徒歩で 10-15 分程度）」が最も多く 38.6%、次いで「3 km 程度（徒歩で 20～40 分、または自転車で 15 分程度）」が 29.2%、「5 km 程度（自転車で 15～30 分程度、または『あさ GO』で 5 分程度）」が 14.5%であった。高校生は「1 km 程度（徒歩で 10-15 分程度）」が最も多く 51.4%、次いで「3km 程度（徒歩で 20～40 分、または自転車で 15 分程度）」が 23.7%、「特に距離は意識しない」が 10.8%であった。

※なお、小学生のアンケートにおいては、「～程度」ではなく「～ぐらい」という平易な表現を用いて質問を実施した。

【学校アンケート】



⑤ どんな体験活動・交流の場に参加したいか（複数回答）

すべての対象者において「山や川での自然やアウトドア体験」や「地域の文化（お祭り・産業など）体験」が上位を占める結果となった。一方で、高校生においては全体的に各項目への参加意欲が低下し、「特に参加したいと思わない」が第3位（22.9%）に入るなど、年齢が上がるにつれて地域での体験活動に対するニーズや意欲が変化していく実態も伺えた。

<学校アンケート>

小学生は「山や川での自然やアウトドア体験」が最も多く 39.6%、次いで「地域の文化（お祭り・産業など）体験」が 36.2%、「地域のスポーツ交流」が 28.4%であった。中学生は「地域の文化（お祭り・産業など）体験」が最も多く 40.9%、次いで「山や川での自然やアウトドア体験」が 34.2%、「地域のスポーツ交流」が 31.0%であった。高校生は「山や川での自然やアウトドア体験」が最も多く 28.5%、次いで「地域の文化（お祭り・産業など）体験」が 26.9%、「特に参加したいと思わない」が 22.9%であった。

【学校アンケート】	小学生 N=649	中学生 N=655	高校生 N=249
山や川での自然やアウトドア体験	39.6%	34.2%	28.5%
地域の文化（お祭り・産業など）体験	36.2%	40.9%	26.9%
地域のスポーツ交流	28.4%	31.0%	21.3%
演劇・音楽・美術などの文化体験	14.3%	15.0%	16.9%
海外の人との交流	14.2%	21.4%	14.1%
高齢者や小さな子どもと交流	12.5%	12.5%	9.6%
ボランティア活動	11.1%	13.6%	9.2%
地域の会社やお店での仕事体験	24.0%	17.9%	8.8%
農業体験	17.1%	10.7%	7.2%
地域の大人との交流	7.7%	0.0%	4.8%
特に参加したいと思わない	12.2%	18.0%	22.9%
その他	0.6%	0.3%	0.0%
無回答	1.4%	1.2%	1.2%

【その他】小学生：プログラミング、ゲーム／海での自然やアウトドア体験／工作／将棋大会、中学生：e スポーツ体験／自分の意見を交流したり、今思っていることがぶつけられる、議論するところ

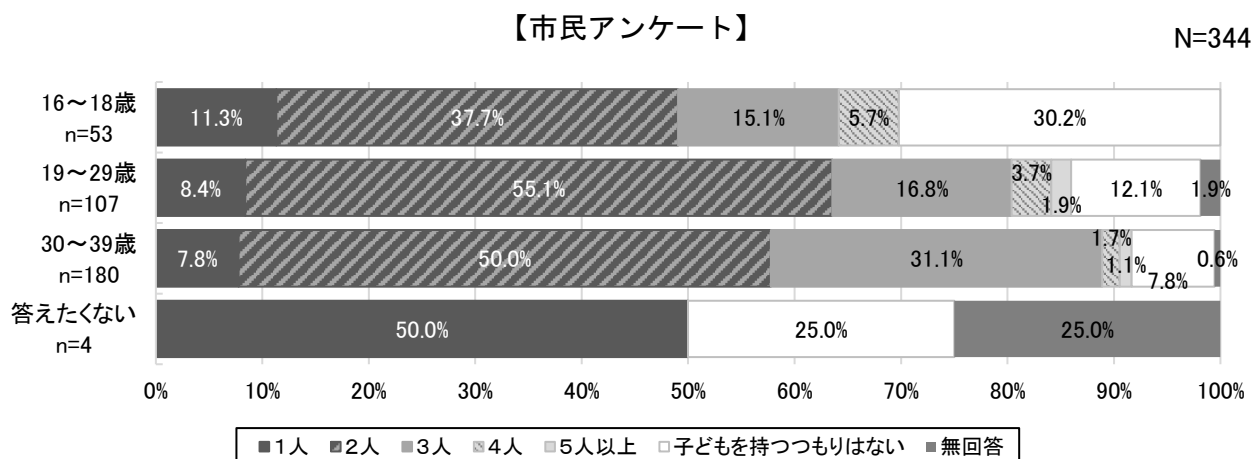
(6) こども・子育て支援について

① 理想とする（可能なら持ちたいと思う）お子さんの数は、今いるお子さんも含め、全部で何人か（単一回答）

全体的な傾向として、すべての年代において「2人」を理想とする割合が最多となった。一方で、16～18歳においては「子どもを持つつもりはない」が約3割（30.2%）にのぼり第2位となっているが、年齢が上がるにつれてその割合は減少し、代わって「3人」を希望する割合が大きく増加（30代では31.1%）していくという結果となった。

<市民アンケート>

16～18歳は「2人」が最も多く37.7%、次いで「子どもを持つつもりはない」が30.2%、「3人」が15.1%であった。19～29歳は「2人」が最も多く55.1%、次いで「3人」が16.8%、「子どもを持つつもりはない」が12.1%であった。30～39歳は「2人」が最も多く50.0%、次いで「3人」が31.1%、「1人」「子どもを持つつもりはない」がそれぞれ7.8%であった。

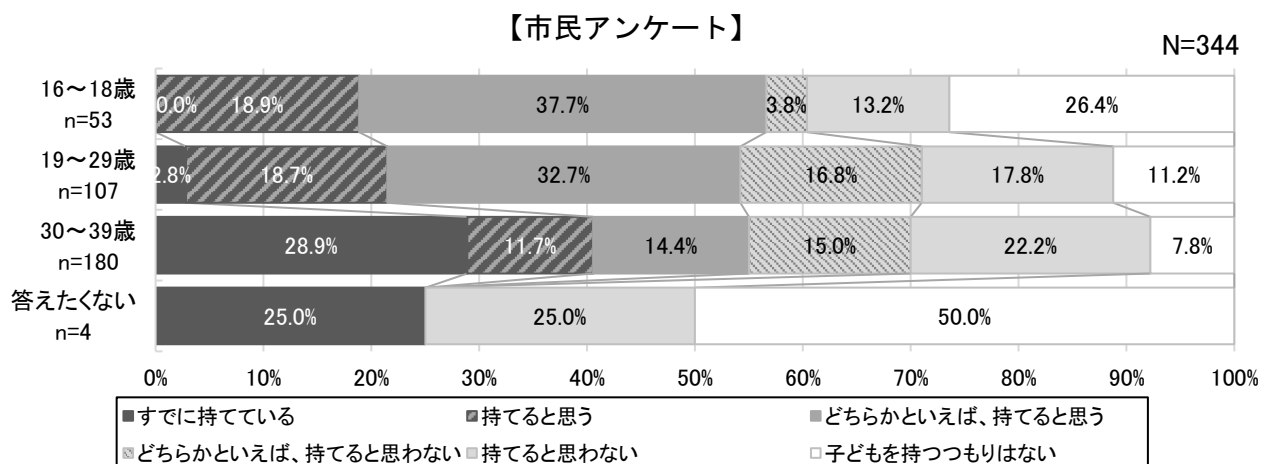


② 今後、理想とする数のお子さんを持てると思うか（単一回答）

10代・20代では「持てると思う（『どちらかといえば持てると思う』を含む）」といった肯定的な回答が上位を占めた。一方で、30代になると「すでに持てている」層が最多となる反面、次いで「持てると思わない」「どちらかといえば、持てると思わない」といった否定的な回答が上位に上がる結果となった。

<市民アンケート>

16～18歳は「どちらかといえば、持てると思う」が最も多く37.7%、次いで「子どもを持つつもりはない」が26.4%、「持てると思う」が18.9%であった。19～29歳は「どちらかといえば、持てると思う」が最も多く32.7%、次いで「持てると思う」が18.7%、「持てると思わない」が17.8%であった。30～39歳は「すでに持てている」が最も多く28.9%、次いで「持てると思わない」が22.2%、「どちらかといえば、持てると思わない」が15.0%であった。



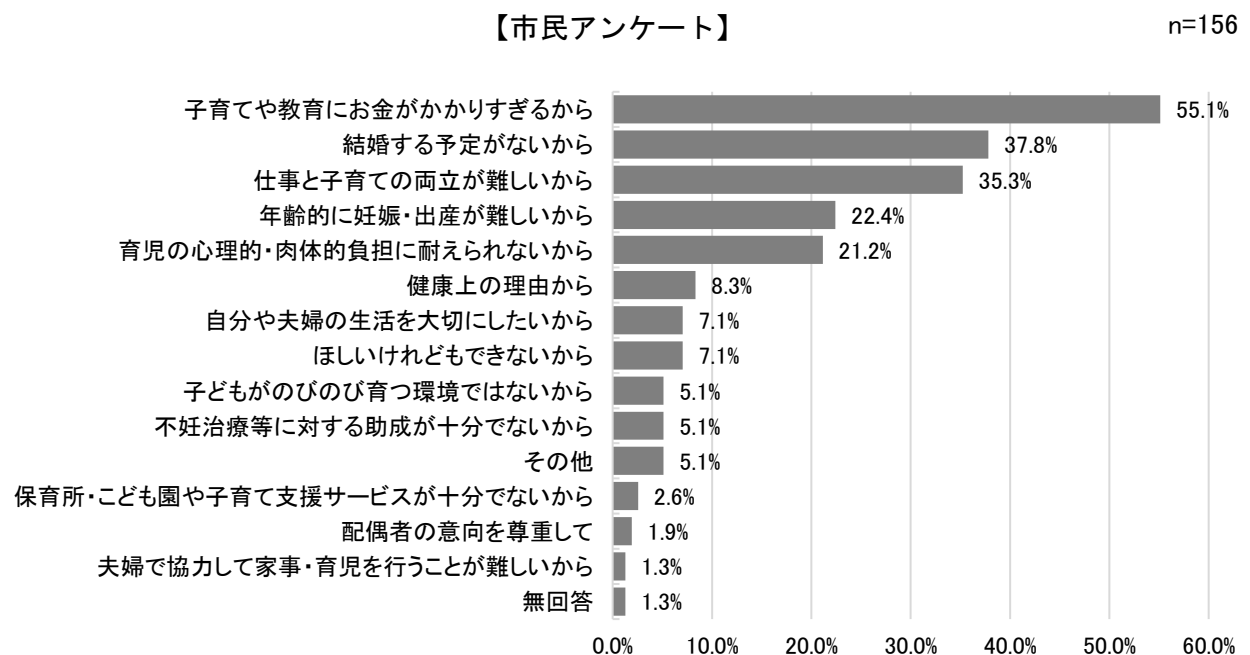
③ 理想とする数のお子さんを持つそうにない、または持つつもりがないと思う理由（複数回答）

前問（②）で「どちらかといえば、持てると思わない」「持てると思わない」「子どもを持つつもりはない」と回答した層を対象に、その理由を整理した。

全体的な傾向として、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が半数以上（55.1%）を占め最多となった。次いで「結婚する予定がないから」「仕事と子育ての両立が難しいから」が上位に続いており、経済面へのサポートに加えて、出会いや結婚への支援、そして働きやすい環境づくり（ワークライフバランスの推進）など、多角的なアプローチが求められている実態が浮き彫りとなった。

<市民アンケート>

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多く 55.1%、次いで「結婚する予定がないから」が 37.8%、「仕事と子育ての両立が難しいから」が 35.3%であった。



【その他】まずは自分の人生を謳歌したいから／自分の性格が子育てに適していないと感じるから／高齢出産かつ初産では自分も産まれてくる子もリスクが高いし、自分の年齢から親の介護の事も考えないといけなくなってくる。先の事を考えると簡単な気持ちで子供を持てる歳ではなくなったから。／主人が男性不妊だったが、治療に積極的じゃなく、温度差を感じる。私は子どもが欲しいが、精神的にしんどい為。／妊娠や出産に対する恐怖心がある／子供を傷つけない。傷つけるぐらいならいい方だと思う／思想上の理由／未成年

(7) 働き方・ジェンダー平等について

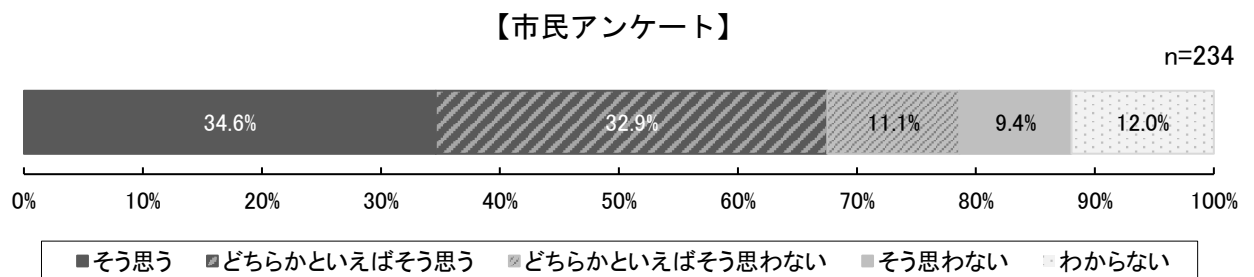
① 職場では、育児休業制度や子育てをしながら働くことができる制度が整っていると思うか（単一回答）

※職業について、「パート・アルバイト（学生のアルバイトを除く）」「派遣社員・契約社員・嘱託」「正規の社員・職員・従業員」「会社などの役員」「自営業・自由業」「家族従業者・内職」の方のみ回答

全体的な傾向として、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答が全体の約7割（67.5%）を占める結果となった。多くの就労者が、自身の職場で育児休業や子育て支援の制度がある程度整っていると認識していることがわかった。

<市民アンケート>

「そう思う」が最も多く 34.6%、次いで「どちらかといえばそう思う」が 32.9%、「わからない」が 12.0%であった。



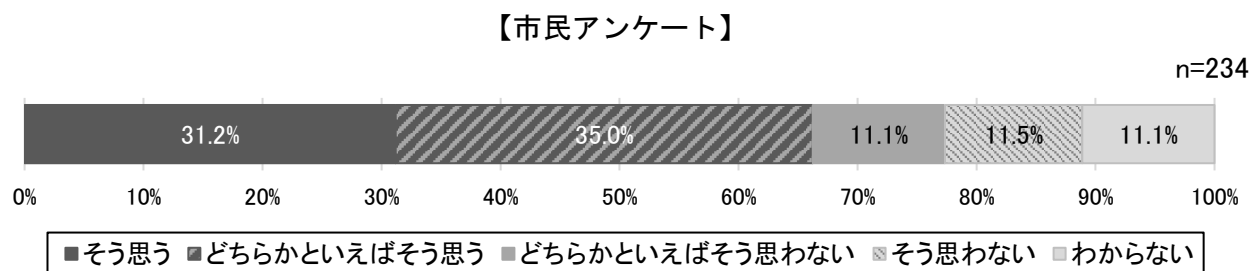
② 職場では、育児休業を取得したり、子育てをしながら働くことができる環境か（単一回答）

※職業について、「パート・アルバイト（学生のアルバイトを除く）」「派遣社員・契約社員・嘱託」「正規の社員・職員・従業員」「会社などの役員」「自営業・自由業」「家族従業者・内職」の方のみ回答

前問と同様に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答が全体の約6割半（66.2%）を占める結果となった。一方で、前問（制度）では「そう思う」が最多であったのに対し、本問（環境）では「どちらかといえばそう思う」が最多となっており、制度としては存在しているも、実際に取得・両立しやすい「職場の環境（雰囲気や実態）」については、やや慎重に捉えている層も一定数いることが伺える結果となった。

＜市民アンケート＞

「どちらかといえばそう思う」が最も多く 35.0%、次いで「そう思う」が 31.2%、「そう思わない」が 11.5%であった。



③ 育児休業の取得をしたり、子育てをしながら働くことができる環境だとは思わない理由 (複数回答)

前問で、職場が子育てと両立できる環境だと「思わない（『どちらかといえば思わない』を含む）」と回答した層（53人）を対象に、その理由を整理した。

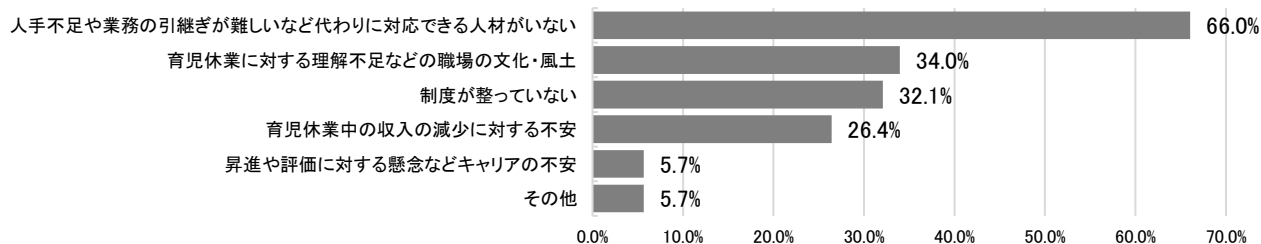
「人手不足や業務の引継ぎが難しいなど代わりに対応できる人材がいない」が約7割（66.0%）と多くなっている。次いで「職場の文化・風土（34.0%）」が続いており、子育てと両立しづらい最大の要因が、制度の有無（第3位：32.1%）以上に人材の確保や休業に対する職場の理解・雰囲気といった環境的な課題にあることがわかった。

<市民アンケート>

「人手不足や業務の引継ぎが難しいなど代わりに対応できる人材がいない」が最も多く66.0%、次いで「育児休業に対する理解不足などの職場の文化・風土」が34.0%、「制度が整っていない」が32.1%であった。

【市民アンケート】

n=53



【その他】育児だけでなく長期の休業は誰かにしわよせがいくので申し訳なく感じる／自営業の為、休業すると収入が絶たれる／周囲の職員の理解がない

④ 地域等の活動で、次のことで負担を感じたことがあるか（単一回答）

「男女の役割の固定化」については「1（ない）」が最多であったのに対し、「家族構成への配慮がない」については「3（中間）」が最多となり、項目によって負担感に違いがみられた。

<市民アンケート>

ア 男女の役割の固定化

16～18歳は「1（ない）」が最も多く 35.8%、次いで「3」が 22.6%、「4」が 17.0%であった。19～29歳は「1（ない）」が最も多く 31.8%、次いで「3」が 27.1%、「5（ある）」が 16.8%であった。30～39歳は「1（ない）」が最も多く 26.1%、次いで「3」が 25.6%、「5（ある）」が 18.9%であった。

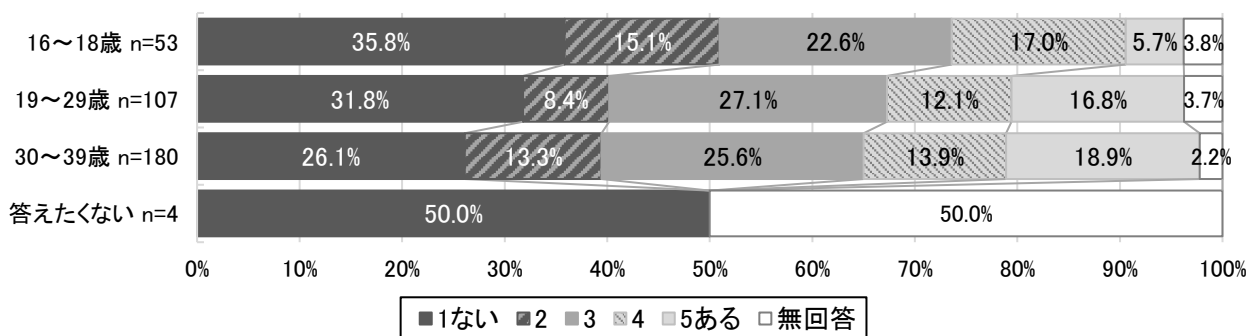
イ 家族構成（小さな子どもがいて動きづらい状況がある等）への配慮がない

16～18歳は「3」が最も多く 35.8%、次いで「1（ない）」が 30.2%、「2」が 22.6%であった。19～29歳は「1（ない）」が最も多く 31.8%、次いで「3」が 29.9%、「2」が 17.8%であった。30～39歳は「3」が最も多く 30.0%、次いで「1（ない）」「5（ある）」がそれぞれ 20.0%であった。

【市民アンケート】

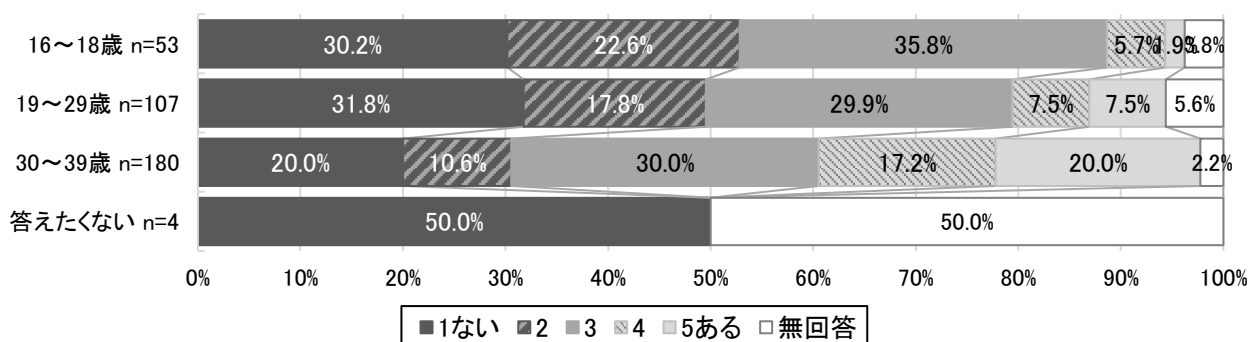
ア 男女の役割の固定化

N=344



イ 家族構成（小さな子どもがいて動きづらい状況がある等）への配慮がない

N=344



(8) 全般について

① 現在、どの程度幸せだと感じているか（単一回答）

現在の幸福度について「0」を「とても不幸」、「10」を「とても幸せ」として、0～10の数値で回答を求めた。

小学生においては「10（とても幸せ）」が4割以上（44.1%）を占め非常に高い幸福度を示している。しかし、中学生・高校生と年齢が上がるにつれて「10」の割合が減少し、代わって「5」や「7」といった中間的な数値となる傾向が顕著にみられた。一方で、市民アンケートの30代になると再び「8」が最多となるなど、進学や就労といったライフステージの変化に伴って、幸福度の感じ方に波がある実態が伺える結果となった。

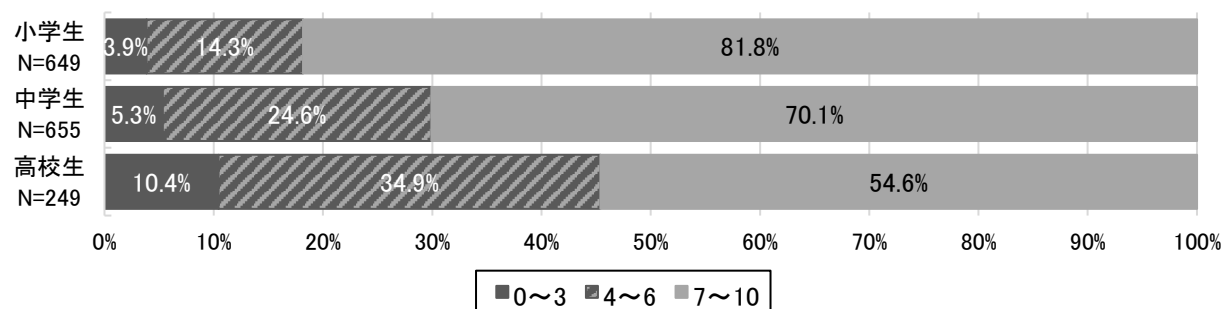
<学校アンケート>

小学生は「10（とても幸せ）」が最も多く44.1%、次いで「8」が14.9%、「9」が14.5%であった。中学生は「10（とても幸せ）」が最も多く27.0%、次いで「8」が17.4%、「7」が15.1%であった。高校生は「7」が最も多く19.3%、次いで「5」が16.5%、「10（とても幸せ）」が16.1%であった。

<市民アンケート>

16～18歳は「5」「7」がそれぞれ最も多く22.6%、次いで「10（とても幸せ）」が17.0%であった。19～29歳は「5」が最も多く19.6%、次いで「8」「10（とても幸せ）」がそれぞれ15.9%であった。30～39歳は「8」が最も多く23.9%、次いで「7」が17.2%、「5」が16.7%であった。

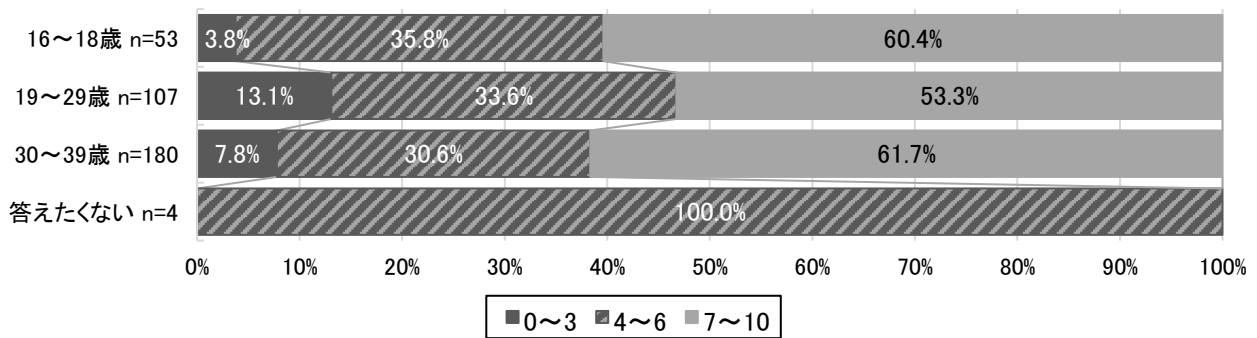
【学校アンケート】



	0 とても 不幸	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 とても 幸せ
小学生 N=649	1.2%	0.3%	0.6%	1.7%	3.4%	5.9%	5.1%	8.3%	14.9%	14.5%	44.1%
中学生 N=655	0.8%	0.8%	1.4%	2.4%	4.3%	11.1%	9.2%	15.1%	17.4%	10.5%	27.0%
高校生 N=249	2.8%	1.6%	1.6%	4.4%	5.2%	16.5%	13.3%	19.3%	14.5%	4.8%	16.1%

【市民アンケート】

N=344



	0 とても 不幸	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 とても 幸せ
16～18 歳 n=53	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	5.7%	22.6%	7.5%	22.6%	7.5%	13.2%	17.0%
19～29 歳 n=107	2.8%	4.7%	0.9%	4.7%	4.7%	19.6%	9.3%	11.2%	15.9%	10.3%	15.9%
30～39 歳 n=180	1.7%	1.7%	1.1%	3.3%	1.7%	16.7%	12.2%	17.2%	23.9%	7.8%	12.8%
答えたくない n=4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

② 6つの項目について、どのように感じているか（単一回答）

1 やりたいこと（趣味・学び・活動・仕事等）がある

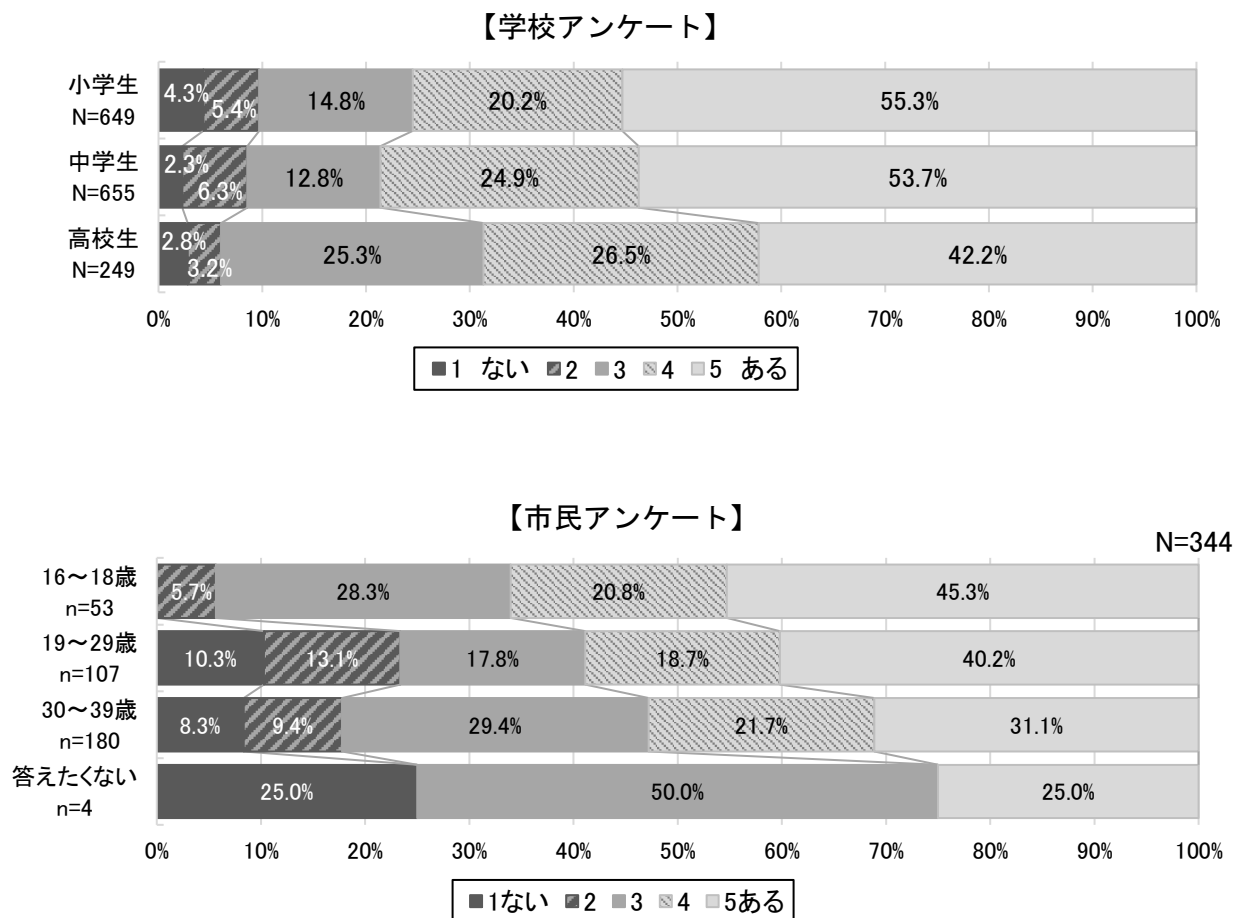
すべての対象者において「5（ある）」が最多となった。一方で、年齢が上がるにつれて「5（ある）」と回答する割合が徐々に減少（小学生 55.3%から 30 代 31.1%へ低下）し、代わって「3（中間）」や「ない」寄りの回答が増加する傾向がみられた。

<学校アンケート>

小学生は、「5（ある）」が最も多く 55.3%、次いで「4」が 20.2%、「3」が 14.8%であった。中学生は「5（ある）」が最も多く 53.7%、次いで「4」が 24.9%、「3」が 12.8%であった。高校生は「5（ある）」が最も多く 42.2%、次いで「4」が 26.5%、「3」が 25.3%であった。

<市民アンケート>

16～18 歳は「5（ある）」が最も多く 45.3%、次いで「3」が 28.3%、「4」が 20.8%であった。19～29 歳は「5（ある）」が最も多く 40.2%、次いで「4」が 18.7%、「3」が 17.8%であった。30～39 歳は「5（ある）」が最も多く 31.1%、次いで「3」が 29.4%、「4」が 21.7%であった。



2 やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行等）している

学校アンケートの対象者や市民アンケートの20代までは「3」～「5」の肯定的な回答が上位を占めている。しかし、30代になると「3（中間）」が最多となりつつも、「1（ない）」と回答する割合が25.6%に急増し第2位に入ってくる結果となった。

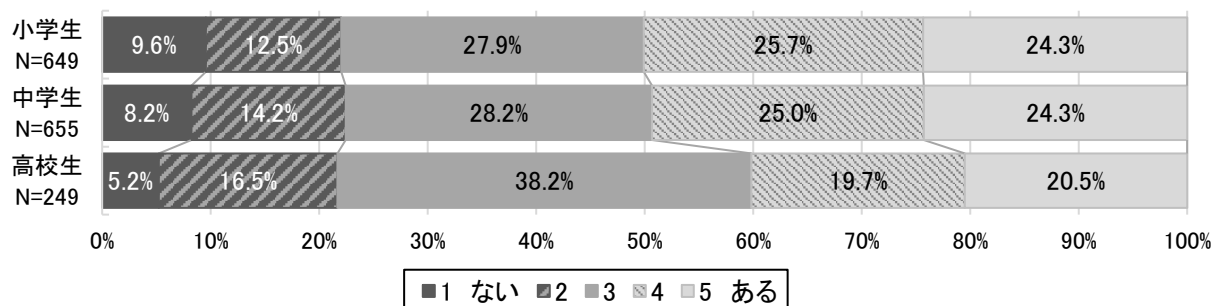
<学校アンケート>

小学生は「3」が最も多く27.9%、次いで「4」が25.7%、「5（ある）」が24.3%であった。中学生は「3」が最も多く28.2%、次いで「4」が25.0%、「5（ある）」が24.3%であった。高校生は、「3」が最も多く38.2%、次いで「5（ある）」が20.5%、「4」が19.7%であった。

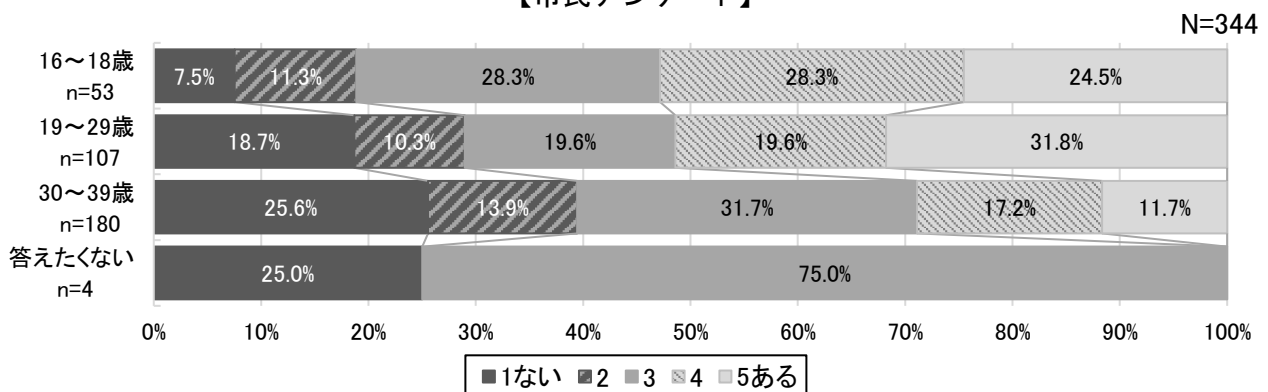
<市民アンケート>

16～18歳は「3」「4」が最も多く28.3%、次いで「5（ある）」が24.5%であった。19～29歳は「5（ある）」が最も多く31.8%、次いで「3」「4」がそれぞれ19.6%であった。30～39歳は「3」が最も多く31.7%、次いで「1（ない）」が25.6%、「4」が17.2%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



3 日々の暮らしで生きがいを感じている

小学生においては「5（ある）」が半数（50.5%）を占め、日々の暮らしに高い生きがいを感じていることがわかる。しかし、年齢が上がるにつれて「5」の割合は減少し、高校生以上のすべての年代において「3（中間）」が最多となる結果となった。

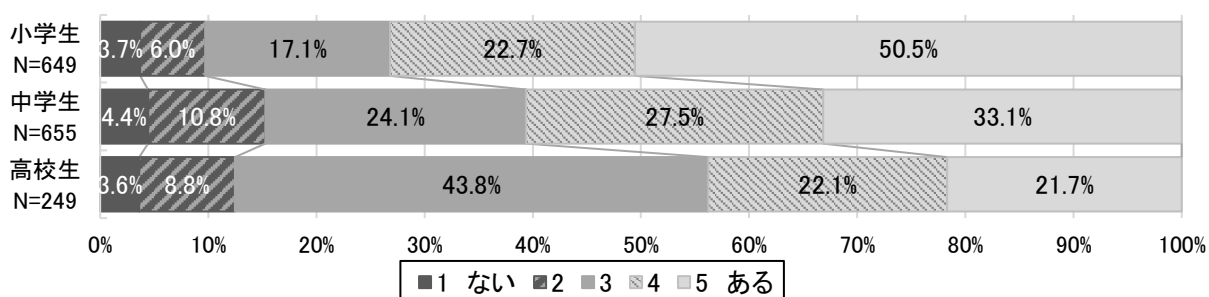
<学校アンケート>

小学生は「5（ある）」が最も多く 50.5%、次いで「4」が 22.7%、「3」が 17.1%であった。中学生は「5（ある）」が最も多く 33.1%、次いで「4」が 27.5%、「3」が 24.1%であった。高校生は「3」が最も多く 43.8%、次いで「4」が 22.1%、「5（ある）」が 21.7%であった。

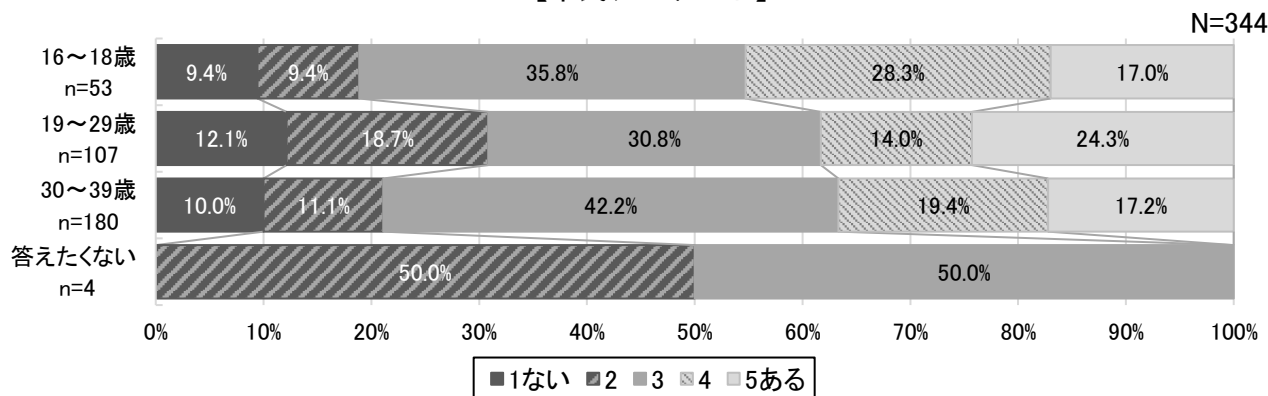
<市民アンケート>

16～18 歳は「3」が最も多く 35.8%、次いで「4」が 28.3%、「5（ある）」が 17.0%であった。19～29 歳は「3」が最も多く 30.8%、次いで「5（ある）」が 24.3%、「2」が 18.7%であった。30～39 歳は「3」が最も多く 42.2%、次いで「4」が 19.4%、「5（ある）」が 17.2%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



4 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる

すべての対象者において「5（ある）」が最多となっており、高い肯定率を示している。年齢が上がるにつれて「5」の割合がやや減少する傾向はみられるものの、総じてどの年代においても「自分を大切に思ってくれる人」の存在がいることがわかった。

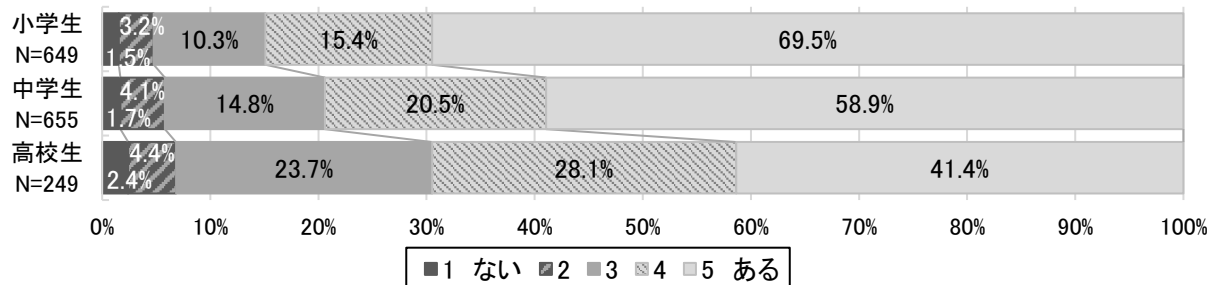
<学校アンケート>

小学生は「5（ある）」が最も多く 69.5%、次いで「4」が 15.4%、「3」が 10.3%であった。中学生は「5（ある）」が最も多く 58.9%、次いで「4」が 20.5%、「3」が 14.8%であった。高校生は、「5（ある）」が最も多く 41.4%、次いで「4」が 28.1%、「3」が 23.7%であった。

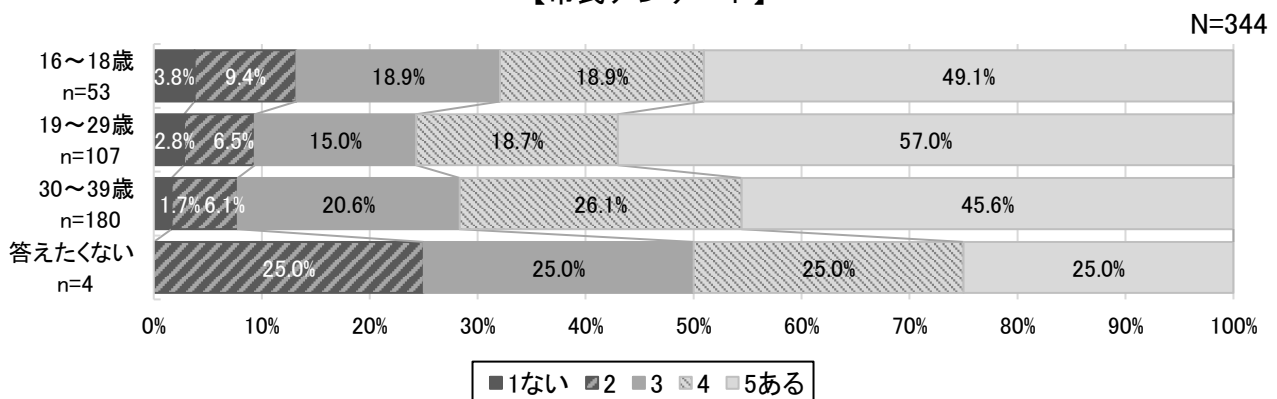
<市民アンケート>

16～18歳は「5（ある）」が最も多く 49.1%、次いで「3」「4」がそれぞれ 18.9%であった。19～29歳は「5（ある）」が最も多く 57.0%、次いで「4」が 18.7%、「3」が 15.0%であった。30～39歳は「5（ある）」が最も多く 45.6%、次いで「4」が 26.1%、「3」が 20.6%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



5 頼れる人（家族・友人・地域の人等）がいる

すべての対象者において「5（ある）」が最多となる非常にポジティブな結果となった。

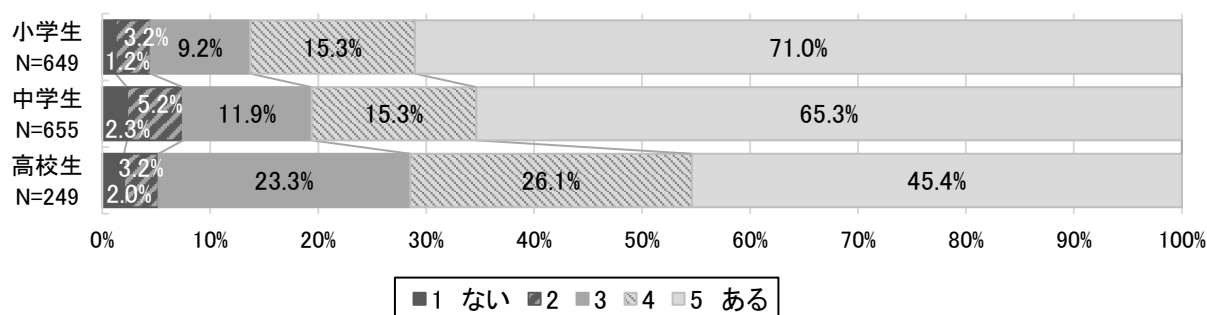
<学校アンケート>

小学生は「5（ある）」が最も多く 71.0%、次いで「4」が 15.3%、「3」が 9.2%であった。
中学生は「5（ある）」が最も多く 65.3%、次いで「4」が 15.3%、「3」が 11.9%であった。
高校生は、「5（ある）」が最も多く 45.4%、次いで「4」が 26.1%、「3」が 23.3%であった。

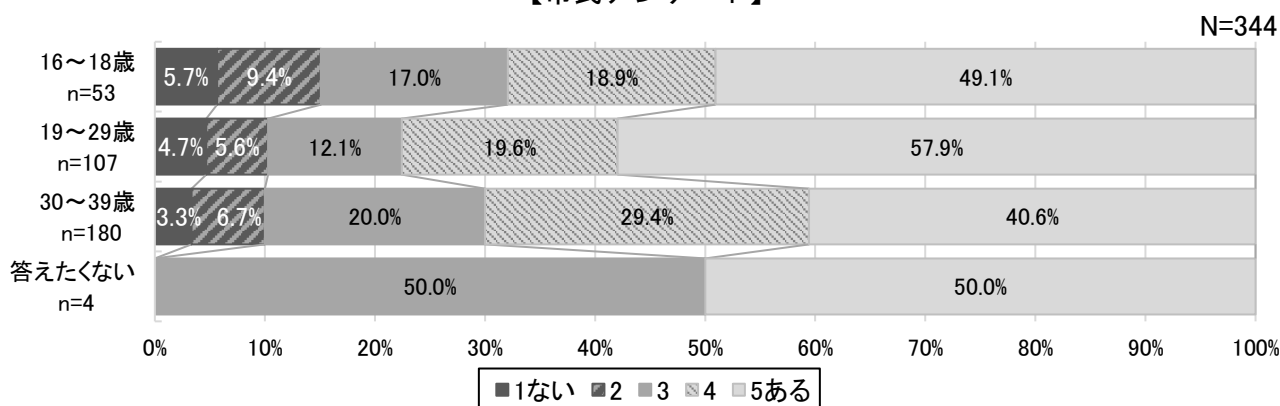
<市民アンケート>

16～18 歳は「5（ある）」が最も多く 49.1%、次いで「4」が 18.9%、「3」が 17.0%であった。
19～29 歳は「5（ある）」が最も多く 57.9%、次いで「4」が 19.6%、「3」が 12.1%であった。
30～39 歳は「5（ある）」が最も多く 40.6%、次いで「4」が 29.4%、「3」が 20.0%であった。
答えたくないと答えた方は「5」が 50.0%、「3」が 50.0%であった。

【学校アンケート】



【市民アンケート】



6 自分の居場所や役割がある（家庭・地域・職場等）

すべての対象者において「5（ある）」が最多となっており、多くの人が家庭や地域、職場で自分の居場所や役割を一定数実感できていることがわかる。ただし、小学生（54.2%）や19～29歳（50.5%）では「5」が半数を超えているのに対し、高校生（33.3%）や30代（35.0%）になると「5」の割合が減少し、代わって「3（中間）」や「4」の割合が増加している。

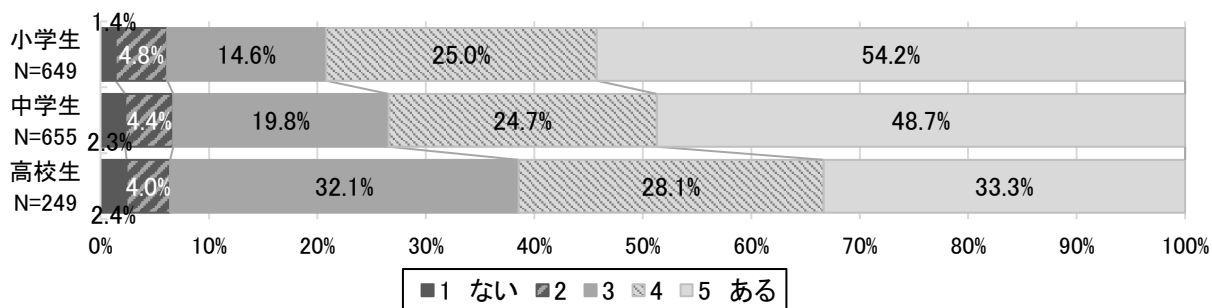
<学校アンケート>

小学生は「5（ある）」が最も多く54.2%、次いで「4」が25.0%、「3」が14.6%であった。中学生は「5（ある）」が最も多く48.7%、次いで「4」が24.7%、「3」が19.8%であった。高校生は「5（ある）」が最も多く33.3%、次いで「3」が32.1%、「4」が28.1%であった。

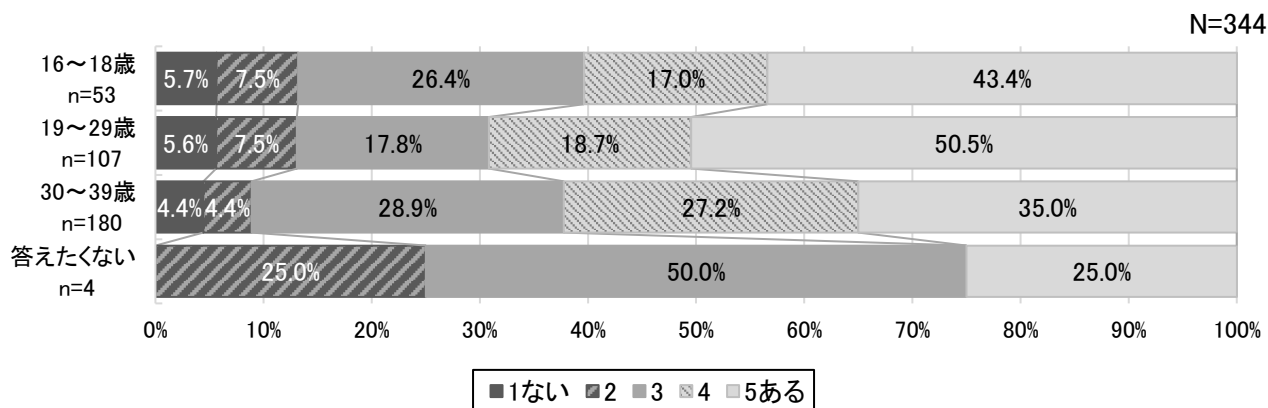
<市民アンケート>

16～18歳は「5（ある）」が最も多く43.4%、次いで「3」が26.4%、「4」が17.0%であった。19～29歳は「5（ある）」が最も多く50.5%、次いで「4」が18.7%、「3」が17.8%であった。30～39歳は「5（ある）」が最も多く35.0%、次いで「3」が28.9%、「4」が27.2%であった。

【学校アンケート】



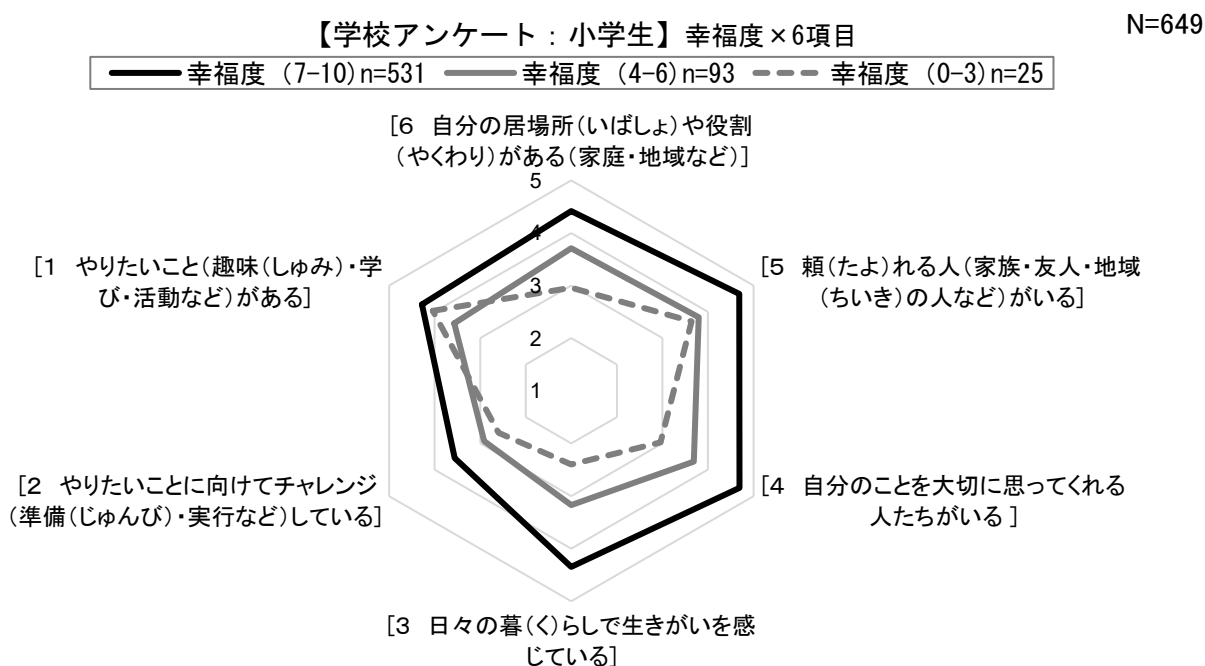
【市民アンケート】



■幸福度の平均と6つの項目（レーダーチャート）

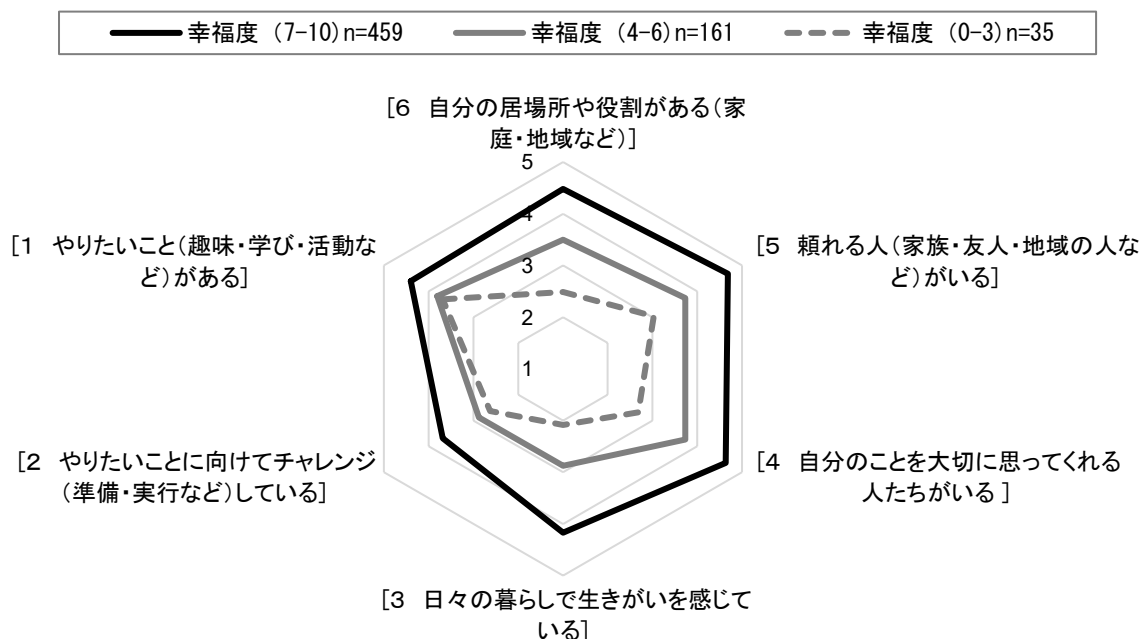
現在の幸福度（「7～10」「4～6」「0～3」の3層）と、前項の「6つの項目」に対する実感度（1～5のスコア）との関係についてクロス集計を行い、レーダーチャートを作成した。

すべての対象者において、幸福度が高い層（7～10）ほどレーダーチャートが大きく外側に広がり、6つの項目すべてのスコアが高くなるという相関関係がみられた。逆に、幸福度が低い層（0～3）ほどチャートが内側に縮小しており、すべての項目においてスコアが低くなっている。



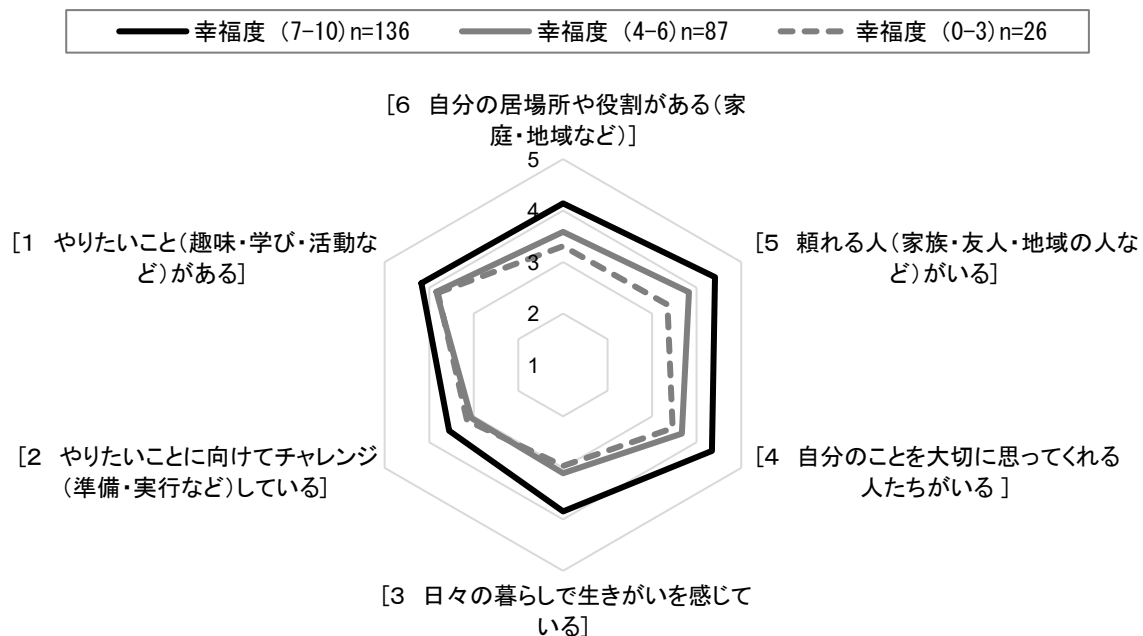
【学校アンケート：中学生】幸福度×6項目

N=655



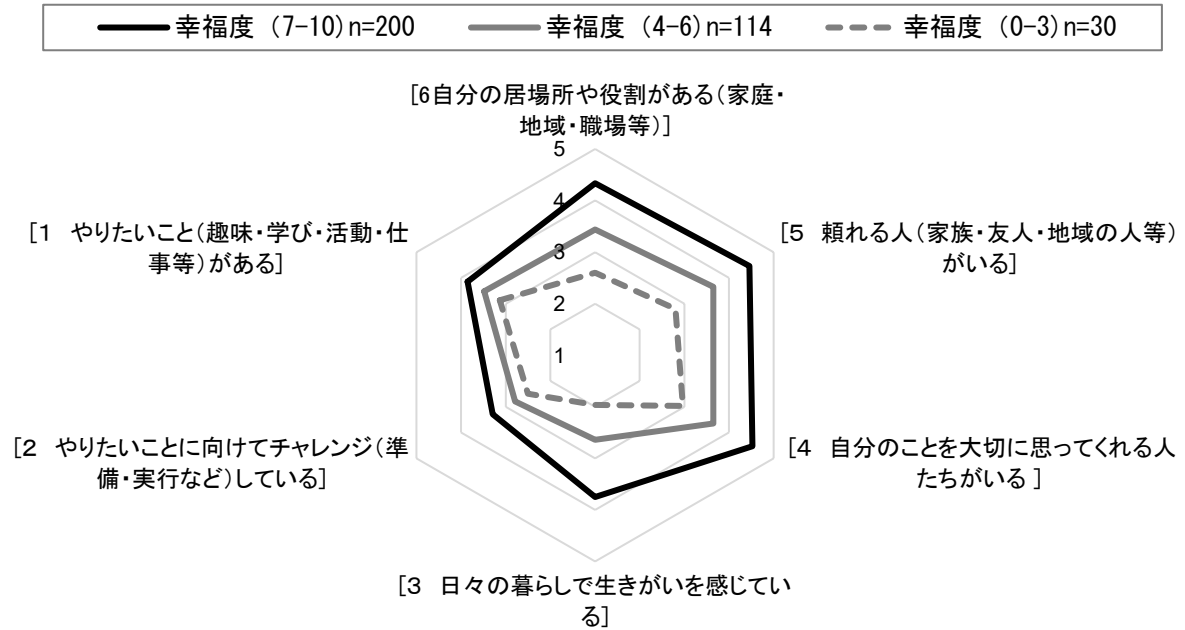
【学校アンケート：高校生】幸福度×6項目

N=249



【市民アンケート】幸福度×6項目

N=344



③ 朝来市はこどもに優しいまちだと感じるか（単一回答）

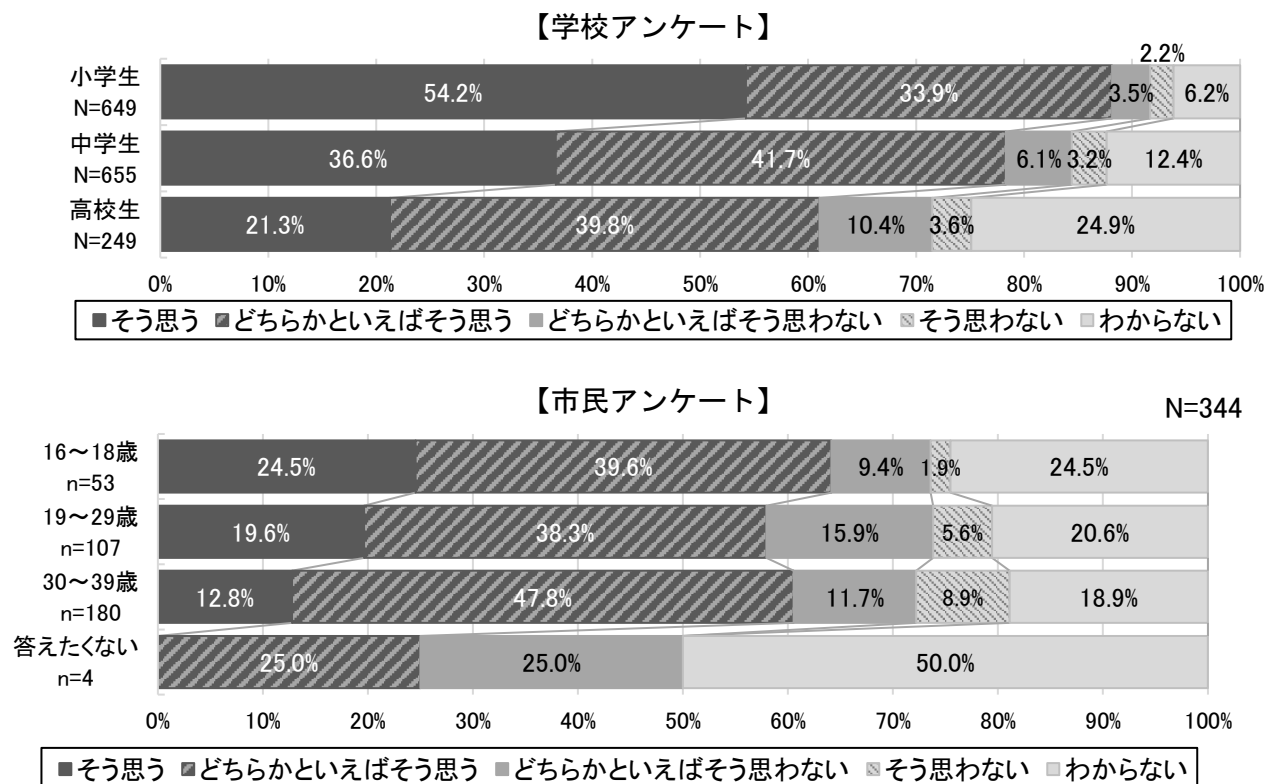
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な評価が、すべての年代において過半数を占める結果となった。一方で、小学生においては「そう思う（54.2%）」という強い肯定が最多であったのに対し、中学生以上になると「どちらかといえばそう思う」へと最多ボリュームが移行し、同時に「わからない」と回答する割合も増加していく結果となった。

<学校アンケート>

小学生は「そう思う」が54.2%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が33.9%、「わからない」が6.2%である。中学生は、「どちらかといえばそう思う」が最も多く41.7%、次いで「そう思う」が36.6%、「わからない」が12.4%であった。高校生は、「どちらかといえばそう思う」が最も多く39.8%、次いで「わからない」が24.9%、「そう思う」が21.3%であった。

<市民アンケート>

16～18歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く39.6%、次いで「そう思う」「わからない」がそれぞれ24.5%であった。19～29歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く38.3%、次いで「わからない」が20.6%、「そう思う」が19.6%であった。30～39歳は「どちらかといえばそう思う」が最も多く47.8%、次いで「わからない」が18.9%、「そう思う」が12.8%であった。



④ こどもに優しいまちだと感じる条件はなにか（複数回答）

すべての対象者において「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最多となり、世代を問わず「安全な居場所の確保」がこどもに優しいまちの絶対条件として認識されていることがわかった。一方で、第2位以下の項目に着目すると、中高生では「地域行事への参加」や「意見表明・参加する機会」が上位に入るのに対し、大人世代（特に30代）になると「育児と仕事の両立がしやすい体制」が上位に入ってくる結果となった。

<学校アンケート>

中学生は「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 60.2%、次いで「子どもが地域行事へ参加しともに活動できる環境がある」が 29.6%、「子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある」が 21.4%であった。高校生は「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 37.8%、次いで「子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある」が 32.9%、「困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある」が 22.5%であった。

<市民アンケート>

16～18歳は「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 60.2%、次いで「困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある」が 32.1%、「育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている」が 26.4%であった。19～29歳は「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 37.8%、次いで「地域でのつながりがあり子どもを地域で育むことを大切にしている」が 30.8%、「子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある」「育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている」がそれぞれ 26.2%であった。30～39歳は「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 56.4%、次いで「育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている」が 32.8%、「子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある」が 27.2%であった。

【学校アンケート】	中学生 N=655	高校生 N=249
子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある	60.2%	37.8%
子どもが地域行事へ参加しともに活動できる環境がある	29.6%	17.3%
子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある	21.4%	32.9%
困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある	20.8%	22.5%
有害及び危険な環境から守るための安全な環境がある	19.2%	9.6%
地域でのつながりがあり子どもを地域で育むことを大切にしている	18.0%	17.7%
子どもが安心して容易に相談できる体制がある	16.6%	15.7%
育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている	12.8%	10.8%
質の高い保育施設や教育を受けることができる	11.8%	9.6%
その他	2.1%	2.0%
無回答	2.3%	7.6%

【その他】中学生：地域の人たちが優しい／地域の人が優しく接してくれたりするから／ただいまと言ってくれる／医療費を負担してくれる／こどもが病院や手術をしたときに市からお金が出されること／給食が無料・給食費などがない／一人で行っていいゲーセン／近くにコンビニがある／まず大前提この上のものがあまりない(例えばもっと遊べる場所が必要)／子供が挑戦したい、やってみたい、と思ったことが実現できる条件／わからない 高校生：18歳までは病院がただ／感じない／自分で考えて欲しい／わからない
--

【市民アンケート】 N=344	16～18 歳 n=53	19～29 歳 n=107	30～39 歳 n=180	答えたくない n=4
子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある	60.2%	37.8%	56.4%	50.0%
子どもが地域行事へ参加しともに活動できる環境がある	11.3%	20.6%	15.0%	0.0%
子どもに関する施策について適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある	22.6%	26.2%	27.2%	25.0%
困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある	32.1%	24.3%	23.3%	0.0%
有害及び危険な環境から守るための安全な環境がある	20.8%	15.0%	11.7%	0.0%
地域でのつながりがあり子どもを地域で育むことを大切にしている	11.3%	30.8%	26.7%	25.0%
子どもが安心して容易に相談できる体制がある	20.8%	7.5%	10.0%	0.0%
育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている	26.4%	26.2%	32.8%	25.0%
質の高い保育施設や教育を受けることができる	18.9%	16.8%	17.8%	0.0%
その他	3.8%	5.6%	3.9%	0.0%

【その他】 () の中の数字は同様の意見の数 見かける子どもたちが幸せそうだから／地域のおじいちゃんおばあちゃんとかが小学校通学の時挨拶をいつもしてくれてて、見守ってもらってた感じがする／子育て支援が充実している (2) ／子供医療・医療費の補助／質の良い給食／未成年の子どもが体調不良時に気軽に病院を受診できる環境が整っているため。／質は高くなくていいが基礎的な教育や常識は必要。飛び出しや落書き、夜間の出歩きなどが多い時点で教育失敗している。／優しい街と感じないため／あまり感じない／子育てをしていないのでわからない／よくわからない (3)
--

■こどもに優しいまち × 条件（クロス集計）

前問の「朝来市はこどもに優しいまちだと感じるか」の回答傾向（肯定派・否定派・わからない）と、「こどもに優しいと感じるまちの条件」についてクロス集計を行った。

全体的な傾向として、すべての層で「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が半数を超え最多となった。一方で、第2位以下の項目に着目すると、肯定的に評価している層は「地域行事への参加」や「意見表明の機会」といった社会参画を条件に挙げている。対照的に、課題を感じている層や「わからない」と回答した層においては、「困難を有する家庭への支援」「仕事と育児の両立」「相談体制」といった、より切実で実践的なセーフティネットの充実を求める傾向が明確に表れた。

<こどもに優しいまちだと「そう思う」「どちらかといえばそう思う」層>（肯定派）

「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 56.0%、次いで「子どもが地域行事へ参加し、ともに活動できる環境がある」が 27.1%、「子どもに関する施策について、適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある」「無回答」がそれぞれ 26.8%であった。

<こどもに優しいまちだと「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」層>（否定派）

「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 50.9%、次いで「困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある」が 25.2%、「育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている」が 24.5%であった。

<「わからない」層>

「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」が最も多く 55.6%、次いで「困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある」が 25.9%、「子どもが安心して容易に相談できる体制がある」が 23.5%であった。

【学校アンケート・市民アンケート】

子どもにやさしいまちとその条件	子どもが安心して過ごすことができる 居場所や遊び場がある	子どもが地域行事へ参加し、ともに活動 できる環境がある	子どもに関する施策について、適切な情報提供が され、子どもが意見表明や参加する機会がある	困難を有する子どもと家庭に対し 必要な支援がある	有害及び危険な環境から守るための 安全な環境がある	地域でのつながりがあり、子どもを地域で 育むことを大切にしている	子どもが安心して容易に相談できる体制がある	育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている	質の高い保育施設や教育を受けることができる	その他	無回答
そう思う+ どちらかといえ ばそう思う (n=871)	56.0%	27.1%	26.8%	20.0%	14.6%	20.6%	13.7%	14.6%	11.7%	2.1%	26.8%
どちらかといえ ばそう思わない+ そう思わない (n=163)	50.9%	16.6%	16.0%	25.2%	19.6%	19.0%	13.5%	24.5%	16.6%	4.9%	16.0%
わからない (n=243)	55.6%	17.3%	17.3%	25.9%	22.2%	12.3%	23.5%	13.6%	17.3%	2.5%	17.3%

※本集計は、学校アンケートおよび市民アンケートの回答を合算して算出している。

- ⑤ まわりの大人の人に対して言いたいことがあれば、自由に書いてください。（困っていること、家族にしてほしいこと、学校の先生に言いたいこと、朝来市(市役所)にしてほしいことなど）（自由記述）

【1】 こどもの権利、こどもの意見反映、社会参画

学校アンケート： 小学生 (6)	・ 自分の意見を言っても聞いてくれない。自分の意見を聞いてほしい。話しにくい雰囲気などを作らないでほしい。 ・ もっと相談できる場所が欲しい。どんなことでも相談に乗ってくれる人が身近にいてほしい。 ・ 最後まで話を聞いてほしい。 ・ もっと自分の思いを分かって欲しい。 ・ 色々な人たちの意見を大切にしてほしい。
市民アンケート (10)	■若者の意見反映について ・ 年配者が若者に考えを押し付けがちな現状を改善し、こどもや女性の意見をもっと反映してほしい。また、こどもたちが小さな成功体験を積み重ねられる場を継続的に設けてほしい。 ・ 若者の意見が通りやすい地域づくりや、高齢者と若者が交流できる機会が必要である。 ・ 市役所に相談しても「古い考え」が優先され、変わらないと感じている。多種多様な意見を反映できる仕組みを作してほしい。 ・ ワークショップに参加しても実現されていないと感じる。 ■こどもの意見反映について ・ 地域活動（子ども議会など）の存在を知る機会を増やし、参加しやすい環境を整えてほしい。中高生には「将来の進路や推薦に役立つ」といったメリットを明確に伝えることで、地域への愛着と参加意欲を高めることができるのではないかな。 ・ 大人は余裕を持ち、こどもの目を見て話を聞いてほしい。一緒に考えられる関係性を求めている。 ・ 「子を大切にすること」と「甘やかし」を混同せず、子供の意見を受け入れた上で、時には正すという姿勢を持ってほしい。 ・ 年齢が上がるにつれ自立は大事だが、すべてを自分一人で抱えるのは不安なため、わからないことは優しく教えてもらえる環境であってほしい。

【2】 こども・子育て支援（妊娠～幼児期）

市民アンケート (22)	・ こども園の保育料を無償化し、副食費などの負担が認定区分（１号・２号）によって異なる現状を改善・統一してほしい。 ・ 物価高で生活が苦しいため、子育て給付金や補助金を増やしてほしい。 ・ 経済的な理由でこどもを諦める人がいないよう、手厚い支援を拡充してほしい。 ・ こどもの人数に応じた習い事への支援や、月謝・負担の軽減措置を検討してほしい。 ・ 指定ごみ袋の料金を安くするなど、家計の負担を減らしてほしい。 ・ 公園に専門遊具を増やし、トイレを洋式化してほしい。 ・ 外出先の授乳室やトイレについて、プライバシーへの配慮（仕切りや壁の高さ）や衛生面、設備の使いやすさを改善してほしい。 ・ 医療センターに産婦人科・小児科を設置し、市内での検診・出産体制を整えてほしい。 ・ 休日診療所がより身近な場所にあると安心できる。 ・ 子育て支援センターを毎日開放し、時間内ならいつでも利用できるようにしてほしい。 ・ 産後ケアの対象期間（現在は４ヶ月まで）をさらに延長し、内容を充実させてほしい。 ・ 移住者や転入者が孤独にならないよう、交流できる場の提供や支援センターの案内を徹底してほしい。 ・ 医療、介護、病後児保育などを一体的に取り組み、インクルーシブなまちづくりと人員確保を進めてほしい。 ・ 育児中でも気兼ねなく働ける短時間や期間限定の求人を増やしてほしい。 ・ 仕事と育児の両立には周囲のサポートが不可欠であり、現状では働き方を悩み、心身ともに疲弊している親が多い。 ・ 家事や育児に追われる中で、親がゆっくり休息でき、こどもと向き合える心の余裕が持てるような環境がほしい。 ・ 保育園の入園や転園の手続きをオンラインで完結できるようにしてほしい。 ・ 昨年県外から朝来市に引っ越してきて子どもが生まれたが、知り合い等相談できる人が周りにいないため、交流できる場がほしい。広報が届くのが遅いため、月初めには手元に届くように改善してほしい。 ・ 園での出来事について、先生の意見だけでなく親の意見もしっかり聞き取って判断してほしい。
-------------------------	--

【3】こども・子育て支援（学齢期、思春期）

市民アンケート (8)	■学校教育・相談体制など ・ 教育予算を拡充し、学校サポーターや生活支援員、学校看護師などの人的資源を確保して、こども一人ひとりのニーズに合わせた支援体制を整えてほしい。 ・ 学校での問題に対し、学校側がうやむやにせず、保護者へ迅速かつ誠実な説明・対応を行うよう徹底してほしい。 ・ 先生の熱意には感謝しつつも、根拠の不明確な対応を改め、但馬内や市内で統一された基準で運営してほしい。 ・ 小学校のホームページが数年前のまま更新されていない学校があるため、市で統一して指導し、最新の情報を確認できるようにしてほしい。 ・ 暑さ指数による学校待機やお迎えの要請について、距離の根拠（2km 以上など）を明確にし、共働き家庭でも対応できるようスクールバスを出すなどの対策を検討してほしい。 ・ 自宅から近い方の小学校に通えるよう校区割を見直すか、通いたい学校を選べる選択制を導入して、こどもの負担やバス維持費の無駄を減らしてほしい。 ・ 中学校の部活動廃止の動きは、他市の私立への生徒流出を招き、地域でこどもを育てることを放棄しているように感じる。 ・ 保健室などで、周囲に噂される心配がなく、親の承諾がなくても気軽に相談できるカウンセリング環境を整えてほしい。 ■地域 ・ 地区の行事や集まりが土日が多く、仕事を休むことによる経済的損失や精神的負担が大きいため、強制力や頻度を見直してほしい。 ■支援等 ・ こどもを持ちたいのに経済的な関係で持てない人でも安心して子育てができるような子育て支援を拡充してほしい。 ・ 子育て給付金を増やしてほしい。 ・ 習い事に対する支援があれば嬉しい。
------------------------	---

【4】こども・子育て支援（青年期、ポスト青年期）

市民アンケート (3)	■支援等（再掲） ・ こどもを持ちたいのに経済的な関係で持てない人でも安心して子育てができるような子育て支援を拡充してほしい。 ・ 子育て給付金を増やしてほしい。 ・ 習い事に対する支援があれば嬉しい。
------------------------	--

【5】配慮を必要とするこどもの支援

学校アンケート： 小学生 (3)	・ ご飯を無料で食べられる所を増やしてほしい。子ども食堂は友達がなくて気まずかった。 ・ いじめをなるべく減らす。 ・ 母子家庭向けに私立中学校に通うための学費を免除してほしい。
学校アンケート： 中学生 (3)	・ いじめにいち早く対処してほしい。 ・ ひとり親家庭や親がいない子どもへの経済的援助。 ・ 自閉症で友だちと話せないこと（が悩み）。
市民アンケート (7)	■発達支援・インクルーシブ施策 ・ 『小児療育・介護支援』『病児病後児保育事業』『在宅医療・介護連携支援センター』を一体的に取り組んでほしい。 ・ インクルーシブなまちづくりを推進してほしい。インクルーシブ教育を充実させ、そのための人員を確保してほしい。 ・ 発達障害（いわゆるグレーゾーン）のこどもが、小学校入学後も放課後等デイサービスや類似の支援施設を継続して利用できるよう、施設を拡充してほしい。 ・ 発達障害の疑いを告げられた親の心理的ケアや、市職員を含めた大人世代への発達障害に対する理解を深めてほしい。 ■学校の対応・カウンセリング ・ いじめや学習の悩みについて担任や学校に相談しても対応してもらえない現状を改善し、学校がこどもを助ける場所であってほしい。 ・ 周囲の目を気にせず、親の許可がなくても気軽に相談できるカウンセリング環境を中学校の保健室などに整えてほしい。 ■福祉・若者支援 ・ ヤングケアラーが孤立せず、辛い思いを話せる相談場所を設置してほしい。 ・ 働きたくても働けない若者への就労支援を充実させてほしい。 ・ 障害のある家庭や、大学・専門学校へ進学している家庭への経済的補助を強化してほしい。対象者へは個別にお知らせしてほしい。

【6】こども・若者の居場所・体験活動

学校アンケート： 小学生 (40)	■公園・居場所・室内施設の整備 ・ 大きな公園や気軽に遊べる公園をたくさん作ってほしい。（4） ・ 室内で遊べる施設や、みんなが楽しめる居場所（公共の場）がほしい。（3） ・ 図書館や市役所に、漫画・雑誌・専門書など本をもっと置いてほしい。（3） ・ 図書館を建ててほしい、または「あさご森の図書館」のような場所を作ってほしい。（2） ・ 公園にフェンスを設置してほしい。 ・ 公園に魚がいる池を作ってほしい。 ・ 中央公園の空いているスペースに遊具をつくってほしい。 ・ 図書館に勉強や仮眠ができるスペース、悩みを聞いてくれる専門の人を配置してほしい。
-------------------------	---

	・ こどもが行きやすい店、ごはん屋・漫画が売っている店を作してほしい。(2) ■ イベント・地域活動・交流 ・ 子供も大人も楽しめるイベントや祭りを増やしてほしい。(6) ・ ゴミ拾いなどの地域活動を子供も一緒に進めたい。(2) ・ 地域でお祭りや交流ができるようにしたい、みんなが楽しいと言えることをしてほしい。(2) ・ 近くのクラブチームなどの情報をチラシで出してほしい。 ・ スポーツができる施設・機会（部活も含む）を増やしてほしい。(12) ・ 中央公園などでボールの貸し出しをしてほしい。(2) ■ その他 ・ 人や動物に優しくできるまちづくりを考えてほしい。 ・ イオンに子供が行ける場所や、特定の玩具を売る店がほしい。(2) ・ スーパー、ジム、中古ショップ、電気屋などの商業施設を増やしてほしい。 ・ 運動不足解消のためにもジムがほしい。 ・ 野菜やお肉を安くしてほしい。 ・ 公園の近くなどでジュースを安く売ってほしい。
学校アンケート： 中学生 (27)	■ 居場所 ・ 気軽に遊べる場所やこどもの居場所を増やしてほしい。(6) ・ 和田山や糸井など、特定の地域に遊び場や遊具を増やしてほしい。(2) ・ Wi-Fi があり、友達と個室で遊べる建物がほしい。 ・ 公共施設でこどもが自由に遊んでいるのを妨げないでほしい。 ・ 庁舎自習室の開放時間を延長してほしい(13 時開始や祝日開放など)。(3) ・ 静かに勉強できるスペースや、図書館の机・椅子を増やしてほしい。(2) ・ おしゃべり可能な自習室や、学生が集まり交流できる広い自習スペースがほしい。(2) ・ 市役所を自習場所として開放してほしい。 ・ 図書館にドリンクサービスや勉強を教えてくれる人を配置してほしい。 ■ 体験 ・ 学校から参加できるボランティア活動を増やしてほしい。 ・ バasketボールのリングを公園などに設置してほしい。 ・ 山梨県体育館のバスケリングの故障を直し、全体的な老朽化を修繕してほしい。 ・ 雨や雪の日でも運動ができる但馬ドームのような施設を作してほしい。 ・ スポーツ施設を作してほしい。 ■ 娯楽等 ・ 楽しく遊べるお店や、ドリンク・軽食が食べられる場所がほしい。(2) ・ 地域の祭りや行事、楽しい思い出が作れる場所を増やしてほしい。(2) ・ こどもだけで遊べる場所や、プリクラがある施設がほしい。 ■ 相談体制 ・ 親や学校を通さず、休み時間などに「気軽に」進路や雑談を相談できるカウンセラーを配置してほしい。

学校アンケート： 高校生 (3)	・ 自習スペースが欲しい。学生でもお金が取られてしまうのは辛い。 ・ 飲食店、コンビニや小さい個人商店、ゲームセンターがほしい。(2)
市民アンケート (23)	■居場所 ・ 図書館のように静かにしなくてもよい場所や、中高生・若者が集まって交流できる居場所がほしい。 ・ 使用されていない公共施設を活用して、多世代が集まれる居場所を作ってほしい。 ・ 下校後や休日に安心して集まれる、監督者のいる自由な活動拠点がほしい。 ・ テスト期間でも困らないよう、静かに勉強や仕事に集中できる自習室やラーニングコモンズを増設してほしい。 ・ 図書館が遠い地域の人でもアクセスしやすい場所に学習スペースを作ってほしい。 ■体験活動・居場所等 ・ 勉強以外の学びや、他国の文化・カルチャーに触れる体験を充実させてほしい。 ・ 気軽に遊べる公園、遊具、屋内施設(木育施設、雨の日の遊び場)を増やし、老朽化した遊具を整備してほしい。 ・ 豊岡市の「WACC(ワック)」のような、親子で楽しめる充実した屋内施設がほしい。 ・ 和田山中央文化公園にできる新施設が、こどもや親が安心して気軽に遊べる場所になることを期待している。 ・ もっと体を動かす場所、スポーツができる場所を作してほしい。 ・ 新しくできる中央公園にバスケットコートを作してほしい。 ・ 懸垂ができる鉄棒など、大人が筋トレに利用できる公園器具を設置してほしい。 ・ 周辺自治体に比べてスポーツ施設が少ないと感じる。 ■娯楽等 ・ 和田山のイオンの内容を充実させるなど、親子で楽しめる娯楽施設がほしい。 ・ ゲームセンターやカラオケなどの娯楽施設がほしい。

【7】働き方・ジェンダー平等

市民アンケート (10)	■労働環境・経済支援 ・ 育児中でも気兼ねなく働ける、短時間勤務や人間関係の良好な求人を増やしてほしい。 ・ 仕事と育児の両立には周囲のサポートが不可欠であり、現在の働き方に悩んでいる。 ・ 企業内での偏見による評価を改めてほしい。 ・ 企業や農業の誘致に力を入れ、働く人やこどもを増やしてほしい。 ・ 給料を上げてほしい。
-----------------	---

	■地域行事・組織の負担軽減・男女の役割の固定化 ・ 地区行事や集まりが土日に集中しており、仕事への経済的損失や精神的負担が大きいため、強制力や頻度を見直してほしい。（2） ・ 時代にそぐわない不平等な組織（特定の地区の「女性会」など）の廃止を働きかけ、家族との時間を増やせるようにしてほしい。 ・ 若い女性を選びにくい田舎特有の差別や考え方があることを理解し、ゆるやかな衰退を受け入れたまちづくりも検討すべきである。
--	---

【8】 こども・若者を取りまく基盤

学校アンケート： 小学生 (3)	・ QR コードなどが多いが携帯を持っていないこどもも沢山いるので配慮してほしい。 ・ 中学生になったら自転車通学になるが、雪の日や雨の日が心配。親が送迎する人が多いと聞いたが両親が働いている家庭はどうしているのだろう。高齢者の車も多く心配なので、バス通学ができれば安心。
市民アンケート (4)	■施設・設備の改善 ・ 赤ちゃん休憩室やベビーチェア付きトイレを増やし、1人でもこどもを連れて利用しやすくしてほしい。 ・ 授乳室等のプライバシー配慮（壁の高さやカーテンの設置）、衛生面、調乳用給湯の利便性、キッズスペースの老朽化などを改善してほしい。 ■教育・行政サービス ・ 教育予算を拡充し、学校サポーターや生活支援員、学校看護師などの人的資源を確保して、こども一人ひとりのニーズに合わせた支援体制を整えてほしい。 ・ 保育園の入園・転園手続きをオンライン化してほしい。 ・ 広報誌が届くのが遅いため、月初めに届くように改善してほしい。 ・ 転入時に子育て支援センターの案内を徹底してほしい。 ・ このようなアンケートを定期的実施してほしい。 ■移住者・若者支援 ・ 県外からの移住者が孤立しないよう、こどもを連れて交流できる場を設けてほしい。 ・ 地元へ U ターン就職した際の奨学金返済支援など、未来を担う現役世代の若者を支援する制度を導入してほしい。

3 〔参考〕 アンケート依頼文、アンケート設問項目

朝来市こども・若者意識調査

アンケート調査のご協力をお願い

小学校4～6年生のみなさんへ

朝来市では、全てのこどもが将来にわたって幸せな生活をおくることのできる社会をめざし、みなさんからご意見をいただくアンケート調査を行います。

このアンケートは、朝来市に住んでいる小学校4～6年生のみなさんのふだんの生活のことや、どんなことを思っているかについて質問します。みなさんの思いやご意見をお聞かせください。回答にかかる時間は、15分から20分ぐらいです。

このアンケート調査では、プライベートな内容の質問もありますが、回答いただいた内容について、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることはありませんので、安心してください。よろしくお願いします。

令和7年12月

朝来市長 藤岡 勇



【ご回答の方法】

タブレット、スマートフォンまたはパソコンなどで、**令和8年1月23日**までに回答をお願いします。

(注意) 質問の内容が難しい場合は、回答せず次の質問にお進みください。

■タブレットやスマートフォンで回答する場合

右のQRコードを読み取り、回答画面を開いてください。

■パソコンで回答する場合

以下のURLより回答画面を開いてください。
<https://logoform.jp/f/Jq7hj>



【お問合せ先】朝来市こどもみらい部子育て支援課
電話 079-666-8103 kosodate@city.asago.lg.jp

アンケート調査のご協力をお願い

中学校1～3年生のみなさんへ

朝来市では、全てのこどもが将来にわたって幸せな生活をおくることのできる社会をめざし、みなさんからご意見をいただくアンケート調査を行います。

このアンケートは、朝来市に住んでいる中学校2～3年生のみなさんの普段の生活のことや、どんなことを思っているかについて質問します。みなさんの思いやご意見をお聞かせください。回答にかかる時間は、15分から20分ぐらいです。

このアンケート調査では、プライベートな内容の質問もありますが、回答いただいた内容について、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることはありませんので、安心してください。よろしくお願いします。

令和7年12月

朝来市長 藤岡 勇



【ご回答の方法】

タブレット、スマートフォンまたはパソコンなどで、**令和8年1月23日**までに回答をお願いします。

(注意) 質問の内容が難しい場合は、回答せず次の質問にお進みください。

■タブレットやスマートフォンで回答する場合

右のQRコードを読み取り、回答画面を開いてください。

■パソコンで回答する場合

以下のURLより回答画面を開いてください。
<https://logoform.jp/f/C9v1G>



【お問合せ先】朝来市こどもみらい部子育て支援課
電話 079-666-8103 kosodate@city.asago.lg.jp

アンケート調査のご協力をお願い

和田山高校・生野高校のみなさんへ

朝来市では、全てのこども・若者が将来にわたって幸せな生活をおくることのできる社会をめざし、みなさんからご意見をいただくアンケート調査を行います。

このアンケートは、朝来市在住の有無に関わらず兵庫県立和田山高校と生野高校の高校生の方のみなさんの普段の生活のことや、どんなことを思っているかについて質問します。みなさんの思いやご意見をお聞かせください。回答にかかる時間は、15分から20分ぐらいです。

このアンケート調査では、プライベートな内容の質問もありますが、回答いただいた内容について、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることはありませんので、安心してください。よろしくお願いします。

令和7年12月

朝来市長 藤岡 勇



【ご回答の方法】

タブレット、スマートフォンまたはパソコンなどで、**令和8年1月23日**までに回答をお願いします。

(注意) 質問の内容が難しい場合は、回答せず次の質問にお進みください。

■タブレットやスマートフォンで回答する場合

右のQRコードを読み取り、回答画面を開いてください。

■パソコンで回答する場合

以下のURLより回答画面を開いてください。
<https://logoform.jp/f/3a15l>



【お問合せ先】朝来市こどもみらい部子育て支援課
電話 079-666-8103 kosodate@city.asago.lg.jp

〔ハガキ〕

朝来市こども・若者意識調査 アンケート調査のご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政各般にわたり、御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、朝来市では、全てのこども・若者が将来にわたって幸せな生活をおくることのできる社会づくりを目指し「朝来市こども計画」を策定します。こども・若者の現状や意見等を把握し、計画に反映させることを目的として、こども・若者を対象にアンケートを実施します。

大変御多用のところ誠に恐縮ではございますが、本アンケート調査(15歳から39歳皆様を対象)に、御協力賜りますよう、お願い申し上げます。

回答いただいた内容について、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることはありませんので御安心ください。

令和7年12月 朝来市長 藤岡 勇

【御回答の方法】

お持ちのタブレット、スマートフォンまたはパソコン等で、**令和8年1月23日まで**に御回答をお願いします。

■タブレット等で回答する場合

右のQRコードを読み取り、
回答画面を開いてください。

■パソコンで回答する場合

次のURLより回答画面を開いて
ください。 <https://logoform.jp/f/J4h3J>



【お問合せ先】朝来市こどもみらい部子育て支援課
電話 079-666-8103 kosodate@city.asago.lg.jp

※令和8年3月31日現在で16～39歳の方を対象にしているため、
アンケート依頼文は「15歳から39歳皆様を対象」としています。

朝来市こども・若者意識調査（小学生調査票） 設問項目

No.	設問	解答方式	選択肢	必須
1	あなたの性別を教えてください。	単解答： 1つに○	1 男性 2 女性 3 その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	○
2	あなたの学年（令和7年12月1日現在）を教えてください。	単解答： 1つに○	1 4年生 2 5年生 3 6年生	○
3	あなたが通っている学校を教えてください。	単解答： 1つに○	1 生野小学校 2 糸井小学校 3 大蔵小学校 4 枚田小学校 5 東河小学校 6 竹田小学校 7 梁瀬小学校 8 中川小学校 9 山口小学校	○
4	現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。	複数回答： すべてに○	1 父 2 母 3 兄弟姉妹 4 祖父母 5 その他の親せき 6 答えたくない 7 その他（ ）	
5	あなたは、すべてのこどもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。	単解答： 1つに○	1 知っている 2 聞いたことがあるが、内容はよくわからない 3 知らない	○
6	あなたは、大人の人に自分の意見を言えていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
7	あなたは、自分の意見が大事にされていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
8	あなたは自由時間や休息を十分に取れていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
9	あなたの自由時間や休息の使い方としてあてはまるものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 ゆっくり寝る 2 何もしない、ぼーっとする 3 趣味（スポーツ、音楽、アート、創作活動など）を楽しむ 4 読書や映画・ドラマ・アニメなどを楽しむ 5 ゲーム、インターネット、SNSを見る 6 勉強、スキルアップなど自分の学びを広げる 7 家族と過ごす 8 友人と過ごす 9 一人で過ごす 10 ボランティア活動や地域活動をする 11 その他（ ）	

10	あなたは、こどもや若者にとっての「居場所」とは、どんなところだと思いますか。	複数回答： すべてに○	1 自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所 2 落ち着いてくつろげる場所 3 好きなものがあったり、好きなことができる場所 4 周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所 5 友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所 6 自分のことを否定されたり、嫌なことが起きない場所 7 大人に指示されたり、強制されたりしない場所 8 自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所 9 色々なイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所 10 信頼できるスタッフがいる場所 11 色々な人と出会える場所 12 その他（ ）	
11	あなたが「居場所」と感じるのは次のうちどこですか。	複数回答： すべてに○	1 自分の部屋 2 自宅（親せきの家を含む） 3 友だちの家 4 学校（教室・図書室・運動場など） 5 放課後児童クラブ（学童クラブ） 6 塾や習いごと・スポーツクラブ 7 地域の施設（図書館・生涯学習センター・公園など） 8 お店（スーパー、コンビニ、だかし屋など） 9 インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど） 10 居場所はない 11 その他（ ）	
12	朝来市にどんな「居場所」があったらいいと思いますか。	複数回答： 3つに○	1 静かに勉強や読書ができる 2 友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる 3 話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など） 4 ドリンクや軽食がある（無料または低価格） 5 Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可） 6 本・マンガ・雑誌がある 7 楽器、工作や絵を描く道具がある 8 スポーツ用具がある・運動ができる 9 音楽や演劇など表現活動ができる 10 ボランティアや地域活動に気軽に参加できる 11 新しい友だちに会える 12 安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある） 13 プライバシーが守られる（相談室など） 14 開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる 15 安全対策がされている 16 オンライン参加が可能である 17 居場所はいらない 18 その他（ ）	
13	上記の質問の「居場所」までどのくらいの距離なら自分自身で移動して行きたいですか。	単解答： 1つに○	1 1kmぐらい（徒歩で10-15分ぐらい） 2 3kmぐらい（徒歩で20～40分、または自転車で15分ぐらい） 3 5kmぐらい（自転車で15～30分ぐらい、またはあさGOで5分ぐらい） 4 5km以上20kmぐらい（電車やあさGOなどの公共交通機関を使って移動できる距離） 5 特に距離は意識しない	

14	あなたはどんな体験活動・交流の場に参加したいですか。	複数回答： すべてに○	1 山や川での自然やアウトドア体験 2 農業体験 3 地域の会社やお店での仕事体験 4 地域の文化（お祭り、産業など）体験 5 地域のスポーツ交流 6 演劇、音楽、美術などの文化体験 7 ボランティア活動 8 高齢者や小さな子どもと交流 9 海外の人との交流 10 地域の大人との交流 11 特に参加したいと思わない 12 その他（ ）	
15	あなたが学校外の活動で参加したり関わったりしてみたいもの、またはしてみたいものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 地域の祭りやイベントの手伝いをしたい 2 地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい 3 ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい 4 高齢者や小さな子どものお世話や交流活動をしたい 5 地域の活動や習い事でリーダーなど責任ある役割を果たしたい 6 朝来市や地域の会議（地域について話し合う場）などに参加したい 7 特に参加したいと思わない 8 その他（ ）	
16	「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者をヤングケアラーといいます。）	単回答： 1つに○	1 聞いたことがあり、内容も知っている 2 聞いたことはあるが、よく知らない 3 聞いたことはない	○
17	あなたの状況について、あてはまるものをお選びください。 ※ヤングケアラーの具体例のイメージが分かりやすいように挿絵を入れる。	複数回答： すべてに○	1 障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている 2 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている 3 障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている 4 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている 5 日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている 6 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている 7 アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している 8 がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている 9 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている 10 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11 自分にあてはまるものはない 12 その他（ ）	

18	(No.17で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、経験したことがあることを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 学校を休んでしまう 2 遅刻や早退をしてしまう 3 宿題など勉強する時間がない 4 眠る時間が足りない 5 友だちと遊ぶことができない 6 習い事ができない 7 自分の時間が取れない 8 体力的に疲れている 9 心に余裕がない 10 その他 () 11 特にない	
19	(No.17で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、大変さを感じていますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
20	(No.17で1～10,12を選択した方のみ) あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。	単解答： 1つに○	1 ある 2 ない	
21	(No.20で1を選択した方のみ) 誰に相談しましたか。	複数回答： すべてに○	1 家族（お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、きょうだい） 2 親戚（おじ、おばなど） 3 友だち 4 学校の先生 5 保健室の先生 6 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー 7 病院・医療・福祉サービスの人 8 近所の人 9 SNS上での知り合い 10 その他 ()	
22	(No.17で1～10,12を選択した方のみ) あなたのお名前を教えてください。答えなくてはならぬ答えなくてよいです。 ※相談したい方は必ず書いてください。秘密は必ず守りますので、ご安心ください。	自由記述		
23	現在、あなたはどの程度幸せだと感じていますか。	10段階	0 とても不幸 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても幸せ	○

24	あなたは、以下の項目について、どのように感じていますか。 1 やりたいこと（趣味・学び・活動など）がある 2 やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行など）している 3 日々の暮らしで生きがいを感じている 4 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる 5 頼れる人（家族・友人・地域の人など）がいる 6 自分の居場所や役割がある（家庭・地域など）	5段階	1 ない 2 3 4 5 ある	○
25	あなたは、朝来市はこどもに優しいまちだと感じますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
26	最後に、あなたがまわりの大人の人に対して伝えたいことがあれば、自由に書いてください。 （困っていること、家族にしてほしいこと、学校の先生に伝えたいこと、朝来市(市役所)にしてほしいことなど）	記述		

※小学校学習指導要領に基づき、4年生以上で習う漢字についてはルビをふる。

朝来市こども・若者意識調査（中学生調査票） 設問項目

No.	設問	解答方式	選択肢	必須
1	あなたの性別を教えてください。	単解答： 1つに○	1 男性 2 女性 3 その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	○
2	あなたの学年（令和7年12月1日現在）を教えてください。	単解答： 1つに○	1 1年生 2 2年生 3 3年生	○
3	あなたが通っている学校を教えてください。	単解答： 1つに○	1 生野中学校 2 和田山中学校 3 梁瀬中学校 4 朝来中学校	○
4	現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。	複数回答： すべてに○	1 父 2 母 3 兄弟姉妹 4 祖父母 5 その他の親せき 6 答えたくない 7 その他（ ）	
5	あなたは、すべてのこどもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。	単解答： 1つに○	1 知っている 2 聞いたことがあるが、内容はよくわからない 3 知らない	○
6	あなたは、大人の人に自分の意見を言えていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
7	あなたは、自分の意見が大事にされていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
8	あなたは、どんな工夫やルールがあれば、朝来市（市役所）に対して、自分の意見を伝えやすいと思いますか。	複数回答： すべてに○	1 匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる 2 意見の伝え方や伝える意見のテーマについて、前もって学ぶ機会がある 3 伝えた意見がどのように扱われるかがわかる 4 意見を伝える場に、友だちや知り合いと一緒に参加できる 5 自分の意見を聴く人がどんな人か、前もってわかる 6 伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる 7 意見を伝えるときに、身近な信頼できる人がそばにいる 8 ほかの人の意見も知ることができる 9 伝えた意見が制度や政策に反映されるところまで関わることができる 10 伝えた内容が公開されない（秘密にしてくれる） 11 自分の意見をほかの人が代弁してくれる 12 意見を伝える場に、友だちや知り合いがいない 13 謝礼（お礼のお金）がもらえる 14 その他（ ） 15 伝えたい意見はない	

9	あなたは自由時間や休息を十分に取れていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
10	あなたの自由時間や休息の使い方としてあてはまるものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 ゆっくり寝る 2 何もしない、ぼーっとする 3 趣味（スポーツ、音楽、アート、創作活動など）を楽しむ 4 読書や映画・ドラマ・アニメなどを鑑賞する 5 ゲーム、インターネット、SNSの閲覧をする 6 勉強、スキルアップなど自分の学びを広げる 7 家族と過ごす 8 友人と過ごす 9 一人で過ごす 10 ボランティア活動や地域活動をする 11 その他（ ）	
11	あなたは、こどもや若者にとっての「居場所」とは、どんなところだと思いますか。	複数回答： すべてに○	1 自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所 2 落ち着いてくつろげる場所 3 好きなものがあったり、好きなことができる場所 4 周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所 5 友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所 6 自分のことを否定されたり、嫌なことが起きない場所 7 大人に指図されたり、強制されたりしない場所 8 自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所 9 色々なイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所 10 信頼できるスタッフがいる場所 11 色々な人と出会える場所 12 その他（ ）	
12	あなたが「居場所」と感じるのは次のうちどこですか。	複数回答： すべてに○	1 自分の部屋 2 自宅（親せきの家を含む） 3 友だちの家 4 学校（教室・図書室・運動場など） 5 クラブ活動・部活動 6 塾や習いごとの場所 7 地域の施設（図書館・生涯学習センター・公園など） 8 お店（ゲームセンター・カラオケボックス・ショッピングセンター・ファストフード店・ファミレス・コンビニなど） 9 インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど） 10 居場所はない 11 その他（ ）	

13	朝来市にどんな「居場所」があったらいいと思いますか。	複数回答： 3つに○	1 静かに勉強や読書ができる 2 友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる 3 話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など） 4 ドリンクや軽食がある（無料または低価格） 5 Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可） 6 本・マンガ・雑誌が充実している 7 クリエイティブな道具（画材、楽器、工作機材）がある 8 スポーツ用具がある・運動ができる 9 音楽や演劇など表現活動ができる 10 ボランティアや地域活動に気軽に参加できる 11 新しい友だちに会える 12 安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある） 13 プライバシーが守られる（相談室など） 14 開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる 15 安全対策（身分確認、緊急連絡体制など）がされている 16 オンライン参加が可能である（ハイブリッド方式） 17 居場所は必要ない 18 その他（ ）	
14	上記の質問の「居場所」までどのくらいの距離なら自分自身で移動して行きたいですか。	単解答： 1つに○	1 1km程度（徒歩で10-15分程度） 2 3km程度（徒歩で20～40分、または自転車で15分程度） 3 5km程度（自転車で15～30分程度、またはあさGOで5分程度） 4 5km以上20km程度（電車やあさGOなどの公共交通機関を使って移動できる範囲） 5 特に距離は意識しない	
15	あなたはどんな体験活動・交流の場に参加したいですか。	複数回答： すべてに○	1 山や川での自然やアウトドア体験 2 農業体験 3 地域の会社やお店での仕事体験 4 地域の文化（お祭り、産業など）体験 5 地域のスポーツ交流 6 演劇、音楽、美術などの文化体験 7 ボランティア活動 8 高齢者や小さな子どもと交流 9 海外の人との交流 10 地域の大人との交流 11 特に参加したいと思わない 12 その他（ ）	
16	あなたが学校外の活動で参加したり関わったりしてみたいもの、またはしてみたいものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 地域の祭りやイベントの手伝いをしたい 2 地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい 3 ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい 4 高齢者や小さな子どものお世話や交流活動をしたい 5 地域の活動や習い事でリーダーなど責任ある役割を果たしたい 6 朝来市や地域の会議（地域について話し合う場）などに参加したい 7 特に参加したいと思わない 8 その他（ ）	
17	「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者をヤングケアラーといいます。）	単解答： 1つに○	1 聞いたことがあり、内容も知っている 2 聞いたことはあるが、よく知らない 3 聞いたことはない	○

18	あなたの状況について、あてはまるものをお選びください。 ※ヤングケアラーの具体例のイメージが分かりやすいように挿絵を入れる。	複数回答： すべてに○	1 障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている 2 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている 3 障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている 4 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている 5 日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている 6 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている 7 アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している 8 がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている 9 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている 10 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11 自分にあてはまるものはない 12 その他（ ）	○
19	(No.18で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、経験したことがあることを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 学校を休んでしまう 2 遅刻や早退をしてしまう 3 宿題など勉強する時間がない 4 眠る時間が足りない 5 友だちと遊ぶことができない 6 習い事ができない 7 自分の時間が取れない 8 体力的に疲れている 9 心に余裕がない 10 その他（ ） 11 特にない	
20	(No.18で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、大変さを感じていますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
21	(No.18で1～10,12を選択した方のみ) あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。	単解答： 1つに○	1 ある 2 ない	
22	(No.21で1を選択した方のみ) 誰に相談しましたか。	複数回答： すべてに○	1 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい） 2 親戚（おじ、おばなど） 3 友だち 4 学校の先生 5 保健室の先生 6 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー 7 病院・医療・福祉サービスの人 8 近所の人 9 SNS上での知り合い 10 その他（ ）	

23	現在、悩んだり困っていることはありますか。	複数回答： すべてに○	1 友人との関係のこと 2 学業成績のこと 3 進路のこと 4 部活動のこと 5 学費など学校生活に必要なお金のこと 6 塾や習いごとができない 7 家庭の経済的状況のこと 8 自分と家族の関係のこと 9 家族内の人間関係のこと（両親の仲がよくないなど） 10 病気や障がいのある家族のこと 11 自分のために使える時間が少ない 12 悩んだり困っていることはない 13 その他（ ）	
24	（No.18で1～10,12を選択した方）または （No.23で1～11を選択した方） 差し支えなければ、お名前を教えてください。 ※相談したい方は必ず書いてください。秘密は必ず守りますので、ご安心ください。	自由記述		
25	現在、あなたはどの程度幸せだと感じていますか。	10段階	0 とても不幸 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても幸せ	○
26	あなたは、以下の項目について、どのように感じていますか。 1 やりたいこと（趣味・学び・活動など）がある 2 やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行など）している 3 日々の暮らしで生きがいを感じている 4 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる 5 頼れる人（家族・友人・地域の人など）がいる 6 自分の居場所や役割がある（家庭・地域など）	5段階	1 ない 2 3 4 5 ある	○
27	あなたは、朝来市はこどもに優しいまちだと感じますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○

28	あなたが、こどもに優しいまちだと感じる条件は なんですか。	複数回答： 3つに○	1 子どもに関する施策について、適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある 2 困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある 3 有害及び危険な環境から守るための安全な環境がある 4 子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある 5 子どもが地域行事へ参加し、ともに活動できる環境がある 6 地域でのつながりがあり、子どもを地域で育むことを大切にしている 7 子どもが安心して容易に相談できる体制がある 8 育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている 9 質の高い保育施設や教育を受けることができる 10 その他（ ）	
29	最後に、あなたがまわりの大人の人に対して伝えたいことがあれば、自由に書いてください。 (困っていること、家族にしてほしいこと、学校の先生に伝えたいこと、朝来市(市役所)にしてほしいことなど)	記述		

朝来市こども・若者意識調査（高校生調査票） 設問項目

No.	設問	解答方式	選択肢	必須
1	あなたの性別を教えてください。	単解答： 1つに○	1 男性 2 女性 3 その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	○
2	あなたの学年（令和7年12月1日現在）を教えてください。	単解答： 1つに○	1 1年生 2 2年生 3 3年生	○
3	あなたが通っている学校を教えてください。	単解答： 1つに○	1 生野高校 2 和田山高校	○
4	あなたのお住まいの地域をお答えください。	単解答： 1つに○	1 生野地域 2 和田山地域 3 山東地域 4 朝来地域 5 答えたくない 6 その他（ ）	
5	現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。	複数回答： すべてに○	1 父 2 母 3 兄弟姉妹 4 祖父母 5 その他の親せき 6 答えたくない 7 その他（ ）	
6	あなたは、すべてのこどもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。	単解答： 1つに○	1 知っている 2 聞いたことがあるが、内容はよくわからない 3 知らない	○
7	あなたは、大人の人に自分の意見を言えていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
8	あなたは、自分の意見が大事にされていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
9	あなたは、どんな工夫やルールがあれば、朝来市（市役所）に対して、自分の意見を伝えやすいと思いますか。	複数回答： すべてに○	1 匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる 2 意見の伝え方や伝える意見のテーマについて、前もって学ぶ機会がある 3 伝えた意見がどのように扱われるかがわかる 4 意見を伝える場に、友だちや知り合いと一緒に参加できる 5 自分の意見を聴く人がどんな人か、前もってわかる 6 伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる 7 意見を伝えるときに、身近な信頼できる人がそばにいる 8 ほかの人の意見も知ることができる 9 伝えた意見が制度や政策に反映されるところまで関わることができる 10 伝えた内容が公開されない（秘密にしてくれる） 11 自分の意見をほかの人が代弁してくれる 12 意見を伝える場に、友だちや知り合いがいない 13 謝礼（お礼のお金）がもらえる 14 その他（ ） 15 伝えたい意見はない	

10	あなたは自由時間や休息を十分に取れていると思いますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
11	あなたの自由時間や休息の使い方としてあてはまるものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 ゆっくり寝る 2 何もしない、ぼーっとする 3 趣味（スポーツ、音楽、アート、創作活動など）を楽しむ 4 読書や映画・ドラマ・アニメなどを鑑賞する 5 ゲーム、インターネット、SNSの閲覧をする 6 勉強、スキルアップなど自分の学びを広げる 7 家族と過ごす 8 友人と過ごす 9 一人で過ごす 10 ボランティア活動や地域活動をする 11 その他（ ）	
12	あなたは、こどもや若者にとっての「居場所」とは、どんなところだと思いますか。	複数回答： すべてに○	1 自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所 2 落ち着いてくつろげる場所 3 好きなものがあったり、好きなことができる場所 4 周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所 5 友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所 6 自分のことを否定されたり、嫌なことが起きない場所 7 大人に指図されたり、強制されたりしない場所 8 自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所 9 色々なイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所 10 信頼できるスタッフがいる場所 11 色々な人と出会える場所 12 その他（ ）	
13	あなたが「居場所」と感じるのは次のうちどこですか。	複数回答： すべてに○	1 自分の部屋 2 自宅（親せきの家を含む） 3 友だちの家 4 学校（教室・図書室・運動場など） 5 クラブ活動・部活動 6 塾や習いごとの場所 7 地域の施設（図書館・生涯学習センター・公園など） 8 お店（ゲームセンター・カラオケボックス・ショッピングセンター・ファストフード店・ファミレス・コンビニなど） 9 インターネット空間（SNS・動画サイト・オンラインゲームなど） 10 居場所はない 11 その他（ ）	

14	朝来市にどんな「居場所」があったらいいと思いますか。	複数回答： 3つに○	1 静かに勉強や読書ができる 2 友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる 3 話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など） 4 ドリンクや軽食がある（無料または低価格） 5 Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可） 6 本・マンガ・雑誌が充実している 7 クリエイティブな道具（画材、楽器、工作機材）がある 8 スポーツ用具がある・運動ができる 9 音楽や演劇など表現活動ができる 10 ボランティアや地域活動に気軽に参加できる 11 新しい友だちに会える 12 安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある） 13 プライバシーが守られる（相談室など） 14 開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる 15 安全対策（身分確認、緊急連絡体制など）がされている 16 オンライン参加が可能である（ハイブリッド方式） 17 居場所は必要ない 18 その他（ ）	
15	上記の質問の「居場所」までどのくらいの距離なら自分自身で移動して行きたいですか。	単解答： 1つに○	1 1km程度（徒歩で10-15分程度） 2 3km程度（徒歩で20～40分、または自転車で15分程度） 3 5km程度（自転車で15～30分程度、またはあさGOで5分程度） 4 5km以上20km程度（電車やあさGOなどの公共交通機関を使って移動できる範囲） 5 特に距離は意識しない	
16	あなたはどんな体験活動・交流の場に参加したいですか。	複数回答： すべてに○	1 山や川での自然やアウトドア体験 2 農業体験 3 地域の会社やお店での仕事体験 4 地域の文化（お祭り、産業など）体験 5 地域のスポーツ交流 6 演劇、音楽、美術などの文化体験 7 ボランティア活動 8 高齢者や小さな子どもと交流 9 海外の人との交流 10 地域の大人との交流 11 特に参加したいと思わない 12 その他（ ）	
17	あなたが学校外の活動で参加したり関わったりしてみたいもの、またはしてみたいものを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 地域の祭りやイベントの手伝いをしたい 2 地域の祭りやイベントを考えるとところから参加したい 3 ボランティア活動（ゴミ拾い、募金活動、清掃活動など）に参加したい 4 高齢者や小さな子どものお世話や交流活動をしたい 5 地域の活動や習い事でリーダーなど責任ある役割を果たしたい 6 朝来市や地域の会議（地域について話し合う場）などに参加したい 7 特に参加したいと思わない 8 その他（ ）	
18	「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者をヤングケアラーといいます。）	単解答： 1つに○	1 聞いたことがあり、内容も知っている 2 聞いたことはあるが、よく知らない 3 聞いたことはない	○

19	あなたの状況について、あてはまるものをお選びください。 ※ヤングケアラーの具体例のイメージが分かりやすいように挿絵を入れる。	複数回答： すべてに○	1 障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている 2 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている 3 障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている 4 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている 5 日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている 6 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている 7 アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している 8 がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている 9 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている 10 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11 自分にあてはまるものはない 12 その他（ ）	○
20	(No.19で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、経験したことがあることを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 学校を休んでしまう 2 遅刻や早退をしてしまう 3 宿題など勉強する時間がない 4 眠る時間が足りない 5 友だちと遊ぶことができない 6 習い事ができない 7 自分の時間が取れない 8 体力的に疲れている 9 心に余裕がない 10 その他（ ） 11 特にない	
21	(No.19で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、大変さを感じていますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
22	(No.19で1～10,12を選択した方のみ) あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。	単解答： 1つに○	1 ある 2 ない	
23	(No.22で1を選択した方のみ) 誰に相談しましたか。	複数回答： すべてに○	1 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい） 2 親戚（おじ、おばなど） 3 友だち 4 学校の先生 5 保健室の先生 6 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー 7 病院・医療・福祉サービスの人 8 近所の人 9 SNS上での知り合い 10 その他（ ）	

24	現在、悩んだり困っていることはありますか。	複数回答： すべてに○	1 友人との関係のこと 2 学業成績のこと 3 進路のこと 4 部活動のこと 5 学費など学校生活に必要なお金のこと 6 塾や習いごとができない 7 家庭の経済的状況のこと 8 自分と家族の関係のこと 9 家族内の人間関係のこと（両親の仲がよくないなど） 10 病気や障がいのある家族のこと 11 自分のために使える時間が少ない 12 悩んだり困っていることはない 13 その他（ ）	
25	（No.19で1～10,12を選択した方）または （No.24で1～11を選択した方） 差し支えなければ、お名前を教えてください。 ※相談したい方は必ず書いてください。秘密は必ず守りますので、ご安心ください。	自由記述		
26	あなたは、人生において結婚は重要だと思いますか。	単解答：1 つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
27	あなたは、どんな結婚に向けた出会いの場が望ましいと感じますか。	複数回答：3つまで○	1 友人・知人の紹介 2 職場や学校 3 趣味やサークル活動 4 地域活動・ボランティア活動 5 SNSやオンラインコミュニティ（趣味や共通テーマの場） 6 婚活イベント 7 マッチングサービス（アプリ／サイト） 8 わからない、イメージできない 9 その他（ ）	
28	現在、あなたはどの程度幸せだと感じていますか。	10段階	0 とても不幸 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても幸せ	○
29	あなたは、以下の項目について、どのように感じていますか。 1 やりたいこと（趣味・学び・活動など）がある 2 やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行など）している 3 日々の暮らしで生きがいを感じている 4 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる 5 頼れる人（家族・友人・地域の人など）がいる 6 自分の居場所や役割がある（家庭・地域など）	5段階	1 ない 2 3 4 5 ある	○

30	あなたは、朝来市はこどもに優しいまちだと感じますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
31	あなたが、こどもに優しいまちだと感じる条件はなんですか。	複数回答： 3つに○	1 子どもに関する施策について、適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある 2 困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある 3 有害及び危険な環境から守るための安全な環境がある 4 子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある 5 子どもが地域行事へ参加し、ともに活動できる環境がある 6 地域でのつながりがあり、子どもを地域で育むことを大切にしている 7 子どもが安心して容易に相談できる体制がある 8 育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている 9 質の高い保育施設や教育を受けることができる 10 その他（ ）	
32	最後に、あなたがまわりの大人の人に対して伝えたいことがあれば、自由に書いてください。 (困っていること、家族にしてほしいこと、学校の先生に伝えたいこと、朝来市(市役所)にしてほしいことなど)	記述		

朝来市こども・若者意識調査（16～39歳調査票） 設問項目

No.	設問	解答方式	選択肢	必須
1	あなたの性別を教えてください。	単解答： 1つに○	1 男性 2 女性 3 その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	○
2	あなたの年齢（令和8年3月31日現在）を教えてください。	単解答： 1つに○	1 16～18歳 2 19～22歳 3 23～24歳 4 25～29歳 5 30～34歳 6 35～39歳 7 答えたくない	○
3	あなたのお住まいの地域をお答えください。	単解答： 1つに○	1 生野地域 2 和田山地域 3 山東地域 4 朝来地域 5 答えたくない	○
4	あなたの朝来市の居住歴について教えてください。	単解答： 1つに○	1 子どもの頃からずっと朝来市に住んでいる 2 一度朝来市を離れ、また朝来市に戻ってきて住んでいる（Uターン） 3 朝来市外から移住してきた（Iターン） 4 その他（ ）	
5	あなたの現在の学校または仕事について教えてください。	単解答： 1つに○	1 高校生 2 学生（予備校生など、進学のために勉強している人を含む） 3 パート・アルバイト（学生のアルバイトを除く） 4 派遣社員・契約社員・嘱託 5 正規の社員・職員・従業員 6 会社などの役員 7 自営業・自由業 8 家族従業者・内職 9 専業主婦・主夫 10 家事手伝い 11 無職（仕事を探している） 12 無職（仕事を探していない） 13 その他（ ）	○
6	現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。	複数回答： すべてに○	1 父 2 母 3 兄弟姉妹 4 祖父母 5 その他の親戚 6 あなたの配偶者（パートナー） 7 あなたの子ども 8 同居している人はいない（一人暮らし） 9 答えたくない 10 その他（ ）	
7	あなたは、すべてのこどもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。	単解答： 1つに○	1 知っている 2 聞いたことがあるが、内容はよくわからない 3 知らない	○

13	朝来市にどんな「居場所」があったらいいと思いますか。	複数回答： 3つに○	1 静かに勉強や読書ができる 2 友だちとおしゃべりしたり自由に過ごせる 3 話せる・相談できる大人がいる（宿題・進路・仕事など） 4 ドリンクや軽食がある（無料または低価格） 5 Wi-Fi・電源がある（スマホ・PC使用可） 6 本・マンガ・雑誌が充実している 7 クリエイティブな道具（画材、楽器、工作機材）がある 8 スポーツ用具がある・運動ができる 9 音楽や演劇など表現活動ができる 10 ボランティアや地域活動に気軽に参加できる 11 新しい友だちに会える 12 安心して休める（ソファ・仮眠スペースなどがある） 13 プライバシーが守られる（相談室など） 14 開放的で入りやすい雰囲気・予約不要でいつでも利用できる 15 安全対策（身分確認、緊急連絡体制など）がされている 16 オンライン参加が可能である（ハイブリッド方式） 17 居場所は必要ない 18 その他（ ）	
14	「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者をヤングケアラーといいます。）	単解答： 1つに○	1 聞いたことがあり、内容も知っている 2 聞いたことはあるが、よく知らない 3 聞いたことはない	○
15	あなたの状況について、あてはまるものをお選びください。 ※ヤングケアラーの具体例のイメージが分かりやすいように挿絵を入れる。	複数回答： すべてに○	1 障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている 2 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている 3 障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている 4 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている 5 日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている 6 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている 7 アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している 8 がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている 9 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている 10 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11 自分にあてはまるものはない 12 その他（ ）	○
16	（No.15で1～10,12を選択した方のみ） お世話をしていることで、経験したことがあることを選んでください。	複数回答： すべてに○	1 学校や仕事を休んでしまう 2 遅刻や早退をしてしまう 3 宿題など勉強する時間がない 4 眠る時間が足りない 5 友だちと遊ぶことができない 6 習い事ができない 7 自分の時間が取れない 8 体力的に疲れている 9 心に余裕がない 10 その他（ ） 11 特にない	

17	(No.15で1～10,12を選択した方のみ) お世話をしていることで、大変さを感じていますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	
18	(No.15で1～10,12を選択した方のみ) あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。	単解答： 1つに○	1 ある 2 ない	
19	(No.18で1を選択した方のみ) 誰に相談しましたか。	複数回答： すべてに○	1 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい） 2 親戚 3 友人 4 交際相手、配偶者 5 学校の先生、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー 6 職場の人 7 病院・医療・福祉サービスの人 8 近所の人 9 SNS上での知り合い 10 その他（ ）	
20	(No.15で1～10,12を選択した方) 差し支えなければ、お名前を教えてください。 ※相談したい方は必ず書いてください。秘密は必ず守りますので、ご安心ください。	自由記述		
21	あなたは、人生において結婚は重要だと思いますか。	単解答：1 つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
22	あなたは現在、結婚していますか。	単解答：1 つに○	1 結婚している（再婚や事実婚を含む） 2 まもなく結婚する予定 3 結婚していない（離別または死別） 4 結婚していない（結婚したことがない） 5 わからない・答えたくない	○
23	(No.25で3,4選択した方のみ) あなたが現在、結婚していない理由で、あてはまるものをお選びください	複数回答： すべてに○	1 まだ結婚するには早いと思う 2 仕事や学業に専念したい 3 趣味や娯楽を楽しみたい 4 結婚していない方が自由で気楽である 5 結婚する必要性を感じない 6 適当な相手にめぐり会えない 7 異性とうまく付き合えない 8 結婚資金や、結婚後の生活に経済的な不安がある 9 親の介護など、家庭の事情がある 10 親や周囲の人が結婚に同意しない 11 こどもを欲しいと思わない 12 その他（ ）	
24	あなたは、どんな結婚に向けた出会いの場が望ましいと感じますか。	複数回答： 3つまで○	1 友人・知人の紹介 2 職場や学校 3 趣味やサークル活動 4 地域活動・ボランティア活動 5 SNSやオンラインコミュニティ（趣味や共通テーマの場） 6 婚活イベント 7 マッチングサービス（アプリ／サイト） 8 わからない、イメージできない 9 その他（ ）	

25	あなたが理想とする（可能なら持ちたいと思う）お子さんの数は、今いるお子さんも含め、全部で何人ですか。	単解答：1つに○	1 1人 2 2人 3 3人 4 4人 5 5人以上 6 子どもを持つつもりはない	
26	あなたは今後、理想とする数のお子さんを持てると思いますか。	単解答：1つに○	1 すでに持てている 2 持てると思う 3 どちらかといえば、持てると思う 4 どちらかといえば、持てると思わない 5 持てると思わない 6 子どもを持つつもりはない	○
27	（No.26で4・5・6を選択した方のみ） 理想とする数のお子さんを持てそうにない、または持つつもりがないと思う理由をお答えください。	複数回答：3つに○	1 子育てや教育にお金がかかりすぎるから 2 仕事と子育ての両立が難しいから 3 子どもがのびのび育つ環境ではないから 4 自分や夫婦の生活を大切にしたいから 5 年齢的に妊娠・出産が難しいから 6 育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから 7 健康上の理由から 8 夫婦で協力して家事・育児を行うことが難しいから 9 配偶者の意向を尊重して 10 ほしいけれどもできないから 11 保育所・こども園や子育て支援サービスが十分でないから 12 不妊治療等に対する助成が十分でないから 13 結婚する予定がないから 14 その他（ ）	
28	（No.5で3・4・5・6・7・8を選択した方のみ） あなたの職場では、育児休業制度や子育てをしながら働くことができる制度が整っていると思いますか。	単解答：1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
29	（No.5で3・4・5・6・7・8を選択した方のみ） あなたの職場では、育児休業を取得したり、子育てをしながら働くことができる環境だと思いますか。	単解答：1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
30	（No.29で3・4を選択した方のみ） 育児休業の取得をしたり、子育てをしながら働くことができる環境だとは思わない理由をお答えください。	複数回答：2つに○	1 制度が整っていない 2 育児休業に対する理解不足などの職場の文化・風土 3 人手不足や業務の引継ぎが難しいなど代わりに対応できる人材がいない 4 育児休業中の収入の減少に対する不安 5 昇進や評価に対する懸念などキャリアの不安 6 その他（ ）	
31	あなたは、地域等の活動で、次のことで負担を感じたことがありますか。 1 男女の役割の固定化 2 家族構成（小さなこどもがいて動きづらい状況がある等）への配慮がない。	5段階	1 ない 2 3 4 5 ある	

32	現在、あなたはどの程度幸せだと感じていますか。	10段階	0 とても不幸 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても幸せ	○
33	あなたは、以下の項目について、どのように感じていますか。 1 やりたいこと（趣味・学び・活動・仕事等）がある 2 やりたいことに向けてチャレンジ（準備・実行等）している 3 日々の暮らしで生きがいを感じている 4 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる 5 頼れる人（家族・友人・地域の人等）がいる 6 自分の居場所や役割がある（家庭・地域・職場等）	5段階	1 ない 2 3 4 5 ある	○
34	あなたは、朝来市はこどもに優しいまちだと感じますか。	単解答： 1つに○	1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	○
35	あなたが、こどもに優しいまちだと感じる条件はなんですか。	複数回答： 3つに○	1 子どもに関する施策について、適切な情報提供がされ、子どもが意見表明や参加する機会がある 2 困難を有する子どもと家庭に対し必要な支援がある 3 有害及び危険な環境から守るための安全な環境がある 4 子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある 5 子どもが地域行事へ参加し、ともに活動できる環境がある 6 地域でのつながりがあり、子どもを地域で育むことを大切にしている 7 子どもが安心して容易に相談できる体制がある 8 育児と仕事の両立がしやすい体制が整っている 9 質の高い保育施設や教育を受けることができる 10 その他（ ）	
36	最後に、あなたがまわりの大人の人に対して伝えたいことがあれば、自由に書いてください。 （困っていること、家族にしてほしいこと、朝来市(市役所)にしてほしいことなど）	記述		

朝来市こども計画策定に係る朝来市こども・若者意識調査 調査結果報告書

発行日：令和8年4月

発 行：朝来市

編 集：朝来市こどもみらい部子育て支援課

〒669-5267 兵庫県朝来市和田山町法興寺 378 番地 1

TEL079-666-8103 FAX079-672-5369
